

用語祝詞作文集成

187
358

014528-000-4

187-358

祝詞作文集成(用語作例)

神崎 一作/編

M38

ABB-0912



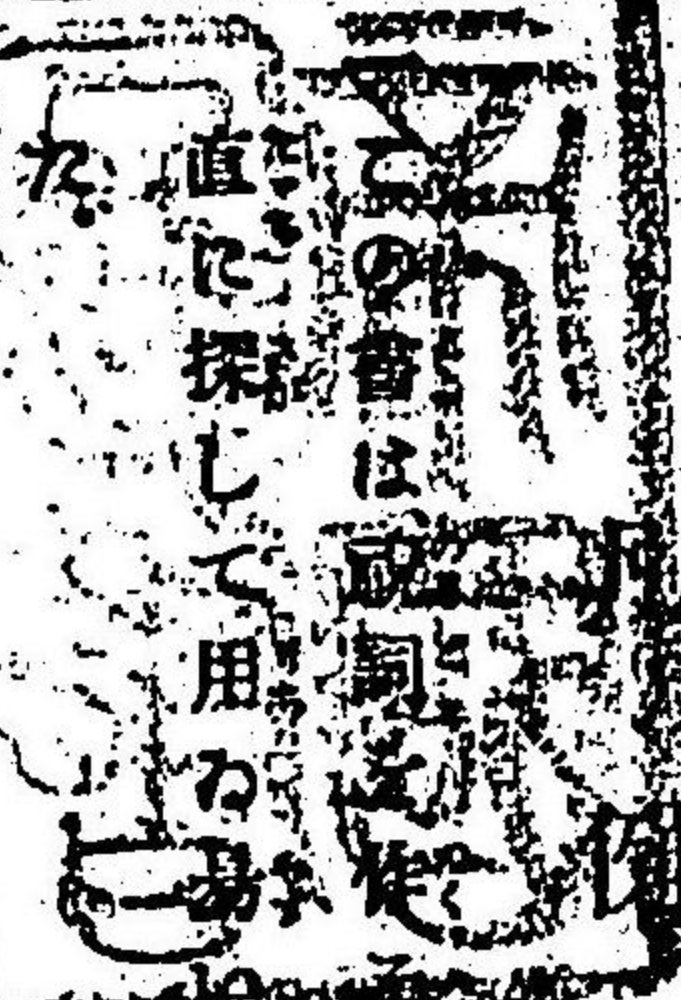
用 語
作 例

祝 詞 作 文 集 成

全

187
258

27. 9. 30



便利を圖つて、作例と用語とを多く集め、用語は類を分けて、明
直に探して用ひ易いやうにし、又その下には、成るべく分り易いやうに解釋を

用語と解釋とを別々させるやうに、用語の頭に▲の符号をつけ、解釋の處には(解
の符号を附す)とした。

一用語は、一定の順序によつて、その句と句とを續けて行けば、自ら章をなし、纏まつ
た文を作られるやうに組立てた。而して、各用語の上に記してある一二の符号は、
その順を示したのである。それ故、一の符号の用語は、何れの處から取つても、意味
さへ續けば、その次へ直に何れかの二の符号の用語を取つて、續合して宜い例へ
ば、四方拜の用語一の此乃神床、齋比、鎮米、座勢、奉禮、留の次へ、同用語二の言麻久
毛、綾、用、畏、支、を續け、又その次へ、同用語三の某大神、止、稱、言、竟、奉、留と續ければ、次第
に一の文章となる。この例によつて、元始祭用語と、神嘗祭用語と、大殿祭用語と、綴
合しても、素より差支はない。この便利の爲めに、数字の符号と、索引とを設けたの

凡例

である。

一用語の解釋は前に省いて後に精しく、又前に精ければ後には畧したのもある。而して文章の体裁が一定せず、至極拙いものも成るべく簡便を主としたからである。

一文例の終には、大抵の引用した原書の名を記して在るが、時には原文の所々を抄略したのもある。又作者及原書の何の巻といふ精しいことを記すことの出來ないのがあるのは、甚遺憾である。鬼に角これ等のことから生じた據ないことは、原作者及讀者に對して、豫め謝して置く。

一用語を探し出す爲めに、附けて置いた索引の見出しの語句は、語も成さず、最も拙いやうではあるが、成るべくその範圍に適當した語を以て、探索に都合のよいやうにした。

一索引中四ノ一とあるのは、四方拜用語欄の頭に一の符号のあるをいふので、祈年ノ二は、祈年祭用語欄中二の符号のあるのを指すのである。他はこの例によつて、頁數と見合せれば、大抵は分ることと思ふ。

編者識す

◎目次

大祭祝日祝詞

- 四方拜祝詞……………一頁
- 元始祭祝詞……………八頁
- 孝明天皇祭祝詞……………十二頁
- 紀元節祝詞……………十六頁
- 春季皇靈祭祝詞……………十九頁
- 神武天皇祭祝詞……………二十二頁
- 秋季皇靈祭祝詞……………二十六頁
- 神嘗祭祝詞……………二十八頁
- 天長節祝詞……………三十二頁
- 新嘗祭祝詞……………三十五頁

諸祭祝詞

- 産土神大祭祝詞……………三十九頁
- 同 月祀祝詞……………四十五頁

- 教會例祭祝詞..... 四十七頁
- 同月並祭祝詞..... 五十頁
- 降神詞..... 五十三頁
- 昇神詞..... 五十五頁
- 祓 詞..... 五十六頁
- 開扉祝詞..... 五十七頁
- 閉扉祝詞..... 五十九頁
- 地鎮祭祝詞..... 六十頁
- 上棟祭祝詞..... 六十二頁
- 社殿神社落成奉告祭祝詞..... 六十六頁
- 社殿神社造營奉告祭祝詞..... 七十頁
- 假遷宮本殿祭祝詞..... 七十二頁
- 假遷宮假殿祭祝詞..... 七十四頁
- 正遷宮假殿祭祝詞..... 七十六頁
- 正遷宮本殿祭祝詞..... 七十九頁
- 致祖祭祝詞..... 七十九頁

諸祈願祝詞

- 祈年祭祝詞..... 八十四頁
- 祈雨祭祝詞..... 八十八頁
- 祈晴祭祝詞..... 九十頁
- 祈病氣平癒祝詞..... 九十三頁
- 祈家內安全祝詞..... 九十七頁
- 祈旅行安全祝詞..... 九十九頁
- 祈海上安全祝詞..... 百一頁
- 祈大漁滿足祝詞..... 百四頁
- 祈酒造安全祝詞..... 百六頁
- 祈武運長久祝詞..... 百九頁
- 戰勝祈願祭祝詞..... 百十頁
- 戰捷祝賀祭祝詞..... 百十八頁
- 祈安產祝詞..... 百二十八頁
- 平產報賽祝詞..... 百三十頁
- 初宮詣祝詞..... 百三十二頁
- 結婚式祝詞..... 百三十四頁
- 葬儀靈祭詞..... 百三十七頁
- 誄 辭..... 百三十七頁

- 終祭詞.....百四十六頁
- 移靈祭詞その一.....百五十頁
- 同　　　　　その二.....百五十六頁
- 發葬祭詞.....百六十頁
- 埋葬祭詞.....百六十二頁
- 戰(病)死者葬祭詞.....百七十二頁
- 歸家祭詞.....百七十四頁
- 十日祭詞.....百七十八頁
- 二十日祭詞.....百八十一頁
- 三十日祭詞.....百八十四頁
- 四十日祭詞.....百八十五頁
- 五十日祭詞.....百八十八頁
- 百日祭詞.....百九十頁
- 一年祭詞.....百九十三頁
- 三年祭詞.....百九十六頁
- 祖靈祭詞.....百九十九頁
- 改葬祭詞.....

目次終

用語索引一 (大祭祝日、諸祭、諸祈願の部)

◎發端拜詞句

- 祭神を表す詞 四ノ二(二頁) 孝ノ二(十二頁) 春ノ二(二十頁) 神武ノ二(廿二頁) 元ノ一(三十二頁) 地ノ一(六十頁) 戰祈ノ一(百十頁)
- 神の御前を稱へ奉る詞 四ノ三(二頁) 同十四(三頁) 元始ノ二(九頁) 春ノ二(二十頁)
- 神武ノ一(二十二頁) 神嘗の三(廿九頁) 天ノ一(三十二頁) 新嘗ノ一(三十五頁) 戰祈ノ一(百十一頁)
- 神の御名を稱へ奉る詞 四ノ三(二頁) 紀ノ三(十六頁) 祓詞ノ一(五十五頁) 上棟ノ一(六十頁) 落成ノ一(六十八頁) 新年の二(八十四頁) 造酒ノ一(八十四頁)
- 神社の構造に関する詞 元始ノ一(九頁) 神嘗ノ一(二十八頁) 新嘗ノ一(三十五頁)
- 神社及教會の所在に関する詞 元始ノ一(九頁) 神武ノ一(廿二頁) 秋皇ノ一(二十六頁) 神嘗ノ一(廿八頁) 產大ノ一(三十九頁) 新年ノ一(八十四頁)
- 齋場及遙拜所に關する詞 四ノ二(二頁) 紀ノ一、同二、孝ノ五(十三頁) 春ノ二(二十頁) 神武ノ四、同五(廿三頁) 神嘗ノ三(廿九頁) 祈海ノ一(百一頁) 祈漁ノ一(百四頁) 戰祈

ノ(百十一頁)

●神及び神社等に關する敬語 四ノ二(二頁) 元始ノ二(九頁) 神嘗ノ二(廿八頁)

●神徳を稱へ奉る詞 四ノ三(二頁) 紀ノ四(十六頁)

●結句 四ノ四(二頁) 元始ノ二(九頁) 紀ノ三(十六頁) 春ノ二(二十頁)

●發端拜詞句略詞 孝ノ一(十二頁) 紀ノ三、同六(十六、十七頁) 神武ノ一(廿二頁) 秋皇ノ

一(廿六頁) 效月ノ一(四十五頁) 效祖ノ一(七十九頁)

◎由縁句

●當日祭祀の由縁についで 四ノ十二、同十三(三頁) 孝ノ二、同四(十二、十三頁) 紀ノ四、同

五十七頁 神武ノ二、同三(廿三頁) 神嘗ノ二(廿八頁) 天長ノ三(三十三頁)

●天皇の御上を申す詞 四ノ五(二頁) 孝ノ三(十二頁) 戰祈ノ三(百十三頁)

●聖旨を奉戴する意を表す詞 四ノ十二(三頁) 孝ノ三(十二頁)

●聖上御敬神の御勤に關する詞 四ノ至千一(二頁) 孝ノ三(十二頁) 春ノ一(十九頁) 神武

ノ二(廿二頁) 秋皇ノ一(廿六頁) 神嘗ノ二(廿八頁) 天ノ三(卅二頁)

●朝廷の御祭典に關する詞 四ノ七(二頁) 孝ノ三(十二頁) 春ノ一(十九頁) 神武ノ二(廿

二頁) 秋皇ノ一(廿六頁)

●恒例の意を表す詞 四ノ十二(三頁) 産ノ二(三十九頁)

●年始の詞 四ノ十三(三頁) 元始ノ三(九頁)

●吉日を表す詞 春ノ一(十九頁) 天長ノ二(卅二頁) 新嘗ノ一、同三(三十六頁) 産大ノ二(

三十九頁) 效月ノ二(四十五頁) 結婚ノ三(百三十五頁)

●時刻を表す詞 四ノ十三(三頁) 同四十九(七頁) 元始ノ三(九頁) 春ノ一(十九頁)

●裝飾を表す詞 神嘗ノ三(廿九頁) 效大ノ二(三十九頁)

●結詞 四ノ十二(三頁) 孝ノ四(十三頁) 紀ノ六(十七頁)

◎献供句

●潔齋の意を表す詞 元始ノ三(九頁) 紀ノ一(十六頁) 産大ノ二(三十九頁)

●若水を献する詞 四ノ十五(三頁)

●絹布及楯矛を献する詞 産大ノ二、同三(四十頁) 正本ノ三(七十八頁) 祈年ノ七八十六頁

●御酒を献する詞 四ノ十六(三頁) 元始ノ三(九頁) 新嘗ノ二、同三(三十六頁)

●餅及稻を献する詞 四ノ十七、同十八、同十九(四頁) 元始ノ三(九頁) 新嘗ノ二、同三(三十六

頁) 祈年ノ六(八十六頁)

●鳥獸菜菓物等を献する詞 四ノ至三十四(四頁) 元始ノ三(九頁) 新嘗ノ三(三十六頁)

- 献儀の形容詞 四ノ十八(四頁) 同廿五(四頁) 元始ノ三、同四(九、十頁)
- 号納を請申す詞 四ノ至廿八(五頁) 元始ノ四、同五(十頁) 天長ノ四(卅三頁) 新嘗ノ二、同三(三十六頁) 産大ノ四(四十一頁) 開扉ノ四(五十七頁) 上棟ノ五(六十三頁)
- 献饌略詞 孝ノ五(十三頁) 紀ノ七(十八頁) 神武ノ六(廿三頁) 天長ノ四(三十三頁) 新嘗ノ二、三(三十六頁) 産月ノ二(四十五頁) 正本ノ三(七十八頁) 祈年ノ二(八十五頁) 教祖ノ五(八十頁) 勝祝ノ七(百廿三頁)
- 祭典の趣旨に關する詞
- 神徳用語 四ノ至三十九(五頁) 孝ノ五(十三頁) 紀ノ七(十八頁) 教月ノ至四(四十六頁) 開扉ノ二(五十七頁) 上棟ノ四(六十三頁) 祈年ノ一(八十五頁) 祈加ノ三、同四(百頁) 教祖ノ三四(八十頁) 教祖ノ七、同九、同十(八十一頁)
- 報賽表語 上棟ノ至五(六十三頁) 落成ノ四(六十九頁) 初宮詣ノ三(百三十二頁)
- 文明を表す詞 四ノ三十三(六頁) 春ノ三(二十頁)
- 太平を頌する詞 四ノ三十四(六頁)
- 日露戦争に關する詞 戰祈至七(自百十一至百十五頁) 勝祝ノ至七(自百十九至百廿一頁)
- ◎ 祈願句

- 大御代に關する詞 四ノ至三十三(六頁) 元始ノ六(十頁) 孝ノ至八(十四頁) 紀ノ八(十八頁) 春ノ三(二十頁) 神武ノ七(廿四頁) 秋皇ノ二(廿六頁) 神嘗ノ六(三十頁) 天長ノ六(三十三頁) 新嘗ノ四(三十六頁) 産大ノ五(四十一頁)
- 國威宣揚に關する詞 四ノ三十四、頁三十五(六頁) 孝ノ至八(十四頁) 春ノ三(二十頁) 神武ノ八(廿四頁) 秋皇ノ三(廿七頁) 神嘗ノ至八(廿九、三十頁) 天長ノ六、同七(三十三、三十四、四十一頁)
- 玉躰に關する詞 四ノ三十六(六頁) 紀ノ八(十八頁) 神嘗ノ六(三十頁) 天長ノ五(三十三頁) 産大ノ五(四十一頁)
- 神道に關する詞 春ノ三、同四(二十頁) 教大ノ五(四十一頁) 教月ノ四、同八(五十二頁)
- 皇位に關する詞 四ノ三十七、同三十八(六頁) 孝ノ六(十四頁) 春ノ三(二十頁) 神武ノ七(廿四頁) 秋皇ノ二(廿六頁) 産大ノ五(四十二頁) 教月ノ七(五十三頁) 戰祈ノ三(百十三頁)
- 皇族初め一般國民に關する詞 四ノ三十九、同四十(六頁) 元始ノ七、同八(十頁) 紀ノ九(十八頁) 春ノ四(二十一頁) 神武ノ八(廿四頁) 秋皇ノ三(廿七頁) 神嘗ノ七(三十頁) 天長ノ八(三十四頁) 新嘗ノ四(三十六頁) 産大ノ六、同七(四十二頁) 産月ノ三、同四(四十三頁)

六頁

- 國富及産業に関する詞 四ノ四十三(七頁) 元始ノ八、九(十頁) 春ノ四(廿一頁) 秋皇ノ三(廿七頁) 神嘗ノ八(三十頁) 新嘗ノ五(三十七頁) 産大ノ七(四十二頁) 新年ノ五(八十五頁) 祈雨ノ五、同六(八十八頁) 祈晴ノ至四(自八十九至九十頁) 祈酒ノ三、同四(百七十五頁)
- 氏子信徒に関する詞 四ノ至四十三(七頁) 新嘗ノ六(三十七頁) 産大ノ七(四十三頁) 祈雨ノ二、三(八十七頁)
- 個人に関する詞 祈家安ノ至四(百廿八頁) 祈病癒至五(九十四頁) 祈旅ノ二、同四(百頁) 祈海ノ一(百一頁) 祈漁ノ二、同三(百四頁) 祈酒ノ三、四(百七頁) 祈武ノ至五(百九頁) 祈産ノ二、同三(百二十八頁) 賽産ノ三(百三十頁) 初宮ノ四(百三十三頁) 結婚至五(百三十五頁)
- 祭典上の希望について 四ノ至四十八(七頁) 天長ノ九(三十四頁) 開扉ノ四(五十七頁)
- 開墾建築に関する詞 地鎮ノ二、三(六十頁) 上棟ノ二(六十二頁) 落成ノ二(六十九頁) 造告ノ二(七十一頁)
- 宮殿破損奉告詞 假本ノ二(七十三頁) 假々ノ二(七十五頁)

- 事業開始について 造告至五(七十一頁) 假本ノ二、同三(七十三頁) 假々ノ二(七十五頁) 造酒ノ二(百七頁)
- 殿舎家屋の守護について 地鎮三、同四(六十頁) 上棟ノ六(六十四頁) 大殿ノ至五(六十六頁) 落成ノ三(七十頁)
- 遷宮詞 假本ノ四(七十四頁) 假々ノ二(七十五頁) 正假三、同四(七十六頁) 正本ノ二、同三(七十七頁)
- 殿舎家屋の落成 上棟ノ四(六十三頁) 落成ノ三(六十九頁) 正假ノ二(七十六頁) 正本ノ二(七十七頁)
- 日露戦争に関する詞 戦祈至七(自百一十一至百十五頁) 戦祝至六(自百二十至百廿二頁)
- 祈願略詞 新嘗ノ三(三十六頁) 初宮詣四(百三十二頁)
- 結尾拜詞句
- 祭典の光景を表す詞 四ノ至五十二(七頁)
- 結句 四ノ五十一、同五十二(七頁) 春ノ四(二十頁) 神嘗ノ八(三十頁) 天長ノ九(三十四頁) 新嘗ノ六(三十七頁) 地鎮ノ五(六十頁) 祈旅ノ六(百頁) 祈漁ノ四(百四頁) 戦祈九(百十六頁) 勝祝八(百二十四頁)

●天社國社に関する詞 四ノ十一(二頁) 天津神國津神四ノ十四(三頁) 地主神地鎮ノ一(六十頁) 土神地鎮ノ一(六十頁) 井神地鎮ノ一(六十頁) 門神地鎮ノ一(六十頁) 工匠神上棟ノ一(六十三頁) 家屋ノ神大殿ノ一(六十六頁) 五穀ノ神祈年ノ一(八十五頁) 雨神祈雨ノ一(八十八頁) 祈晴ノ一(九十頁) 旅神祈旅ノ一(百頁) 漁神祈漁ノ一(百四頁) 酒神祈酒ノ一(百七頁) 夫婦神結婚ノ一(百三十五頁)

用語索引 二 (葬儀靈祭の部)

●發端拜詞句 誄一ノ一(百三十八頁) 終一(百四十六頁) 埋一(百六十頁) 歸祭二(百七十二頁) 十日祭ノ一(百七十四頁) 二十日祭ノ一(百七十八頁) 四十日祭ノ一(百八十三頁) 五十日祭ノ一(百八十五頁) 祖靈祭ノ一(百九十七頁) 日露戰死者祭一(百六十二頁) 幼少男女に關する詞 誄一ノ三(百三十八頁) 同三ノ二(百三十九頁) 發四ノ一(百五十七頁) 百日祭一ノ二(百八十八頁) 一年祭ノ二(百九十一頁) 感嘆詞 誄ノ一(百三十八頁) 同七(百四十頁) 移一、同三(百五十頁) 三移一、同二(百五十四頁) 尊稱詞 終二(百四十七頁) 性質表す詞 誄ノ二(百三十八頁) 終二(百四十七頁) 日露戰病死者祭二(百六十二頁)

●官職事蹟八望 誄三ノ一(百三十九頁) 同五ノ一、同二(百四十頁) 終二、同三(百四十七頁) 發一ノ二(百五十六頁) 日露戰病死者祭二(百六十三頁) 病臥中の状態 誄六(百四十頁) 移三(百五十一頁) 發二(百五十六頁) 埋二ノ一(百六十七頁) 最後の状態 終四(百四十七頁) 發二、同三(百五十六頁) 十日祭ノ二(百七十五頁) 哀悼 誄至九(百四十二頁) 移ノ一、同二(百五十頁) 發一ノ二(百五十六頁) 同六(百五十七頁) 二十日祭二(百七十九頁) 三十日祭二(百八十一頁) 三年祭一(百九十三頁) 日露戰死者祭二、同三(百六十三頁) 生前の嗜好 誄八ノ三(百四十二頁) 發一ノ二(百五十六頁) 三十日祭二(百八十一頁) 百日祭二(百八十八頁) 遺族の愁狀 誄九(百四十二頁) 移ノ二(百五十五頁) 發七(百五十八頁) 十日祭ノ三(百七十五頁) 百日祭ノ三(百八十九頁) 移 誄九、同十(百四十二頁) 終七(百四十八頁) 移三、同四(百五十一頁) 二移ノ三(百五十五頁) 奉葬裝飾 誄十(百四十二頁) 終八(百四十八頁) 埋二ノ二(百六十頁) 誄三(百七十二頁)

●奉送の光景 誅十一(百四十三頁) 終八(百四十八頁) 發七(百五十八頁) 埋三ノ一(百六十頁) 歸二(百七十二頁)

●亡靈の前途 終六(百四十八頁) 發五(百五十七頁)

●經過表語 十日祭ノ二(百七十五頁) 二十日祭ノ二(百七十九頁) 三十日祭ノ一(百八十一頁) 頁) 五十日祭ノ三(百八十五頁) 百日祭ノ一(百八十八頁) 一年祭ノ一(百九十頁) 三年祭ノ一(百九十三頁)

●亡人を惜む詞 誅一ノ四(百三十八頁) 同八ノ二(百四十二頁) 發四ノ二、同六(百五十七頁) 埋二ノ一(百六十頁) 歸二(百七十二頁) 十日祭ノ二(百七十五頁) 二十日祭ノ二(百七十九頁) 九頁) 三十日祭ノ二(百八十一頁) 四十日祭ノ一(百八十三頁) 五十日祭ノ二(百八十五頁) 百日祭ノ二(百八十八頁) 一年祭四(百九十一頁) 三年祭一、同三(百九十四頁)

●季候表語 發五(百五十七頁) 十日祭ノ三(百七十五頁) 二十日祭ノ一(百七十八頁) 三十日祭ノ二(百八十一頁) 百日祭ノ一ノ一(百八十八頁) 一年祭一、同二(百九十頁)

●齋場表語 埋一(百六十頁) 歸一(百七十二頁) 十日祭ノ一(百七十四頁) 五十日祭ノ一(百八十五頁) 三年祭ノ二(百九十四頁) 祖二ノ二(百九十七頁)

●靈祭表語 歸四(百七十三頁) 十日祭ノ四(百七十五頁) 二十日祭ノ三(百七十九頁) 三十日祭ノ三(百八十一頁) 四十日祭ノ二(百八十四頁) 三年祭ノ二(百九十四頁) 祖二ノ一(百九十七頁)

●獻供句 終五(百四十七頁) 埋二ノ二(百六十頁) 埋三ノ三(百六十頁) 歸五(百七十三頁) 二十日祭三(百七十九頁) 三十日祭ノ三(百八十一頁) 四十日祭ノ二(百八十四頁) 五十日祭ノ四(百八十六頁) 百日祭ノ三(百八十九頁) 一年祭ノ五(百九十二頁) 祖ノ三(百九十七頁)

●祈願句 移五(百五十一頁) 歸六(百七十三頁) 十日祭ノ五(百七十六頁) 五十日祭ノ四(百八十六頁) 一年祭ノ五(百九十二頁) 三年祭四(百九十四頁) 祖四(百九十七頁)

●結尾拜詞句 誅十一(百四十三頁) 終八(百四十八頁) 發八(百五十八頁) 埋三ノ一、同三ノ二(百六十頁) 歸六(百七十三頁) 十日祭ノ五(百七十六頁) 二十日祭ノ三(百七十九頁) 三十日祭ノ三(百八十二頁) 百日祭ノ三(百八十九頁) 一年祭ノ五(百九十二頁) 三年祭ノ四(百九十四頁) 祖ノ五(百九十七頁) 日露戰死者祭ノ四(百六十五頁)

用語索引終

用器祝詞集成

大祭祝詞

四方拜祝詞(用語及解釋)

中神垣崎孝一雄作編述

◎(一)此能里乃宇夫須那神止持齋伎仕奉禮留(解)宇夫須那神とはろの土地に本か
 ら鎮座すその地の生神である通じて解けば此の里の産土神として御神徳
 を奉り神祭仕奉りある。▲此乃神床爾齋比鎮米座勢奉禮流(解)この神床に鎮
 め座さしめ奉る。▲此乃教會乃與乃真床爾鎮麻里坐寸(解)この教會の與の清淨な
 る神床に鎮座し給ふ。◎(二)掛方久母忍伎(解)言の端にかけて言はんも畏多き▲言
 麻久毛綾爾畏支(解)意義上に同じ▲挂麻九波長那禮村(解)ことばにて申上ぐるは
 恐われど◎(三)某大神止御名波申豆(解)吾産土神又は教會にて崇め奉る神の御名
 は何々と申て▲某大神止稱言竟奉留(解)何の命何々大神と御神徳を稱讚して嚴
 重なる神祭仕奉る。▲吾大神乃大前爾(解)意義同上▲某乃皇神等乃廣前爾(解)意義
 同上但大前とか廣前とかいうて大神と直接に御名を呼ばぬのは尊敬の意を表
 して居る又廣前とは二柱以上の神様の御名を呼ぶ時に用うる語である。◎(四)姓

◎四方拜祝詞 用語解釋

名恐英恐英母白佐久(解)何某恐入て申上ぐる▲頸根突抜豆白佐久(解)平伏して申上ぐる▲日爾異爾仕奉留姓名謹見敬比豆白佐久(解)母日奉仕する何某身を謹み御神徳を敬ひて申上ぐる◎(五)現神止大八洲國知食寸天皇波(解)現世に願れて居給ふ神として此の大日本帝國を統へ治め給ふ當今陛下はといふ義大八洲國とは古の日本の國号である▲天神の御子奈賀良天下所知須吾大君波(解)天照皇大神の御嫡孫なるに隨て天下を統御し給ふ今上陛下はといふ意奈賀良は隨に隨々又隨つてといふ義である▲人奈賀良吾天皇波(解)人でない即ち神様と申しす吾が天皇は◎(六)神等乎敬比給布御心深久座麻之豆(解)敬神の御念深く渡らせられまして▲皇神乃徳威乎崇米給布御心厚久座麻志豆(解)意義同上◎(七)常母神祭仕奉利給比部禮軒(解)いづも神祭の事は懈怠り給はね◎(八)朝雨夕奈仁拜麻勢給比部禮軒(解)朝夕拜禮し給へ◎(八)殊更今朝波風米天(解)とりわけ今朝は夙く起き出で給ひて▲今朝波取里別介宇麻亥陀仁爲豆(解)けさは特別に安くも寝給はずに◎(九)寅乃刻變加里具(解)寅の刻限即ち今の午前四時に◎(十)清涼殿乃東階乃庭前兩出幸座志天(解)清涼殿といふ御殿の東階の庭前にいで給ひて▲朝政聞食須殿乃御庭兩出幸加勢給比豆(解)意義同上◎(十一)天津神國津神乎變拜麻勢

給奉(解)天神地祇を拜禮し給ふ▲天社國社及山陵乎モ拜美給奉(解)意義同上◎(十二)故此乃恐友大御心乎頂爾棒持知氏(解)うこで此の恐多伎貴き御心を添く奉獻して▲故是能尊伎大御心能隨爾(解)うこで恐多き天皇陛下の尊き御精神に隨ひ奉りて▲年毎乃例乃隨爾(解)毎年の例に隨つて◎(十三)新志支年乃初乃神祭仕奉留止志豆(解)新年の初御祭を爲るとして▲新志支年乃新志支月能新史貴日乃今日乃朝日乃豊榮登仁(解)朝日乃豊榮登とは朝太陽の豊かに麗に榮えつゝ登るをいふ他は詞の如し▲荒玉乃年立還留初空乃解介支今朝乃初祭爾(解)新年の初空の何となく静なる今朝の樂しき初祭に◎(十四)皇神乃宇豆能御前爾(解)神様の嚴なる御前に▲大神等乃廣前爾(解)廣前の意義前に出でたり▲天津神國津神等乃廣前爾(解)天に坐す神地に坐す神の數多き御前に◎(十五)千代乃若水奉介奉里(解)幾千歳も長壽せむ所の若水を供へ奉り▲年乃初水先獻里(解)新年の初水を第一番に獻り◎(十六)御酒波邊能閉高知瓊乃腹滿並邊豆(解)御酒は瓶子に充滿し又數並べて▲黒支白支乃大御酒(解)色を黒くしたる酒又は醴酒等或は濁酒清酒▲屠蘇酒乎モ取添明矢(解)屠蘇を加へたる酒をも添へて◎(十七)區地無比都搦仕奉留大餅小餅(解)歌を謳うたり又舞ひなせして樂しく搦いて獻

る大小の餅▲雪如す白伎餅鏡乎(解)雪の如く白き餅の御鏡を◎(十八)山如須高久
据重念(解)山の如く高く置き嵩ね▲机撓回(解)机もたわむまで積み累ね
◎(十九)和稻荒稻(解)搗きて白らげたる米又荒の粗ながらの米▲千穎八百穎(解)穎
は稻の藁を去りたるもの即ち稻の穂のことである千八百は其の穂の數多きこ
と◎(二十)山(解)住物波毛乃和物毛能荒物(解)毛乃和物は鳥兔等の如き毛の柔かな
る物をいふ又住の字は動物の意を表はして居る以下同じ◎(二十一)海(解)住平物
波緒乃廣物緒乃狹物(解)緒はヒレのこと緒の大なる物緒の小なる物即ち大魚小
魚のことである◎(二十二)野(解)生布留物波甘菜辛菜(解)甘菜は辛味なき野菜即ち
蘿蔔の類辛菜は辛味ある野菜大根山葵の類をいふ◎(二十三)大海(解)原(解)生布留物
液奥津藻菜邊津藻菜(解)海に生ずる物は昆布とか若布とかといふ意昆布の如き
は海の奥の方に生ずる物であるから奥津藻菜と云ひ若布の如きは海の邊即ち
磯の方にあるから邊津藻菜といふ◎(二十四)時乃木實(解)至留(解)時乃木實例
へば密柑柿等をいふ◎(二十五)横山乃如久置足波志(解)山(解)横はれる如く高く
廣く置充滿させて▲机(解)多(解)置並進(解)齋机即ち神饌案上も澤山に置並べて◎
(二十六)献(解)幣帛乎(解)供へ奉る献物をといふ意ミテグラは充座の義にて置座に

置充たしたる献物をいふ▲供奉(解)種々乃物乎(解)意義同上◎(二十七)安幣帛乃
足幣帛止思召志(解)安らかに聞こし食す満足なる献物と思召し給ひて▲皇神
乃御心(解)平介久聞食(解)神様の御心にも御満足遊ばして◎(二十八)豊明(解)聞
食(解)止(解)申須(解)宇良氣は愉快極まる又此の上なく心うれしく思ふといふ意以
上献儀に關する詞は一見常識をばづれたる詞づかひと思ふ人のあるかも知れぬ
が其は誤謬の見解で古人の此かる詞には確にうれだけの方ある赤心が包含せ
れて居るので献る物其の物の如何に關はらず其の赤心の豊富て居ることを表
白して又その献る物を稱讃へるのが古の例である◎(二十九)如是心安久樂志久
御祭仕奉(解)毛(解)解意義聞てえたるが如し◎(三十)至久大神等乃只一筋(解)解する
の要なし▲是皆大神等乃一向(解)此の語の意義も聞えたり▲皇神等乃御心乎
一爾志(解)解(解)器(解)御力乎協世給比(解)以上四句は次の大君及天皇の句に係る
のである◎(三十一)大君乃所知看須(解)御世幸加(解)止(解)天皇の統治め給ふ御世幸福
にておれかしと▲天皇乃御國穩(解)民安加(解)止(解)國家安穩にておれかしと◎(三
十二)守護利給布恩(解)利(解)且奈利(解)皇神等の庇蔭に依りて安樂に神祭仕奉り

得るのである。▲幸附給布大御心附依里豆奈利解幸福を下し賜はる皇神等の力によりてある。◎三十三斯久且世波日爾時爾移里進美且解斯うして明治の御代は時々刻々に移り進みて、▲日爾月爾人物開化進美且解日進月歩の勢にて、人も事物も進化して◎三十四四海浪靜奈留我天皇乃大御代乎解國家安穩なる明治の大御代を▲内外輝久我日本乃御榮乎解國光内外に輝き渡る大日本帝國の御榮を▲外國人乃仰慕奉禮留我大君乃大御稜威乎解外國人も一向に仰ぎ尊ぶ我天皇陛下の御威徳を◎三十五今母將來モ彌益々爾輝加志米給附解意義開ぬたるが如し▲彌益々爾幸福附給附解畧す▲守護給附解畧す◎三十六天皇乃大御壽波御庭爾植志若竹乃彌若衣爾解天皇の御壽命は門松に副へたる若竹の如くに彌々若くてあらしめ給へ▲彌還若爾御還若座勢解彌々若く若還らしめ給へ◎三十七天津日嗣波千代經牟松乃色能常盤爾解天位は門松の色の常盤なる如く常磐に◎天地日月乃共無動久解天地日月と共に無窮に動き易ることなく◎三十八守護幸附給附解畧す◎三十九親王諸王百官人等天下公民爾至爾傳解親王諸親王の御子達諸官省の總ての官人一般國民に至るまで◎四十守護里惠美幸附給附解畧す◎四十一彌且波大神乃氏子諸人等解とりわけ此里の

氏子諸人等の◎四十二家爾身爾母諸乃枉事無久解家又身に關る諸災難無く◎四十三各々勤美務幸留家業乎彌榮爾榮志米給附解各自が勵み務むる家業を彌々益々榮えさせ給へ◎四十四仕奉波神官等解畧す▲仕奉留教師等解畧す◎四十五過波助佐奴前爾覺其志米給附解過失は過失の事助き起らぬ前に覺らせ給附▲彌波萌左奴前爾退那給比且解彌は災難に罹らぬ前に退け給ひて◎四十六又來牟年乃今日モ猶解來年もやはり同じく▲又來牟年乃初祭モ解來年の四方拜も◎四十七彌幸爾久彌珍其志久解彌々幸福にて彌々珍らしき御祭を▲彌樂志久彌榮衣爾解彌々心樂しく彌々盛大に◎四十八御祭美波志久仕奉其志米給附止解神祭を立派に奉事させ給へ▲神祭殿重爾仕奉其志米給附止解畧す◎四十九陽其加爾登留朝日前春日影解最も陽氣にさし登る朝日の春日影◎木綿垂爾光左志會布初日影解注目繩に垂れたる木綿に新年の太陽の光射す元日の日影◎五十清久樂志支初祭解畧す◎五十一千代又千代止呼布庭雀如須群集比解チヨと呼ぶ庭雀の如く群集ひ▲宇自物頭根突拔且解彌の水を潑くが如く頸を地につけ平伏して◎五十二彌比拜美御祭仕奉其久止白須▲年始乃御祭仕奉其久止白須▲恐美恐美母稱言竟奉其久止白須解稱言竟奉の解前に出

でたり。

元日祝詞(文例)

掛麻久毛、畏支某社爾鎮座須吾皇神乃大前爾千歲將經山松乎佐根古士迺根古士爾志兵五百枝刺小竹刀俱爾御門爾挿立木綿取垂豆端籠乃索引延反新年乃始能朝日乃豐榮登爾齋清米天千世乃若水餅鏡和稻廉稻御酒方白木黒木爾屠蘇酒袁母取並豆奉留雜々袁大御心母宇良宜豐明爾所聞食豆天日嗣八月乃共無動久恒母奉祈天皇命乃大御壽袁足長乃大御命刀堅磐爾常磐爾幸奉利親王諸王諸臣百官人等此郷乃刀禰男女天下四方國乃公民爾至麻傳爾平久安久守福反給反刀頸根突拔豆新年乃初乃稱言竟奉久刀申(神事略上)

元始祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)某乃山下下津磐根爾宮柱太敷立且玉鎮麻里坐(解)何といふ山の麓の下

の磐根に宮柱を太く堅固に敷立て、其の宮に鎮座し給ふといふ意磐根爾宮柱敷立都とは太古の家屋の建立にて古は現今の如く家を建つるに礎石を敷並べて其の上に柱を立つるのでなく地を深く掘りて柱は其所へ突立造つたものである▲某乃川上迺底津磐根爾宮柱太知立高天原爾千木高知豆稱言竟奉流(解)意義前に異ならず底津と下津と同義太敷と太知とも同義である千木は神社の屋根の樫魚木を並べたる兩端に交叉したるVの如き木といふのである神宮及神明造春日造等に有り故に千木無き神社の祝詞には高天原爾千木高知豆の句を畧くのである高知とは高く差出たるをいふ▲此乃里乃底津磐根爾宮柱太敷立高天原爾水木高知豆天之御翳日之御翳止定奉利且稱言竟奉留(解)意義同上水木と千木とは同義天之御翳日之御翳は天を蔽ひ日を覆ふ爲の御殿といふ義◎(二)皇神等乃御前爾恐畏美母白左久(解)は上に出てあり▲掛麻久毛畏支某大神乃大前爾官位姓名良美畏美母白左久(解)こも上にあり◎(三)新支年乃新俊月乃三日能日迺朝日乃豊榮登爾持齋回利清回里且奉留幣帛波某衰弱肩爾太禰取掛豆山志利伊豆志理造仕奉留留餅鏡乎始米且解正月三日の爽快なる早朝に心身を齋清めて奉る献物は私が弱い肩に禰を取掛けて齋清めて造りたる餅鏡を始めて

といふ意。▲年始乃今日乃祭爾大前乎持齋麻波利謹美敬比奉留御食波和稻荒稻
爾御酒波鹽上高知瓊腹滿並互儲乃廣物儲乃狹物與津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜爾
至留麻傳用解解上に出でたり。○四雜々備奉留狀乎解いろく備へ献る有様を
▲置足波志仕奉流事乎解澤山置奉りて神祭仕奉る事を。○五平介久安介久聞食
且解解上に出でたり。▲安幣帛乃足幣帛止平介久安介久所聞食且解こも上に解
けり。○六皇御孫命乃御世乎手長乃大御世止堅磐爾常磐爾茂御世用幸閉給比解
天皇の御世を足長の御世と堅く常へに變らぬ繁盛なる御世とし、幸福あらしめ
給へ。▲天皇乃大朝廷乎始且四方國乎堅磐爾常磐爾守幸閉給比解朝廷を始め、四
方の國を堅く磐の如く常磐の如く守護し幸輻あらしめ給へ。○七阿禮坐半皇子
等乎毛長久平介久謹惠幸閉給比解次々に御出生遊ばす皇子等をも長く平安に
守護り給ひ。○八百官人等公民爾至留麻傳爾伊加志夜具波衣乃如久立築延志米
給倍止白須事乎聞食世止恐美恐美母白須解諸官省の百官人等天下萬民に至る
までに繁茂せる彌木菜の如く立築えさせ給へと申すことを、御高聞御受説下さ
れど、恐れくして申すとの意、伊加志は嚴しにて繁茂の義に用ゐたり、夜具波衣は
彌木菜にて樹木の彌々繁榮するをいふ。○九百姓乃取作其半五穀乎始米且草乃

片葉爾至留麻傳惡風荒水爾不令合給八束穗乃茂穗爾成幸閉給閉止稱言竟奉頁
久止白須解天下百姓の勞作する五穀を始め、あらゆる植物草の片葉に至るまで、
暴風洪水等に遇はしめ給はず、最も長き稻穂の繁茂せる豊饒なる稻穂に成就さ
せ給へと、壯嚴なる御祭仕祭るといふ意、惡風荒水は、暴風洪水等作物を害するも
の八束穗の八は彌にて、幾擱も幾擱もある長き稻穂の義、茂穂は繁茂せる稻穂の
義、成幸布は神達の幸靈にて成就するなり。

元始祭祝詞(文例)

掛卷母恐支某乃大神乃大前爾官位苗字名恐美恐美母白左久年
始乃今日乃祭爾大前乎持齋回利慎敬比奉留御食波和稻荒稻爾
御酒波鹽乃閉高知瓊乃腹滿並互儲乃廣物儲乃狹物與津藻菜邊
津藻菜甘菜辛菜爾至留麻傳爾置足波志且仕奉留事乎平久安久
聞食且天皇乃大朝廷乎始且四方國乎堅磐爾常磐爾守幸閉給比
仕奉留百官人等公民爾至留麻傳爾伊加志夜具波衣乃如久立築
延志米給閉止白須事乎聞食世止恐美恐美母白須。神社祭式

孝明天皇祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)某教會乃某大神止持齋交崇奉利耳日爾異爾尊仕奉禮留皇大神乃大前爾姓名恐美恐美母白左久(解)何々教會の主神何々大神と齋戒潔齋して崇め奉る日に新に尊崇齋祀仕奉りつゝある大神の大きき貴き御前爾姓名恐れくて白すどの意▲掛卷母恐交某乃神社乃稱言竟奉流某大神乃宇豆乃御前爾社司社掌等諸畏美畏美母白左久(解)言端に懸けて申すも畏多き某神社と神徳を稱讚し尊崇め奉りて壯嚴なる神祭仕へ奉る何々大神の嚴肅なる御前に社司社掌等衆庶恐懼して白すといふこと◎(二)一月三十日乃今日波志母(解)一月三十日の今日はマア志は助辭毛は感嘆詞▲今日一月三十日波志毛意義同上語を顛倒したまである▲陸月三十日止云布今日乃生日乃足日波母(解)むつきみうかといふ今日の生々足々の吉日はマア◎(三)掛卷母恐交先天皇 孝明天皇能御祭日爾志有禮(解)言端に懸けて申すも恐多き先帝孝明天皇の御祭日にておればの意志は例の助辭▲大宮中爾志天波恐交天皇賀躬親耳先天皇乃聖靈乃宇豆乃御前爾齋交祭利給波平日爾志阿禮婆(解)宮中にては最も尊く恐多き天皇陛下が躬親ら先帝孝明天皇の聖靈を齋祭り給ふ日であるからといふこと宇豆乃御前の宇豆は嚴肅莊

重なる御前又神聖なる御前の義◎(四)天下國中悉彌遠長久齋比祀祖乃宣給比定米給過留麻々運々(解)天下國中の國民悉く悠遠長久に齋祀し仕奉れど詔布さ給ひ旋給へる大命を遵奉しての意ノリは天皇のおほせ給ふ御言にて大事には詔といひ尋常の小事には教と書くのである▲公民波都止鄙止乃區別無久戸毎爾日章旗插懸志後月輪乃山陵平遙爾拜美奉留隨々(解)國民は都と田舎との區別なく戸毎に日章旗を挿懸して後月輪の山陵を遙拜し奉るによりての意◎(五)此乃教會爾耳毛神籬立氏天後月輪乃山陵平耳遙爾拜美仕奉利兼耳大前爾毛宇豆乃幣帛奉奉里耳請奉耳久波(解)此の教會にても神籬立て遙拜の齋場とし後月輪の山陵を遙拜し又兼て大神の大きき尊き嚴肅なる御前にも珍しき幣帛捧奉りて請奉ることとはの意神籬は神座の義通例齋境とて掃清めたる祭場に挿立てたる神の枝に木綿を附けたるものとて遙拜及降神等に用ふる神座の意山陵平耳の良は助辭宇豆乃幣帛の宇豆は珍貴の義幣帛は献物にて献物の多いこと神饌の置場(即ち神饌案上)に充滿たること充滿座の意である▲此乃齋場爾神籬插榮交御祭奉仕爾依耳廣前爾毛大御饌奉奉里耳畏美畏美母稱言竟奉耳久波意義聞わたるが如し◎(六)先天皇乃神奈賀良耳思保志立志旋給比志大御慮平受繼志

彌張爾張給比萬政知給布天皇我大御伊豆乎以夜益々爾嚴志久存久解先帝孝明
天皇の神の御心のまに、思立ち給ひ捉置き給ひし、大尊御精神を承繼な
され彌々擴張なされて百般の政事を知らせらる、當今陛下の大尊御精神を
を彌々益々嚴しく尊大にの意▲先天皇乃大御心乎御精神止志耳知里給比布支
給布天津日嗣乃大御業乎、巨大久尊久解先帝の大御慮を御精神として知行し給
ひ發布し給ふ、當今陛下の大業を巨大尊大にの意◎七影面乃大國小國乃
極背面乃大縣小縣乃限墜留事無久充足波志米解影面乃大國小國影面は山陽即
ち山のみなみといふことにて、山陽の大小の國々といふことになる、背面は山陰
即ち山のさたといふことにて、山陰の大小の諸縣のこと、國といひ縣といふは、唯
詞を對に文なしたるまでにて、等しく諸縣を指すのである、そこで通じて解けば、
大日本國中大小の縣の悉皆洩れ墜つることなく、富榮を發達進歩して、國力を充
足せしめ給へといふ意である▲今母往前毛彌進達進米給波乎天皇乃大御稜
威乎彌高爾彌嚴志久、天下墜留事無久、國乃悉々氏乃悉皆充足波志米解意義同上
◎八大御代乎手長乃御世乃嚴御世爾堅磐爾常磐爾守里幸閉給閉刀畏美畏美母
白須解天皇の大尊御代を永久満足なる御代の嚴しき御代にし堅固に不動

に守護し幸福あらしめ給へと畏れ、て白上ぐ▲大御代乎嚴御代乃足御代乃
足長乃大御代止堅磐爾常磐爾幸閉給閉止頸根突拔豆恐美恐美母白須解意義同上

孝明天皇祭詞(文例)

掛卷母恐伎某乃神社刀稱言竟奉流某大神乃宇豆乃御前爾祠官
祠掌等諸畏美畏美母白左久一月三十日乃今日波志毛掛卷母恐
伎先天皇孝明天皇能御祭爾志有禮婆天下國中悉彌遠長久齋
比祭禮刀宣給比定米給邊留麻々邇々此乃齋場爾神籬搜榮衣御
祭奉仕爾依豆廣前爾母大御饌擊奉里豆畏美畏美母稱言竟奉良
久波先天皇乃神奈賀良母思保志立志捉給比志大御慮乎受繼志
彌張爾張給比萬政知給布天皇我大御伊豆乎以夜益々爾嚴志久
尊久影面乃大國小國乃極背面乃大縣小縣乃限墜留事無久充足
波志米大御代乎手長乃御世乃嚴御世爾堅磐爾常磐爾守里幸閉
給閉刀畏美畏美母白須(尊辭集)

同遙拜祝詞(文例)

掛卷母畏母、後月輪乃山陵乎、謹美敬比恐美恐美母遙爾拜美奉良久。天津日嗣乃御隆盛乎、神隨毛守里坐氏國中爾荒布留者無久、穰爾靜爾令在給閉刀、畏美畏美母拜美奉留止白(廿九題祝詞作例)

紀元節祝詞(用語及解釋)

◎(一)此乃神床乎殿乃真床登掃清女且解神床は神等を齋ひ祀れる床殿は殿大また壯大珍貴等の義に用られ、此所にては殿めしく清淨神聖なる意に用ゐたのである。真床の眞は稱辭。▲此乃敬壇乎平日與里毛清々志久被清米且解すすがしくは、字の如く清淨なること、他は聞えたらう。▲某乃神社能某乃所乎伊豆能盤境止被清米天(解)盤境は清淨神聖なる兆域の意にて、神籬を挿立て、神座を設くる神祭の場所をいふ。◎(二)神籬建且氏招奉里座奉流(解)神籬は櫛に鏡及木綿を附けたるものにて、神座のごとである。▲遙々爾畝傍乃檀原能大宮仰醫奉利(解)檀原神宮の御前を遙拜し奉り。◎(三)我日本能肇國知志之太御神倭伊波禮彦天皇(大御前乎欽美敬比恐美恐美母白左久)解我日本大帝國を初めて大成し給ひし、

我天皇の御先祖神武天皇の神靈の尊き御前を謹み敬ひ恐れ恐れて白上ぐといふ意。大御祖大御前の大御は共に稱讚辭母は俗語にマアといふ意の感嘆詞肇國知志之は始めて皇國を一統し天位に即きて鴻基を定め給ひしこと。▲皇御祖止天津高御座乃鴻業乎、萬千秋乃長秋爾定米給比耳檀原乃大宮爾天下所知看志之、天皇乃聖靈能大前爾恐美恐美母白左久(解)皇御祖は天皇の御先祖と申すこと。天津高御座乃鴻業は、天下を統治め給ふ天位の大業、他は聞えたるが如し。◎(四)此乃二月十一日乃今日波志毛掛麻久母恐亥皇御祖乃始米且帝位所知食志之日止、中今乃大政乃始爾當利氏座(解)此の二月十一日の今日はまゝ、恐多き皇祖神武天皇の始めて御即位あらせられにし日として、全く現今の大政の始に當りてましませばといふ意。今日波志毛の志は強辭毛は感嘆詞である。▲此乃太祖天皇乃廣支厚支御德乎、重美厚美座且奈毛(解)意は聞えたる如くである。◎(五)此御祭乎興給氏永代乃御典登定給部留任(解)此の紀元節の御祭を復興し給ひて、永久の御典儀と定給へるに依りて、といふ義。▲大御祭興給比耳大御德乎仰賀志米給布仁依利且意義明(解)今此方齋能齋辭乎稱言竟奉其久登奏須(解)齋辭は賀辭祝詞の意、稱言竟奉は、大御德を稱讚奉りて、嚴肅なる神祭奉仕るといふこと。◎(七)禮代乃

春季皇靈祭祝詞 用語解釋

大御食、大御酒、海川山野乃種々能物乎、横山乃如久置足波志、其進留狀乎、平介久安
 介久所聞食且解禮代は字の如く報賽の意、他は上に解きたり。○(八)皇御孫尊乃大
 御壽乎、手長乃大御壽止、湯津磐村乃如久常磐爾、堅磐爾、齋奉利、伊賀志御代爾、幸聞
 給比、解皇御孫尊は、天皇の御事、手長はタリナガの意にて、満足長久、即ち手は假字
 である。湯津磐村は、五百箇磐群と紀にもありて、盛大壯榮の意、常磐堅磐及茂御世
 は、共に上に出でたり。○(九)阿禮座左平皇子等乎、毛惠給比、百官人等、天下四方國乃
 公民爾、至留麻傳、長久平介久、夜守日安爾、護惠美、幸給倍止、恐美、恐美、母白須、解上に
 解き置けり。

紀元節祝詞(文例)

遙々爾、敵傍乃、檀原能、大宮仰、恭奉利、我日本乃、肇國知志之、太御祖、神
 倭伊波禮彥、天皇乃、大御前乎、欽美、敬比、恐美、恐美、母白左久、此乃、二月
 十一日、乃今日、波之毛、掛卷母、恐支、皇御祖乃、始米、天帝位所知、食志之
 日止、中今乃、大政乃、始爾、當利、豆座、婆此乃、太御祖、天皇乃、廣支、厚伎
 德澤乎、重美、辱美、座豆、奈毛、此御祭乎、興給比、且、永代乃、御典、止、定給

倍留任、今此乃、齋酒、壽辭乎、稱辭、竟奉、良久、登奏、須禮代乃、大御食、大
 御酒、海川山野乃、種々能物乎、横山乃、如久、置足、波志、且、進留狀乎、平
 介久、安介久、所聞、食志、皇御孫、尊乃、大御壽乎、手長乃、大御壽止、湯津
 磐村乃、如久、常磐、爾、堅磐、爾、齋奉、利、茂御、世、爾、幸聞、給比、阿禮、坐、平、皇
 子等乎、毛、惠給比、百官人等、天下四方國乃、公民爾、至留、麻傳、長久、平
 介久、守惠、美、幸聞、給比、止、恐美、恐美、母、白須、(神宮明治祭式)

同拜辭(文例)

掛卷母、恐伎、敵傍、檀原、宮爾、天下、知食、志之、
 天皇乃、大靈乃、大前乎、遙爾、拜美、奉良、久止、白須、(神社祭式)

春季皇靈祭祝詞(用語及解釋)

○(一)八、十日、波在、禮、拜、毛、今日、乃、生日、乃、足日、波、天皇、賀、大宮、中、爾、志、且、懼、支、天皇、乃
 躬親、其、行、比、給、比、仕、奉、利、給、布、皇、御、祖、等、乃、御、靈、祭、乃、日、爾、志、阿、禮、婆、(解)八、十日、は、日、と
 八、十日、の、數、知、れ、ず、多、き、こ、と、八、十、は、數、に、限、ら、ず、多、き、な、り、生、日、乃、足、日、は、洵、に、十、分

な吉日の意、大宮中爾志豆は宮中に於てといふこと、他は上に解してゐる▲啼加邪利志鳥毛來鳴交耳咲加邪利志花母咲久止布此頃乃今日乃生日爾天皇波大宮中爾志豆躬親耳皇御祖等乃大伎尊伎聖靈乃前平齋支奉利給布爾依利豆解啼かなかつた鳥も來り鳴きて、咲かなかつた花も咲くといふ春の此頃の何とも申分のない吉日に、天皇陛下は宮中に於て、皇靈祭を躬親らどり行はせらるゝに依りてといふ意◎(二)此乃教會爾豆毛與乃真床能磐境爾神籬立豆氏掛卷母恐支皇御祖等乃聖靈乃御前平齋支奉利遙々拜美仕奉耳久波解真床磐境神籬等は紀元節の祭に解きたり、他は意義のかくれたる處なし▲是乃神殿爾豆毛神籬立氏耳遙々止歷代乃天皇聖靈達乃廣前平拜美奉利祈奉耳久波解ノミはひたすら希ふこと、他は聞えたるが如し◎(三)天皇賀大御世乎手長乃大御世止聖磐爾常磐爾守護給比耳大御稜威乎彌高爾彌廣爾伊行波利耳輝加志米給比解天皇の大御世を満足長久の御代と堅固常久不動に守護し給ひ、尊く懼き御威徳を彌々高大にゆき渡り輝かさせ給へといふ意▲天津日嗣乃御隆盛乎天壤日月止共常磐爾守護利給比耳國富足比人道進美高万里事物開邪進見氏兵強久民安加耳志米給閉解聞えたるが如し◎(四)生座皇子等始米天下公民乎毛守惠幸爾給比耳百姓乃取作

耳平五穀乎始米耳草乃片葉爾至麻耳惡風荒水爾不令合給八束穗乃茂穗爾成幸閉給比教道彌進美爾進美耳正道乃真道乎彌益々爾明米志女給比履行波志米給比弘米志米給閉止恐美恐美母稱言竟奉耳久止白須解出生し給ふ皇子達を始めて、天下一般の公民をも守護し惠ませ給ひて、幸福あらしめ給ひ、百姓の勞作る五穀を始め、草の片葉に至るまで、凡そ植物の生物たる限は、暴風洪水等の類なくて、繁殖せしめ給へ、五穀は幾擱もある長き、而して繁茂せる豊饒なる收穫を得しめ給へ、教ふる人の大道を彌々進歩發達して、正しき真理の大道を發見明瞭ならしめ、且實現し履行し、弘めしめ給へと、恐れくて嚴肅なる御祭仕奉り、請白すといふ意。

春季皇靈祭祝詞(文例)

啼加邪里志鳥母來啼支天、咲加邪利之花毛咲久止布此頃乃、今日能生日爾、天皇波大宮中爾志豆、躬親良皇御祖等乃大伎尊伎聖靈乃前乎、齋奉利給布仁依利豆、此乃教會爾豆、與乃真床能磐坂爾神籬立豆、氏掛卷母恐支皇御祖等乃聖靈乃御前乎、齋奉利遙々拜

奉良久波、天津日嗣乃御隆盛乎、天地日月止共常磐爾守護給比耳、
 國家富足比人道進高万里、事物開進見耳、兵強久民安加良志米給
 閉生座皇子等始米、天下公民乎毛守幸閉給比耳、教道彌進美仁進
 美都々、正志伎直支眞道乎彌益々爾明米志女給比、履行波志米給
 比、弘米志米給閉止、恐美、恐美母稱言竟奉良久止白須(編者)

神武天皇祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛麻久母、恐伎某大神乃字豆乃大前爾、官位姓名、恐美、恐美、毛白佐久(解)言辭に
 かけて申上ぐるも、恐多き何々大神の嚴なる尊き御前に、官位姓名恐入りて白上
 ぐといふ意、大前の大は大神の大と同じく稱詞である。▲此乃教會能持齋伎、仕奉
 流、掛麻九母、恐伎皇神及教祖止、教使等賀崇奉禮留某命能、御前爾、某畏美、畏美、母白
 佐久(解)教會の齋神とは、各教會の主として崇め奉る神のこと、皇神の皇は例の稱
 言、教祖とは教會の開祖のことである、他は聞ゆるが如し。▲此郷乃産土神止、稱
 言竟奉流、掛万久母、恐伎皇神等乃、廣前爾、姓名、恐美、恐美、母白佐久(解)前に出でたり
 ◎(二)此四月三日乃今日波、掛麻九母、恐伎皇神、遠津大御祖神、日本磐余彦天皇乃大

御祭日乃百礮城乃大宮中乃神殿爾、御祭典仕奉里給比(解)四月三日は神武天皇の
 崩御あらせ給ひし日、皇孫遠津大御祖は天皇の遠の御先祖と申すこと、即ち所謂
 恐き皇祖といふ義、大御は何れも稱詞、大御祭の大御また同じ、百礮城乃は大宮に
 冠らす枕詞、他は聞ゆるが如し。▲今日四月三日波、我日本乃君母、公民毛、仰懸奉
 禮留、遠津御祖止、神日本磐余彦天皇乃御祭日爾、志阿爾、懸掛麻久母、綾爾、尊伎、天皇
 波、御親御祭仕奉里給比(解)意、義同上、御祭爾、志阿爾、懸掛麻久母、綾爾、尊伎、天皇
 國中悉彌遠長久、齋比、奉里拜美、奉禮刀、宣給比、仰給懸留、麻々、遍々(解)天下國中悉く
 永遠に齋祀し拜禮し奉れど、御言宣り給ひ仰給へるによりてといふ意、宣はミコ
 トノリの義にて、天皇の命令のこと、大事には詔、小事には敕と書く、麻々、遍々は隨
 又任の字の意にて、よりてといふ義ともなる。◎(四)此乃齋場爾、神籬立耳、(解)此も前
 に出でたり。◎(五)恐支也、大和國那留山陵乎、志遙々爾、拜美、奉留止、志耳、(解)恐伎也、は
 貴きかなど云ふこと、恐支鹿嶋爾、坐云々、と同じ通じて、解けば、神武天皇の御靈の
 鎮まり坐す貴き大和國なる山陵を遙拜し奉る爲にといふ意、山陵は大和國高市
 郡、畝傍山の東北に在り。◎(六)此乃我大神乃御前爾、毛大御、饌捧奉里、耳稱言、竟奉、耳
 久波(解)前に解釋してある。▲吾大神乃大前爾、毛幣帛供奉利、耳神祭仕奉里、乞祈奉

◎神武天皇祭祝詞 用語及解釋

其久波解これも前に解してある。乞祈奉は御神徳を仰ぎ幸靈を乞奉るといふこと
 比安布賀世給比解皇祖神武天皇が大和の橿原の大宮に御即位あらせられて萬
 世無疆の鴻業を開かれたる。尊く目出度状態を大に尊く忝き御精神状態とら
 れに擬準へさせ給へ仰がせ給へとなり。肇國知食留とは肇めて國家を大成し給
 ひ、皇基の大本を定め給といふこと。手振は習風又は状態といふこと。與曾利は準
 擬といふこと。肇國知食志之天皇乃大御慮乎御心止志互寶祚乃盛天壤無
 窮止布神聖誓契不動彌益々爾榮國志米給閉解神武天皇の御精神を我天皇の御
 精神として、天照皇大神の御誓動かず彌々益々寶祚を隆盛ならしめ給へといふ
 こと。○(八)萬政知給布天皇我大御稜威乎彌益々爾伊可久多布止久堅磐爾常磐爾
 守里幸閉給閉止神官等諸恐美恐美母申須解萬政知給布天皇は當今陛下及將來
 の大政を知り給はむ天皇にもかけていうたのである。伊可久は巨大の意、大御稜
 威は最も尊く最も恐多き御威徳、他は聞えたるが如し。天下平介久守護幸閉給
 止神官等諸頭根突拔且恐美恐美母白須解上に出でたり。

神武天皇祭祝詞(文例)

掛卷母恐伎某大神乃宇豆乃大前爾官位姓名恐美恐美母白左久
 此四月三日乃今日波掛卷母恐伎皇賀遠都大御祖神日本磐余彦
 天皇乃大御祭日乃百磯城乃大宮中乃神殿爾御祭典仕奉里給比
 天下國中悉彌遠長久。齋比奉里拜美奉禮刀宣給比仰給閉留麻々
 邇々此乃齋場爾神籬立互恐伎也大和國那留山陵乎志遙々爾拜
 美奉留止志互此乃我大神乃御前爾毛大御饌捧奉里氏稱言竟奉
 良久波。檀原乃底津磐根爾宮柱太知立肇國知食留御手振乎。大御
 手振止與曾利給比安布賀世給比萬政知給布天皇我大御稜威乎。
 彌益々爾伊可久多布止久堅石爾常磐爾守里幸閉給閉止。神官等
 諸恐美恐美母申須(諱辭集)

同遙拜式(文例)

畝傍乃山能山下乃下津岩根爾大宮柱太敷立高天原爾搏風高知
 里氏肇國知志々天皇乃御陵乃御前乎謹美敬比恐美恐美母遙爾

拜美奉良久波天皇我大御代乎茂御代能足御代乃常磐爾堅磐爾
守奉給比大御國乃大稜威乎彌高爾彌廣爾天雲乃向伏極鹽沫乃
至留限乃國々爾伊行渡志米給閉止畏美畏美母遙爾拜美奉良久
止白寸廿九題祝詞作例

秋季皇靈祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)天皇賀朝廷爾志豆齋伎祭里給閉留御代々々乃天皇命乃御靈等乃大前乎謹
美敬比恐美恐美母遙爾拜美奉良久波(解)天皇が大政を行はせ給ふ朝廷に於て御祭
典遊ばす歷代天皇の神靈の尊き御前を謹み敬ひ恐れくして遙々拜禮し奉るに
はといふ意 ▲百磯城乃大宮中爾志豆齋伎天皇乃躬親良神祭奉仕里給布掛卷母
恐支天祖皇祖乃神靈乎始米豆歷代乃天皇能聖靈等乃宇豆能御前乎遙々爾平伏
志拜美豆御祭仕奉良久波(解)百磯城乃は大宮乃枕詞拜は折屈ひにて平伏の状な
り他は聞えたるが如し◎(二)天地日月止共爾助久事無支寶祚乃御隆盛乎彌益々
爾榮延志米給閉(解)天地日月の變無きが如く萬世不易の至尊の寶祚の隆盛を彌
々益々隆盛ならしめ給へ ▲皇孫命乃大御代乎手長乃大御代止常磐爾堅磐爾守

奉里給比(解)皇孫命は歷代天皇を申し奉るやがて當今天皇の御事となるのであ
る即ち天皇といふ意他は聞えたるが如し◎(三)生座御子等乎毛惠給比天下能公
民乎毛平久安久守惠幸開給比互乃乃産業乎令榮給比國乃勢權乎増左志米給閉
乃畏美畏美母白須(解)出生し給ふ親王諸王達をも惠み給ひ天下の公民をも平安
に幸福に守護し給へ國民各自の勤むる及國家公共の産業を繁榮ならしめ國
權國勢を増大せさせ給へと畏れくして申上ぐといふ意 ▲親王諸王百官人
天下公民爾至留限傳守惠幸開給比互大御國乃大稜威乎彌高爾彌廣爾天雲乃向
伏極鹽沫乃至留限乃國々爾伊行渡志米給閉止畏美畏美母遙仁拜美奉良久止白
(解)大御國の大御共に稱讚言大稜威は最も尊く殿し御威徳天雲乃云々鹽沫乃
云々は際限なき廣き世界の國々といふこと伊行のいは強辭他は聞えたらむ

秋季皇靈祭遙拜(文例)

天皇我朝廷爾志豆齋伎祭里給閉留御代々々乃天皇命乃御靈等
乃大前乎謹美敬比恐美恐美母遙爾拜美奉良久波皇孫命乃大御
代乎手長乃大御代止常磐爾堅磐爾守奉里給比生座御子等乎毛

惠給比、天下能公民乎、毛、平久安久守惠幸、閉給比、且、万乃、産業乎、令榮給比、國乃、勢權乎、増左志米、給閉刀、畏美畏、美母、白須、(廿九題祝詞作例)

神嘗祭祀詞(用語及解釋)

◎(一)神風乃伊勢國、百傳布、度會縣、乃、拆鈴五十鈴原、乃、底津岩根、爾、大宮柱太敷立、氏、高天原、爾、千木高知、利、且、鎮坐、須、(解)神風、乃、伊勢、の、百傳布、は、度會、の、拆鈴、は、五十鈴、の、枕詞、五十鈴原、は、皇太神宮鎮座の地、他は聞えたらひ、▲伊勢乃度會、爾、五十鈴川、上、乃、下津磐根、爾、宮柱太知立、高天原、爾、氷木高知、且、常宮、乃、安宮止、鎮座、須、(解)五十鈴川は度會郡に在りて、皇太神宮の域外を流る。故に神宮を五十鈴宮ともいふ。常宮乃安宮は、どこしへに鎮り坐すべし、心安き宮の意、他の解上に出でたり、◎(二)言麻久母、綾爾、恐支、天照座、皇太御神、乃、神嘗、乃、御祭乎、今日乃、生日、乃、足日、爾、仕奉、其志、米給布、登、御使遣志、幣、奉、出、志、大宮中、爾、志、且、遙、爾、拜美、給比、且、賢所乎、毛、御親祭、其世給布、皇御孫命、乃、大御心、乎、頂、爾、戴、支、奉、利、且、(解)神嘗乃御祭は、毎年十月十七日行はせらる。伊勢神宮に先づ其年の新穀を献らる。御式である。仕奉、其志、米給布、登の登は、としての意、賢所は禁中に在りて、八咫御鏡を安置せる處、他は上に散々解け

り◎(三)社司社掌、其々等、齋清、乃、波利、乍、毛、是乃、神社乃、齋庭乎、掃清、米、且、郷人等、止、共、爾、遊々、爾、拜美、奉、利、且、畏美、畏、美母、白、左、久、(解)意義、明瞭、▲敎使等、忌、回、里、清、回、利、都、や、此乃、清庭、爾、神籬、立、且、天、標、繩、引、延、倍、且、遙、々、爾、拜美、任、奉、其、久、波、(解)清庭は字の如く、清淨なる庭のこと、他は皆上に解けり、◎(四)皇大御神、乃、見、露、志、坐、す、四、方、國、波、天、乃、壁、立、極、美、國、乃、退、立、限、里、青、雲、乃、謂、久、極、白、雲、乃、墜、居、向、伏、須、(解)見露志坐すは、見はらしの廣く遠く及ぶこと、四方國波云々、四方に見ゆる所在國土は、天の壁立如く見ゆる極地の退立つ如く見ゆる限り、青雲の露くやうに見ゆる極白雲の地に墜り居て向ひ伏せる如く見ゆる限、即ち眼の及ぶ限の意、◎(五)青海原、波、掉、楫、不、干、舟、楫、能、至、留、流、極、大、海、原、爾、舟、滿、都、々、氣、且、陸、與、利、往、久、道、波、荷、緒、結、堅、米、且、磐、根、木、根、履、佐、久、爾、天、馬、乃、爪、乃、至、留、流、限、長、道、際、無、久、立、續、計、天、狹、支、國、波、廣、久、峻、支、國、波、平、介、久、遠、支、國、波、八、十、綱、打、掛、氣、且、引、寄、留、事、乃、如、久、皇、御、孫、尊、爾、依、左、志、奉、利、給、比、(解)青海原波云々、青々したる海の廣々としたる原には、掉楫の乾く隙間なく、舟の楫の至り臻る限、大きな海に船を滿浮へ續けて、陸よりは荷前の荷緒結ひ堅めて、馬に附乗せ、山坂の凸凹せる磐木の根まで履みぬきつゝ、馬の足にて往き往かる限、長き道を隙間無く立續けて、さて狭き國は廣く峻支國は平に、而して遠き國は數多の

◎神嘗祭祀詞

用語及解釋

網を打掛けて引寄する事のやうに、貢物を天皇の朝廷に寄給へといふ意(六)大御命波手長乃大御命止湯津磐邨乃如久雨零利風吹氣杼毛恒爾動支坐左受木花乃榮由流我如榮衣坐左志米給比(解)天皇の大御壽を満足長久の御壽と、動かす榮え坐さしめ給へといふ意湯津磐村は上に解きたり雨零利風吹及木花の云々は不動壯榮の形容副詞である▲大御壽乎足長乃大御壽止堅磐爾常磐爾守護幸閉給比(解)意聞えたるが如し(七)阿禮坐牟皇子等乎毛惠美給比、卿等百乃官乃人等哀彌高爾彌廣爾皇我朝廷爾茂志八桑枝乃如久令立榮給比(解)八桑枝は彌木榮にて木の榮ゆるが如く榮えしめ給へといふこと他は聞えたらむ(八)天下乃公民爾至留悉爾富足比賑比榮衣天大御國乃權勢乎外國々爾押張其志米給閉止壯鹿如須膝折伏世鵜自物頸根突抜互開手打上耶耳遙爾拜美奉其久止白須(解)壯鹿如須は壯鹿の如くにて、鵜自物は鵜の如くといふ意他は聞えたらむ▲天下乃公民爾至留爾耳家々富足其比人々和備陸備互皇御國乃權勢乎彌益々爾張行波志米給閉止恐美恐美母遙仁拜美奉其久止白意義聞えたるべし。

神嘗祭(文例)

神風乃伊勢國百傳布度會縣乃拆鈴五十鈴原乃底津岩根爾大宮

柱太敷立氏高天原爾千木高知互鎮坐須掛麻久毛畏支天照座皇大御神乃神嘗乃御祭乎今日乃生日乃足日爾仕奉良志米給布登御使遣志幣帛奉出志大官中爾志天遙爾拜美給比且賢所乎毛御親祭良世給布皇御孫尊乃大御心乎頂爾戴支奉里互社司社掌某々等齋清万波利牟毛是乃神社乃齋庭乎掃清免齋串立互標繩引延倍互鄉人等斗共仁遙々爾拜美奉里互畏美畏美母白左久皇大御神乃見齋志坐須四方國波天乃壁立極國乃退立限青雲乃靄久極白雲能墜居向伏須限青海原波棹梶不干舟艦能至留流極大海原爾舟滿都々氣互陸與利往久道波荷緒結堅米氏磐根木根履佐久爾互馬乃爪能至留流限長道隙無久立續計天狹支國波廣久峻支國波平介久遠支國波八十綱打掛氣天引寄留事乃如久皇御孫尊爾依左志奉利給比大御命波手長乃大御命止湯津磐邨乃如久雨零利風吹氣杼毛恒爾動支坐左受木花乃榮由流我如榮衣坐左

志米給比阿禮座左牟皇子等乎毛惠美給比卿等百乃官乃人等衰、彌高爾彌廣爾皇賀朝廷爾茂志八桑枝乃如久令立榮給比天下乃公民悉爾富足比賑比榮延皇大御國乃權勢乎外國々爾押張良志米給閉止牡鹿成須膝折伏勢鵝自物頸根衝拔兵開手拍上那天遙爾拜美奉良久止申須祝詞宇比麻那思

同拜詞(文例)

掛卷母畏支伊勢乃、

神宮乃大前乎遙爾拜美奉良久止白須(神社祭式)

天長節祝詞(用語及解釋)

○(一)掛麻久毛恐支某大神止稱辭竟奉留皇神乃御前爾姓名恐美恐美母白左久意同上○(二)言麻九母綾爾畏支某皇神乃御前爾姓名恐美恐美母白左久意同上○(三)二月止云布月日止云布日古曾多加禮十一月三日乃今日波志毛天皇乃御誕辰坐郡留最母米傳太久餘支日奈禮(解)月と云ふ月又日といふ日は眞に數知れず多

いが就中十一月三日といふ今日はマア天皇の御誕辰あらせ給ひし目出度尊き日なれば▲八十日波在禮行母今日乃生日能足日波言欲母恐支天皇乃御降誕坐郡留日止(解)八十日の八十は八十に限らず數多きことの形容なり生日乃足日は生々足々の吉日○(三)君母民毛國中悉尊美宇禮志美悅禮比部々祝奉禮(解)君民天下一般互に悦び合ひて祝ひ奉れば▲人皆乃家能戸毎爾國旗立且氏仰貴備祝比奉禮(解)聞えたやうである○(四)大神乃大前爾毛祝賀乃大御酒大御饌捧邪奉利耳稱言竟奉良久乎平介久安介久聞食且上に解いた▲皇神等乃御前爾幣帛獻奉祭利耳御祭奉良久乎平介久聞食且意義同上○(五)天皇乃御壽乎足長乃大御壽止彌還若爾御還若坐志彌健介久守護給比且(解)上に出でたり▲天皇乃御命乎千代常磐爾守護幸開給比且(解)千代常磐云々千代萬代常磐の如く健やかにあらせらる、様守護り幸福を賜はりて○(六)大御代乎足長乃大御代止茂御代爾幸開給比(解)上に出で、居る▲大御代豊爾富足比權勢強久彌進爾進万志米給比且(解)明治の大御代を豊富に満足に且勢強くて彌々進歩發達せしめ給ひて○(七)万國乃宗國奈留皇御國乃大御稜威乎彌益々爾輝加志米給比(解)意義明瞭▲皇御國乎万國乃總帝國止万國與利仰支尊備服從布麻傳爾至良志米給比(解)服從は

字の如く、徳に感服して歸順すること◎(八)阿禮坐牟親王諸王諸臣百官等天
下百姓爾至留麻傳守護惠幸閉給比豆解上に出でたり◎(九)今日乃尊久宇禮志支
御祭乎天壤止長久久仕奉其志米給閉止恐美恐美母白須(解)今日の尊くられし
き天長節祝賀の神祭を真に天壤長久に仕奉らしめ給へといふことである。

天長節祝詞(文例)

掛麻久毛畏支某大神乃大前爾姓名恐美恐美母白左久月止云布
月日止云布日古會多加禮十一月三日乃今日波志毛天皇乃御降
誕坐都留最母米傳太久尊支日止豆君母民毛國中悉尊美宇禮志
美悅穗比都々祝奉留賀故爾大神乃大前爾母御酒御食魚菜雜物
乎横山乃如久置高成豆稱言竟奉良久乎平介久安介久赤丹穗爾
聞食豆天皇乃御壽乎足長乃大御壽止彌還若爾御還若坐志彌健
介久守護給比豆大御代乎足長乃大御代止堅磐爾常磐爾茂御代
爾幸閉給比乃乃國乃宗國奈留皇御國乃大御稜威乎彌益々爾輝

加志米給比阿禮坐牟親王諸王諸臣百官人等天下百姓爾至留麻
豆守護惠幸閉給比豆今日乃尊久宇禮志支御祭乎天壤止長久久
志久仕奉其志米給閉止恐美恐美母白須(編者)

新嘗祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)此能所乃底津磐根爾宮柱太敷立高天原爾千木高知氏天能御醫日能御醫止
定奉氏稱言竟奉留皇神乃御前爾申佐久(解)上に出でたり▲掛卷母恐支某神社乃大前爾宮司
大前爾恐美恐美母白左久此も上に出でたり▲掛卷母恐支某神社乃大前爾宮司
位苗字名恐美恐美母白左久此も上に出でたり◎(二)今年今月今日乎生日乃
足日止齋定氏新嘗祭仕奉留爾依豆奉留幣帛波黑酒白酒止鹽閉高知鹽腹滿双此
郷乃百姓能取作禮留與津御年能懸稅千稅餘五百稅乎横山乃如久置足波志豆奉
留幣帛乎安幣帛能足幣帛止平介久所聞食氏(解)生日乃足日は生々足々の吉日新
嘗祭は今年の新穀を初めて神に献る祭。黒酒白酒黒酒は黒く色をつけたる酒。黒
胡麻の粉などにてつくるといふ白酒は清酒のこと。與津御年は専ら稻をいふ。稻
は五穀の中にて最も晩く稔るから然云ふのである。千稅餘五百稅千五百は數の

◎新嘗祭祝詞 用語及解釋

甚多きこと、文字に泥ひべからず、税は貢献の稻のこと、懸税は懸けたる稻のこと、
 他は前に解けり◎三大神乃成幸閉給閉流今年乃秋乃初穂以氏新嘗仕奉留止爲
 互進留此大御膳其平久安久赤丹能穂開食止白須解成幸閉給閉留は大神の幸
 靈に依りて豊に給らしめ給へるをいふ赤丹乃穂は皇神の御顔の赤丹まで澤
 山に召上れといふ意即ち至情の切なるより神を人の如くに云ひなしたのであ
 る▲今年新嘗祭解御幣捧奉其志米給布是以今日大前平持齋麻波利皇神等乃成
 幸波衣給留留八束穂乃秋乃初穂乎御饌御酒用仕奉利儲乃廣物儲乃狭物與津藻
 築邊津藻葉甘菜辛菜爾至留麻傳用置足波志耳奉留事乎平久安久聞食耳解捧奉
 其志米給布は献上らせなるといふ意即ち天皇が勅使をして奉獻せさせなさ
 るのである。うこで此の詞は官祭に用うる詞で、私祭には捧奉其久とのみいふの
 である。是以は上を受けうこでいふ意大前平持齋麻波利は御前を常よりも
 清淨に忌清めてなり八束穂は稻の豊に給りて八摺もあるほと長きこと八も數
 の多きなり又彌摺ともいふ何れにしても意同じ他は上に解きたり◎天皇乃
 大朝廷乎始耳仕奉留百官人等四方國乃公民爾至留麻傳洩留々事無久守幸閉給
 比耳立榮志米給留止白須事乎聞食世止恐美恐美母白須皆前に解いてある◎四

如此仕奉用依耳今母今母皇御孫命乎聖磐爾常磐爾護奉里幸閉奉里解前出▲皇
 御孫命乃御世乎手長乃御世止聖磐爾常磐爾伊賀志御世爾幸閉給比阿禮坐乎皇
 子等乎母長久平久護思幸閉給比解前出◎五天下公民乎夜守日守爾護幸閉給比
 解夜守日守は夜は夜晝は晝に應じて日夜隙なく守護し給へといふこと他は前
 出▲百姓乃取作耳平五穀乎始米草能片葉爾至麻傳惡風荒水爾不會相給成幸閉
 給閉止稱言竟奉耳久登白須解草能片葉爾至麻傳はあらゆる植物の片葉に至る
 までといふこと惡風荒水は暴風洪水等凡植物を害するもの◎六此里爾諸能枉
 事無久家々繼足比人々和備陸爾耳子孫乃八十連屬爾至留麻耳如茂八桑枝令立
 榮給閉止恐美恐美母白須解諸とは以上多くの數々あること枉事はあらゆる惡
 事災難及うれ等の兆すべし事柄繼足は満足爾繼續すること八十連屬爾至留麻
 耳は幾支統も連續せる子孫の末々に至るまでといふこと他は上に解いた▲言
 別氏白久此縣乃縣主及皇神乃敷坐此縣乃刀禰男女諸乃谷過將在乎變見直志聞
 直志給比耳守幸閉給閉止十六自物膝折伏宇事物頭根突拔耳稱言竟奉久止白須
 解言別氏は辭の緒を更めて特別にといふこと縣主はこゝにては縣知事の意敷
 坐は鎮座地といふこと刀禰は村長又は町長見直聞直は惡しき事も善き方面に

取成して見聞給へといふ意。十六自物は前の牡鹿如須と同じく、膝折ことゝの形容。十六は四四の假名である。他の解は前に出でたり。

新嘗祭祝詞(文例)

掛卷母 恐支、某神社乃 大前爾、宮司位 苗字名 恐見、恐美母 白佐久、今年新嘗祭爾、御幣捧奉、良志米 給布、是以今日 大前乎、持齋麻波利、皇神等乃 成志、幸波閉、給倍留、八束穗乃、秋乃、初穗乎、御饌御酒、爾仕奉、利、鱒乃、廣物、鱒乃、狹物、與津藻、葉邊津藻、菜、甘菜、辛菜、爾至留、麻豆、爾置足、波志、豆奉留、事乎、平良氣、久安良氣、久聞食、皇、天皇乃、大朝廷乎、始、具仕奉、留百官人等、四方國乃、公民爾、至留、麻豆、洩留、々、事無久守、幸閉、給比、立榮、志米、給倍、止、白須、事乎、聞食、世止、恐美、恐美母、白須、(神社祭式)

諸祭祝詞

産土神大祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)此地乃 底津磐根爾、宮柱太敷坐、御殿乎、高知坐、耳領坐、寸掛、麻久母、阿耶仁、懼伎、某大神乃、大前爾、拜美、畏美、且、白左久、(解)御殿乎、高知とは、御殿を高く構へたることで、知は我有として占むるの意、領は長となりて其所を占む、領知すといふ意、他は前に出でたり、▲此乃 岡上乎、國乃、眞保羅止、神那、眞宮敷坐、耳高知也、日乃、經緯、天知也、影面背面乃、大八衢乃、大伎、御守護神止、宇斯波伎坐、須掛卷母、畏支、大神等乃、宇豆乃、廣前爾、官位姓名、忌志、里、殿志、里、恐美、恐美母、白左久、(解)眞保羅とは、普通に青山の四方にめぐりて、空虚になりたる如き状態を形容していふ詞であるが、こゝは眞中といふ意に用ゐたのである。神奈賀良は、神の御心の隨々、高知也、天知也、は、唯對句に詞を文なしたるまでにて、日乃云々、影面背面をいはむ爲の序、日乃、經緯、經は東より西に通るたる線、緯は南より北に通るたる線、即ち、東西南北の意に用ゐたのである。影面背面は、前にも解したる如く、山陽山陰といふこと、大八衢は、東西南北四方に行き交ふ衢、忌志、里、殿志、利は、前にもある如く、忌消まわること、他は聞えたり、▲掛卷母、恐伎、吾皇神能、大前爾、恐美、恐美母、白左久、(解)前に出でたり、◎(二)八十日、日波有禮、好毛、今日能、生日乃、足日爾、姓名往水乃、清支、河瀬爾、身、濊祓、斯伊豆能、眞屋爾、忌、能、理、氏、(解)身、濊祓は、清水を潜いで汚穢を去り、且つ、祓を知る神に

◎産土神大祭祝詞 用語及解釋

請ひて身を清淨にすること伊豆は嚴肅の意紀元節の祝詞に解いて置いた眞屋の眞は例の稱讃言にて清淨なる意に用いたのである忌籠は字の如く神饌を調理する間火を忌み人を避けなとして忌み籠ることである。▲八十個日波在禮軒母今日乃生日乃足日用年遍久例任用御祭事仕奉流刀志耳大海乃清支浪際爾身濊祓之伊豆乃眞屋爾忌籠利互解前のは河にて此所にては大海にて身濊祓したのである他は意義同じ▲年乃内爾月乎擇月乃内爾日乎擇耳此乃某月乃何日乎生日乃足日止定米之毎年乃例乃隨爾神幸乃大御祭仕奉爾依耳今日何日先此乃大御與乃大前爾御祭式仕奉留刀爲互解神幸は大祭の前日即ち前夜祭に若宮又は俗に云ふオタビシヨへいであすことをいふ他は聞ねたるが如し◎三獻留物波青和布白和布御酒波白木黒木止齋食滿並傳御食波汁爾毛類爾毛緒乃廣物緒乃狹物與津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜爾至留麻傳置高成耳奉留倉代乎解青和布白和布は青和たへ白和たへといふことにてたへとは絹又布をいふ而して絹は和柔である故に和布とは絹のことなり白木黒木は新嘗祭の條に解きたり齋食は齋清めたる食のこと他は上に出て居る▲大御養止御弓御劍御旗御楯御鉾立並傳大御饌波伊豆乃眞屋爾齋炊伎大御酒波麴上高知麴腹滿並傳大野原

乃甘菜辛菜青海原乃緒乃廣物緒乃狹物澳津藻菜邊津藻菜爾至留麻傳齋机乃忌麻波利高机乃爾高爾居奉爾御衣海明妙照妙和妙荒妙爾擊奉爾幣帛乎解御弓は字の如く弓のことなるをミトランといふは敬語であるトランのラシはリの延言即ち執といふ意にて弓を御執といふは弓は手に取るものなる故然いふのである御劍をまたミハカシといふ此も劍は腰に佩くものであるから然いふ齋炊伎は齋ひ清めて炊くこと齋机の齋も同義齋机乃また高机乃は忌麻波利また爾高爾といはむ爲に取出した詞の文である御衣ミソはころもの敬語又ミクシともいふクシはキの延言即ち御着の意明妙は染めたる絹の光有る物照妙は染めない絹の光彩よきことと和妙は通常の絹荒妙は麻とか木綿とか鹿荒なる物他は前に出でたり▲大前爾宇豆乃幣帛衰如横山置高成耳恐美恐美母稱言覺奉耳久止白須如此仕奉事乎皇神乃御心爾平介久安介久聞食耳解上に出てある◎四安幣帛能足幣帛止聞食相宇豆那比給比耳解相宇豆那布は説の字の意にてこゝは御受納し給へといふこと▲伊頭充倉乃足充倉止豊明爾所食耳解伊豆はこゝにては高大の意ミテグラの倉は位又座の假字である意義は四方拜祝詞の條に解いて置いた◎五天神乃御子命乃次第乃隨爾知食來流天日嗣方天地日月止俱爾

無動天皇乃大御代乎安御代乃足御代止平介久所知食大御壽方千秋乃五百秋爾
 彌袁知爾御若容坐解天神の御子命は天孫又皇御孫といふ意にて天照皇大神の
 御子孫といふこと他は上に解しておいた▲今母往前母皇御孫命能手長能大御
 世其堅磐爾常磐爾齋比依斯奉利足御世乃茂御世爾幸爾奉利耳天地日月止俱爾
 平久長久大座坐之米給比解前に出てたり▲掛卷母恐伎皇賀大御代乎安御代乃
 足御代止齋比幸爾給比解するの要なし▲(六)親王等百乃官乃人等乎母安久平穩
 爾守里賜比解上出▲親王諸王百官人等乎母夜能守日能守爾守給比耳皇賀朝
 延爾彌高爾彌廣爾伊加斯夜貝波延能如久立榮氏合仕奉給比上に解きたり▲預
 耳仕奉流王等諸臣乎毛伊加志耶貝波延乃如久皇賀朝廷爾奉事耳佐加盈之女解
 預耳仕奉は大政の事務を預りて勤め事へ奉るといふ意◎(七)天下乃兆民此土乃
 刀爾男女乎母分涯爾平久安久守幸爾給反刀畏美畏美母白須解刀爾は新嘗祭の
 條に解してある分涯は分限又分際に應じてなり▲及見齋之坐須爾氏子乃區々
 戸々人々乎安介久平介久諸乃炎禍事在志米受已々我家業乎彌續美爾續美爾隨神
 乃美大道乃教說爾違受他道乃惡志支筋爾波惑波受赤心乃真心爾朝夕勤米結里
 耳家内穩爾富足其生子外爾蕃息立榮之米夜守日守爾守惠美幸爾給比社掌等

諸相共爾鹿自物膝折伏庭雀宇受須麻里居耳恐美恐美母白須解ナリハヒは字の
 如く家業即ち一家の主たる恒久の業であるイソシムは勉勵の意隨神乃美大道
 とは神道のことにて日本固有の大道であるなは言を換へて云へば日本國民古
 來の風習の善美なるもの即ち國民の發達國力發展の主能力たる國體の精華及
 其の活動である他道とは儒佛道耶等の教をいふ勤米結利耳は勤儉のこと結は
 取締にて心の放埒を制御することウマハルは字の如く繁殖するなり宇須久麻
 利は躰居なり他は皆上に出でたり▲大神乃氏子乎始米耳天下四方國乃公民爾
 至流麻傳平久安久守護給比惠比給比根國底國從理疏備荒備來牟枉津日登云神
 乃枉事有世受作食流穀物等乎豐爾牟久佐加爾令得給閉止鹿自物膝折伏鶴自物
 頸根突拔耳恐美恐美母白須解根國底國は幽冥にある國疎備の疎は字の如く親
 の反對枉津日登云神は人世に禍する神斯かる神が根國底國に在りて人世の或
 者に禍するのである牟久佐加は茂榮の義又繁昌する意にも用う◎(八)辭別氏白
 左久如此仕奉流事乃漏落牟事乎美神直日大直日爾見直斯聞直斯坐世止恐美恐
 美母白須解神直日大直日爾云々は神直日命大直日命とて諸の禍事を直し給ふ
 神なり字の如く人々の各過を見直し聞直し給へといふ意他は皆聞ねたり

神田神社大祭詞(文例)

此乃岡上乎國乃眞保羅止神賀良宮敷坐高知也日乃經緯天
 知也影面背面乃大八衢乃大伎御守護神止宇斯波伎坐須掛卷母
 畏支神田大神二柱命乃宇豆乃廣前爾詞官本居豐額忌志里嚴志
 里恐美恐美母白佐久年乃内爾月乎擇毘月乃内爾日乎擇毘互此
 乃九月乃十五日乎生日乃足日止定米之每年乃例乃隨爾神幸乃
 大御祭仕奉爾依互今日十四日此乃大御輿乃大前爾御祭式仕奉
 留止爲互大御神寶止御弓御劍御旗御楯御鉾立並倍大御饌波伊
 豆乃眞屋爾齋炊伎大御酒波饗上高知饗腹滿並倍大野乃原乃甘
 菜辛菜青海原乃鱈乃廣物鱈乃狹物澳津藻菜邊津藻菜爾至麻仙
 齋机乃忌麻波里高坏乃彌高爾居奉里御衣波明妙照妙和妙鹿妙
 爾擊奉留幣帛乎安幣帛能足幣帛止聞食相宇豆那比給比互掛卷
 母恐支皇賀大御代乎安御代乃足御代止齋比幸閉賜比親王等百

乃官乃人等乎母安久平穩爾守里賜比及見霽之座須御氏子乃區
 々戸々人々乎安介久平介久諸乃災禍事在志米受已々我家業乎
 彌績美爾績之美隨神乃美大道乃教說爾違受他道爾惑波受赤心
 乃眞心爾朝夕勤米結里互家内饒里富足比生子廣久蕃息立榮之
 米夜守日守爾守惠美幸做給做止社掌等諸相共爾鹿自物膝折伏
 庭雀宇受須麻里居互恐美恐美母白須諄辭集上

産土神月祀詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母恐支吾皇神乃大前爾恐美恐美母白久上に解してある▲掛卷母恐支
 某大神乃宇豆能大前爾神官等齋回里清回里耳恐美恐美母白左久(解)言端に掛け
 て白上ぐるも恐多き何々大神の殿重なる大さ尊さ御前に神職等齋清めつゝ恐
 れ々々て白す◎(二)今日乃朝日乃豊築登用今年乃某月某日乃稱言竟奉留止御酒
 御饌海川山野乃物等乎高杯乃彌高爾置足波志天捧奉耳久乎平介久安介久聞食
 互(解)稱言竟奉流は殿肅壯重なる神祭奉事すること止はとしての意◎(三)神那賀
 良母皇御孫命能手長能大御世其堅磐用常磐爾齋奉里茂御世爾幸奉理氏萬代爾

産土神月祀詞 用語及解釋

大産坐佐志米給比(解)神奈賀良は靈徳圓滿なる神なるによりて、皇御孫命は、天皇萬代爾云々は、天皇の御壽長久に守護利給ひて、萬代も健けくて坐さじめ給へといふ意 ▲皇賀大御代乎堅磐爾常磐爾茂御代能足御代爾幸爾奉里給比(意)義同上親王諸王百官人等乎始米耳天下乃公民諸別豆波我大神乃宇斯波伎知食須町々乃御氏子諸乃家爾母身爾母禰神乃枉事有志米受疫瀼時氣諸乃災有志米受各々其家業乎成賀麻々邇々成得志米給比(解)別豆波は特別になり、宇斯波伎知食須は、領知し守護し給ふといふ意、禍神乃枉事有志米受は禍神が禍すてふ災厄有しめずといふ意、疫瀼は、惡疫、時氣は、風邪を始め時候より發る病氣他は、意義聞えたり ▲親王等王等臣等其平久幸久守給比惠給比大神乃氏子哀始米耳天下能百姓廣久厚久撫給比助給比(解)撫は公平に愛撫すること ◎四(天益人彌益々爾生子乃八十連屬爾五十榎八桑枝成立榮衣志米取作留穀物乎、八束穗能茂穗爾成幸爾給比) 爾登恐美恐美母白須(解)天之益人の語は、伊邪那岐伊邪那美二神神誓の語で、人類は繁殖するものといふこと、八十連續は新嘗祭の條にて解したり、五十榎は假字にて茂と同義、八束穗は新嘗祭祝詞の條に、八桑枝は新嘗及元始祭詞の條に出でたり ▲又是乃御前爾任奉留神官等乃過犯佐平事等波、神直日大直日爾見直志給

此間直法給比、夜守日守爾守里幸爾給爾登恐美恐美母白須(解)皆上に出でたり。

月祀祝詞(文例)

掛母恐支吾皇神乃大前爾恐美恐美母白左久神奈賀良母皇御孫命乃手長能大御世哀堅磐爾常磐爾齋奉里茂御世爾幸奉理氏萬世爾大座坐佐斯米給比仕奉流親王等王等臣等哀幸久平久守給比、惠給比大神乃氏子乎始米耳天下能百姓哀廣久厚久撫給比助給比取作流穀物等哀八束穗乃茂穗爾成幸給爾登恐美恐美母白須(祭文例)

教會例祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)某教會乃某大神止稱言竟奉留掛卷母恐支皇神乎始米(教祖止持崇支仕奉留) 爾某命乃御前爾姓名畏美畏美母白左久(解)何々教會の何々大神と、其の御神徳を稱讚して、嚴重なる神祭仕奉る皇神を始め、教祖と崇め仕奉りつゝ、ある某命の御前に、姓名畏れながら白すの意 ◎二(年)乃今日乎吉日止撰定米耳大御祭仕奉里來志例乃隨々(解)毎年の今日を吉日と撰び定めて、大祭執行し來し例によりての

意 ▲八十日々波在禮野海今日乃生日乃足日波古交例乃式乃隨用一年或は春乃大御祭仕奉留日爾志有禮(解)日といふ日は多かれど今日の生々足々の吉日は古例によりて一年の大祭仕奉る日なればの意◎三教師等明波朝未明與利大川乃清交流爾禰祓志忌回利清回利且御前爾波左右爾五百津真榊插建且氏明和布照和布乎布佐夜加爾取垂兵御酒波藝乃閉高知藝乃腹滿並且和稻荒稻海川山野乃種々乃物乎如横山置足波志天奉其久乎赤丹乃穗爾聞食且(解)未明は夜の未だ明けざる頃禊祓は水を潜いで身を清むること五百津真榊は枝の繁茂したる榊にて五百は五百に限らず數多きこと真榊の眞は稱讚言である明和布は染めたる絹の光彩あること照妙は染めない絹の光彩あること布佐夜加はしげく多き体他の詞は皆上に解してある▲教使等殊爾御祭事爾與留者波散齋致齋志兵忌清回利大御饌波伊豆乃眞屋爾新草乎伊豆乃薦止刈敷且持恐與母調理爾心盡乃幣帛止奉留宇豆乃大幣帛乎安幣帛乃足幣帛止皇神等乃御心爾毛平介久思召志豊明爾聞食志且(解)散齋は祭日前より齋戒すること致齋は其の當日物忌すること伊豆乃眞屋は嚴肅神聖なる神饌調理のこと眞は例の稱讚言他は上に出でたり◎四今母往前母彌益々爾天皇命乃大皇威乎千萬國爾輝加之米皇御國乃國光

乎四海八荒爾射照徹其志(解)四海八荒は彼の九夷八蠻の類にてあらゆる諸外國をいふ他は聞わたるが如し▲現在毛將來母天皇乃大御代乎手長乃大御代止堅磐爾常磐爾守護給比幸開給比耳意義隱れたる所なし◎五教師等各自其身乎獻氣且教導久皇御國乃大教乃正志支清支誠乃道乎天下乃所在人類鳥獸爾至留麻傳普久廣久行波禮生物波悉々爾神靈乃幸乎被其志米意義隱れたる所なし▲教師乎賀心乎焦志骨乎粉爾志耳教爾弘奉留神隨奈留道乃條理彌明其加爾究米志米給比行波志米給閉意義明瞭▲各々身乃應分爾幸福爾給比且快樂久天地乃道乃理訓其志米給比行波志米給比且(解)大地の道理を究明躬行せしめ給ひての意◎六亦來牟年乃今日母樂志久彌珍其志久御祭仕奉其志米給閉止恐美恐美母白須(解)來年の大祭も樂しく彌々珍らしく仕奉らしめ給へど恐れ恐れ白すの意

教會例祭祝詞(文例)

掛卷母綾爾畏支何教會乃某大神止稱言竟奉留皇神乃宇豆乃大前乎始米教祖止崇奉禮留某命達乃御前爾姓名恐美恐美母白左久八十日々波在禮野毛今日乃生日乃足日波古伎例乃式乃隨爾

一年或は秋乃大御祭社奉留日爾志阿禮婆教使等殊爾御祭事爾與
 留者波散齋致齋志氏忌清回利大御饌波伊豆乃眞屋爾新草乎伊
 豆乃薦止刈數耳持恐美母調理閉心盡乃幣帛止奉留宇豆乃大幣
 帛乎安幣帛乃足幣帛止皇神等乃御心爾毛平介久思召志豐明爾
 聞食志耳今母往前母彌益々爾天皇命乃大皇威乎千萬國爾輝加
 之米皇御國乃國光乎四海八荒爾射照徹良志教使等各自賀身乎
 獻氣天教導久皇御國乃大教乃正志支清支誠乃道乎天下乃所在
 人類鳥獸爾至留麻傳普久行波禮生物波悉々爾神靈乃幸乎被良
 志米各々身乃應分爾幸福閉給比耳快樂久天地乃道乃理識良之
 女給比行波志米給比耳亦來牟年乃今日母樂志久彌珍良志久御
 祭仕奉良志米給閉止恐美恐美母白須(編者)

同月並祭祀詞(用語及解釋)

◎(一)日爾異爾仕奉里朝奈夕奈仁拜美奉波掛卷母恐支某大神乃大前爾某恐美恐

美母白左久(解)日に新に神祭仕奉り朝な夕なに拜禮し奉る言端に懸けて申すも
 恐多き某大神の大き貴き御前に姓名畏れ畏れて申すの意▲言欲母畏支某大神
 乃大前及教祖止仰奉留某命乃御前乎毛併奉利耳姓名謹美敬比耳白左久これ
 は教祖をも併せ祭れる時に用ふる詞である意義隠れたる所なし◎(二)大神乃廣
 支厚支恩頼爾依利耳(解)恩頼は字の如く神の恩徳又高き庇蔭ともいふべき意▲
 皇神等乃高支貴支御靈乃幸爾憑利耳(解)御靈乃幸は前の恩頼を被ること即ち神
 靈の作用の奇妙に幸福し給ふこと◎(三)近來絶延耳天爾毛地爾毛災無久(解)天變
 地異乃災厄なくといふ意▲四時妙波次第行波禮萬物榮繁里耳(解)春夏秋冬四時
 の順應皆其時を得て風雨寒暑のよろしきこと◎(四)百乃事々日爾新麻里蒼生乃
 供給豐爾牟久佐加爾富足比(解)百事日に新を加へ人民の供給豐大盛大に富榮具
 足し▲萬物日月爾發達進歩耳國富美兵強久(解)何れも物質の進歩發達の状態
 をいふ▲人道日爾明那久鳥獸爾至留麻傳心安久使役波留耳これは精神上の文
 明發達の結果鳥獸にまで及びて虐待せられずあるをいふ◎(五)此事乃狀乎尊美
 嬉美忝美耳奈母(解)此の發達進歩の状態を全く大神の賜と尊く嬉しく忝く思ひ
 ての意▲是全久大神等乃大支尊支御惠止忝美耳奈母意義同上◎(六)例乃隨爾宇

◎同月並祭祀詞 用語及解釋

豆乃幣帛捧奉利且某月乃月並乃御祭仕奉其久乎平介久聞食豆解常の例
 によりて珍貴の幣帛を捧奉りて何月の月並祭仕奉ることを平安に聞食との意
 ▲毎毛仕奉留月並乃御祭仕奉留止志且献留禮代乃幣帛乎赤丹乃穗爾聞食且意
 義隠れたる所なし◎解天壤日月乃共無窮天津日嗣乃餘盛乎彌益々爾榮延志米
 給比解天地日月と共に窮り無き天位の隆盛を彌々益々榮えさせ給への意▲天
 皇乃大御代乎常警爾際警爾守護幸開給比意義明瞭◎八教使等心乎焦志身乎碎
 支且勤美勤奉留教道乎彌進美爾進米彌弘米爾弘米志米人皆乃心毛安久履行波
 志米給閉止恐美恐美母白須解する所なし▲天下公民乎守護惠美幸開給比教道
 乎彌明加爾進美明米彌確實爾彌現實爾履行波志米給閉止恐美恐美母白須意義
 隠れなし

月並祭祝詞(文例)

日爾異爾仕奉利朝奈夕奈仁拜美奉流掛卷母恐支某大神乃大前
 乎齋奉里及教祖止扇奉禮留某命乎毛併奉利且姓名謹美敬比且
 白左久大神乃廣支厚支恩賴爾依利天近來絶延天天變地異乃災

無久匹時妙爾次第行波禮萬物榮繁里天百乃事々日爾新麻里蒼
 生乃供給豐爾牟久佐加爾富足比人道開發進步美且鳥獸爾至留
 麻心安久使役波留々此事乃狀乎尊美嬉美忝美且奈母例乃隨
 爾宇豆幣帛捧奉利且某月乃月並乃御祭仕奉良久乎平介久安
 介久聞食且天壤日月乃共無窮天津日嗣乃隆盛乎彌益々爾榮延
 志米給比教使等心乎焦志身乎碎支且勤美務奉留教道乎彌進美
 爾進米彌弘米仁弘米明良米人皆乃心母安久履行波志米給閉止恐
 美恐美母白須(編者)

降神詞(用語及解釋)

◎一掛卷母恐支某大神此乃清座爾降坐世乃畏美畏美母白須▲掛卷母綾爾畏支
 某皇神等今日神祭仕奉流爾依利且是乃齋時爾降座坐世止白須(解)言端に掛けて
 申すも恐多き何々大神達今日神祭仕奉るに依りて是の齋時に降りましますと
 白すといふ意清座及齋時は共に設け置きたる清淨なる神座のこと▲アハリヤ、

アソビストマヲサヌ、アサクラニ、某大神降りマシマセトマヲス(解)これは、降神行事に清掻を用うる、其の時に、歌の様なる調もて、琴音に和して白上ぐる詞である。アハリヤは土佐日記中の船歌に、カヘリヤとあると同じく、琴の音の調をとつたやうでもあるが、アハ及やは、何れも感嘆のことばであるから嘆美の詞と見るがよい。アソビは、音楽のこと、即ち清掻を指すのである。アサクラは、鮮座にて、新鮮清浄なる神座のことであるから、通じて解けば、あはれ自分等今斯く清掻を爲つ、あるは、唯尋常の人の心を悦ばす爲でなくて、神の御心を和して、而して此の新鮮清浄なる神座に降りましますと申す意であるといふ義である。又、アハリヤ、アソビストマヲス、又、アハリヤ、アソビストマヲスといふ人あるが何れも非でありませす。

降神祝詞(文例)

言卷母貴伎、大年神、御年神、若年神、此乃齋時爾降坐世刀、畏美、畏美、母白(神事略上)

昇神詞(用語及釋解)

○(一)掛母、恐支、某大神等乎、今送奉良幸、故各々母元御座爾還鎮座世止、恐美、恐美、母白(須)解、言端にかけて申すも、恐多き、何々大神等を今送り奉らうれであるから、神達は、各々其の元の御座に還り鎮まりませと白すとの意。▲此乃清庭爾招奉座留、掛欲毛、恐支、某大神、送奉流、各々母元御座爾還鎮座世止、恐美、恐美、母白、意義同上。▲アハリヤ、アソビストマヲサヌ、某大神、モトツミクラニ、カヘリシヅマヲマセトマヲス(解)降神詞の條に出て居るから略す。

歸神祝詞(文例)

此乃清庭爾奉招留、掛欲母貴伎、御年神等、袁奉送流、各々母元御座爾還鎮座刀、恐々美、母申(神事略上)

祓詞(用語及解釋)

○(一)掛卷母、恐支、伊佐奈伎大神、筑紫乃日向乃橘乃小門乃阿波岐原爾、御禊祓給比志、時爾生坐世留、祓戸乃大神等(解)言端に掛けて言はむも、恐多き、伊邪奈岐大神が彼の築紫の日向なる橘の水門の小門の阿波岐原にて、御禊祓爲給ひし時に、生だませる、祓戸の事知り給ふ神等といふこと、此の故事は、記紀の神代の巻なる大

神が黄泉國より歸り給ひし條にあるのである。悉しきことは原書に就きて見られたし。▲言欲母綾爾畏支神伊佐奈岐大神及御禊祓爲給比志時爾生坐世留瀨織津比賣神速秋津比賣神氣吹戸主神速佐須良比賣神四柱乃祓戸大神等乃御前白左久(解)此神等の御上に就きては、記傳及倭姫世紀に載せられたれば就きて見られし。◎(二)今日仕奉留官人等我過犯世留罪穢有良牟乎樂祓給比清米給倍止申須事平、聞食世止恐美恐美母白須(解)今日神祭仕奉る官人等が過失せる罪穢有らうりれをば祓消め給へと申す事を、聞食せと恐れくして申すとの意。▲今日某大神乃御祭仕奉留神職等平始米耳參來集留人等乃過犯志耶牟罪穢乎、祓給比清給閉止、畏美畏美母申須意義同上。

祓詞(文例)

掛卷母恐支伊佐奈岐大神筑紫乃日向乃橘乃小門乃阿波岐原爾御禊祓給比志時爾生坐世留祓戸乃大神等今日仕奉留官人等我過犯世留罪穢有良牟乎樂祓給比清給倍止申須事平聞食世止恐美恐美母白須(神社祭式)

開扉祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母恐支某大神乃大前爾畏美畏美母白左久(解)言端に懸けて申すも恐多き何々大神の大前に、恐れくして白し上ぐ。▲言欲母畏支吾皇神等乃廣前爾某恐美恐美母白左久意義同上。▲此乃神殿乎、安宮乃常宮止神隨鎮座坐す、掛卷母文爾畏支某大神乃宇豆乃御前爾某畏美畏美母白左久(解)この神殿をうら安き宮常盤に鎮まり坐すべき宮と神の御心の任に鎮まり坐す、恐多き某大神の嚴肅なる御前に、姓名畏れくして白すの意。◎(二)是與利今年乃春乃御祭又は秋乃大御祭或は年仁一度乃大御祭又は年始乃神祭仕奉留爾依利(解)今日これから今年の春祭又は其の時に應じて執行奉事るによりての意。▲御靈代乎、假宮又は本殿(遷奉留爾依利(解)これは遷宮式などに用うる詞である。御靈代とは御神體のこと。假宮とか本宮とかは時に應じて書く。◎(三)恐美恐美母大御扉開奉瓦久乎(解)恐れながらも神殿の大御扉を開奉ることを。◎(四)相宇豆那比給比(解)御受諸賜はりて。▲平介久安介久聞食(解)安く御思召給ひて。▲過都事无久安久穩爾(解)瓦志米給閉止、恐美恐美母白須(解)過失無く安穩に奉事せさせ給へと恐れながら申すの意。▲手乃鎮比足乃鎮比有瓦志米受心靜爾(解)仕奉瓦志米給閉止、恐美恐美母

白須解手の過失足の過失なく精神靜肅に仕奉らしめ給へど恐れくして白すの
 意▲恐見恐見母慎美仕奉良年間毛過犯す事乃有良平神直日大直日爾見
 直志聞直志給比豆谷給布事無久崇給布事無久御祭美波志久仕奉良志米給閉止
 恐美恐美母白す解恐れくながらも謹愼して奉事する間にも不知不識の間に
 過失もあらんうれをば神直日といふ神大直日といふ神の見直し聞直し給ふ如
 く寛大に見そなはして咎め給ふことも崇り給ふこともなく神祭美麗しく仕奉
 らしめ給へど恐れくして白すの意

開扉祝詞(文例)

掛卷母 恐支某大神乃大前爾 某恐美 恐美母 白左久 是與利今年乃
 春乃大御祭(或ハ秋乃御祭又ハ年仁一度乃大御祭或ハ年始乃御
 祭)仕奉 留仁依利豆 恐美 恐美母 大御扉開奉良久乎 相宇豆那比給
 比豆手乃鎖比足乃鎖比有良志米受 心靜爾 仕奉良久志米給閉止 恐
 美 恐美母 白須(編者)

閉扉祝詞(用語及解釋)

◎(一)言欲母 畏支某大神乃宇豆能御前爾 畏美 畏美母 白左久 解言端にかけて白す
 も畏多き某大神の嚴肅なる御前に畏懼しつゝ白すの意 ▲此乃神殿乎 安宮乃常
 宮止鎮座里坐須吾大神乃大前爾 白左久 解上に出でたり ◎二大神乃高支尊支恩
 願爾依利耳今年乃春乃大御祭母無久事無久美波志久仕奉利訖奴(解)大神の高
 い又尊い恩澤の幸に依りて今年の今日の春の大祭も不吉なる事も難事も無く
 て立派に奉事し訖り了したといふこと ▲大神等乃廣支厚支冥助爾依利耳障留
 事無久蹉跌久事無久今年乃秋乃大御祭心安久賑々志久今日仕奉利畢奴(解)大神
 等の廣い又厚い御冥助によりて障る事もつまづく事も無くして今年の秋の大
 祭を賑々しく今日の只今奉事し畢りましたといふこと ◎三故今御扉閉奉良平
 乎平介久安介久相宇豆那比給閉止 恐美 恐美母 白須 解うこで今御扉閉奉らう
 とすることを平安に思召して御受諾下されど恐れくして白すといふこと ▲故今
 御扉閉奉良平止爲留狀乎 聞食世止 畏美 畏見母 白須 意義同上

閉扉祝詞(文例)

言欲母 畏支某大神乃宇豆能御前爾 畏美 畏美母 白左久 大神等乃
 廣支厚支冥助爾依利耳 障留事無久蹉跌久事無久今年乃秋乃大

御祭心安久賑々志久。今仕奉利畢奴。故今御扉閉奉良牟乎。平介久安介久相宇豆那比給閉止。恐美恐美母白須(編者)

地鎮祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)此地乎宇斯波伎坐須大地主神乃御前爾白左久(解)此の地を領知し給ふ大地主神の御前に申すとの意。大地主神は御名の如く此の大地を守護する大神である。掛卷母長丈大地主神。垣山姫神。産土神。乃御前爾白左久(解)垣山姫神は土を知る神である。掛卷母長丈生井神。榮井神。綱長井神。阿須波神。波比伎神。乃大前爾恐美恐美母白左久(解)生井榮井綱長井の三神は井水を知る神。阿須波波比伎の二神は門口の出入昇降の所を守護する神である。◎(二)此所用官位姓名乃家將作止爲(解)する所なし。▲此乃新室敷居乎此地乎齋齋齋乎取持天石切平均地曳平均掃清米氏家居乃地止齋定牟止爲(解)此の新室建ひ此の地を齋清めたる齋齋を持て石切平均し土曳き平均し掃清めて家屋敷居の地と齋定めやうとしての意。◎(三)禮代乃御酒御饌奉爾耳乞祈申須事波此踏平均須土乃平可爾突堅牟留齋根乃動事無久大神等乃幸閉坐耳此造留家棟門廣久高久令榮茲昆古乃神乃荒

備給布事無久守幸閉給閉止(解)禮代として献る御酒御饌等を捧げ奉りて乞祈り申す事は今此の踏みならず土の平かに柱は突堅むる磐根の動く事なく幸福ならしめ(解)此の造る家の棟門廣く高く築えさせ給ひ火事の憂なく守護し給へとの意。◎(四)此乃大宮地乎今母往前毛彌益々爾守幸給氏千代万代乎平久安久下動美寄來牟地震乃災无久大雨零利水溢留登毛大地乃岩崩傷布事无久堅磐爾常磐爾守給比幸給閉止(解)する所なし。▲此乃新室宮地乃底津磐根乃極美下津綱根波布虫乃禍無久夜守日守爾護給比於美給閉止(解)この新開墾の大宮敷地の底の磐根の極下の綱根を昆虫の禍無く夜盡守護し給ひ給へといふ意。▲(五)懼美懼美母白(解)鹿自物膝折伏字自物頭根突拔耳稱言竟奉耳久止白(解)上に出でたり。▲禮代乃幣帛乎捧持耳恐美恐美母白(解)する所なし。但上に献饌の詞無き場合に禮代の云々といふべし。

地鎮祭祝詞(文例)

掛卷母畏丈大地主神。垣山姫神。産土神。御前爾白久。此乃新室敷居牟此地乎。齋齋齋乎取持天石切平均地曳平均掃清米氏家居乃地

◎閉扉祝詞 月辭及解釋 ◎開扉祝詞 文例

登齋定半止爲氏奉留幣帛波由紀乃御食御酒波甕戸高知甕腹滿
並立山野乃物波甘菜幸菜青海原乃物波鱸乃廣物鱸能狹物與津
藻菜邊津藻菜爾至迄爾如橫山置足波志豆奉留幣帛乎安幣帛乃
足幣帛止皇神乃御心毛平久所聞食豆此乃新墾官地乃底津磐根
乃極美下津綱根波布虫能禍无久夜守日守爾護給比矜美給閉止
鹿自物膝折伏宇自物頸根突拔豆稱言竟奉久止白(神祭式)

上棟祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母畏支手置帆負命彦狹知命乃大前爾恐美恐美母白左久(解)手置帆負命
彦狹知命之二神は木工のこを知り給ふ大神である他は聞えたるが如し▲是
乃神床爾神籬居豆招奉里齋奉留掛卷母恐支手置帆負命彦狹知命二柱乃大神乃
宇豆乃大前爾某畏美畏美母白左久(解)上に出でたり◎(二)九仁木工姓名此乃大
宮又は家屋(平)造始乎留時爾祈白志支(解)先日本匠姓名が此の大宮又は家屋を造
り始むる時に祈り請申しましたの意は柱立祭等をいふのである▲彙仁此乃
大宮造營始米半止世志時大神等爾祈白志支(解)意義同上◎(三)如此容易加瓦奴事

平(支)吾皇神等守給比助給比耳法乃任爾平介久安介久事成竟之米給閉止祈白志
支(解)斯くの如く造營の容易ならぬ事は殊更に大神達の御冥助を被らねば成功
得ることにあらず願はくば大神等守護し給ひ冥助し給ひて規則違はず無事平
安に成功せしめ給へど祈り申しましたの意▲今此乃宮造營耳半止爲留業乎神
隨冥助給比幸閉給比耳障留事無久過失都事無久造營竣功志米給閉止祈白志支
(解)神隨は神の御心のまに、又功德無限の神なるによりての意他は聞えたる
が如し◎(四)故祈白志之母願久無違事無過事令造竟給閉留事乎貴美喜美(解)ソコ
テ祈請白ししました靈驗著しく幸被らしめ給ひて法則に違はず過失もなく竣功
させ給へることを貴み喜みての意▲故祈乃悉皆相宇豆那比給比耳蹉跌久事無
久落留事無久事成就閉志米給閉留大御神德乎尊美重志美忝那奈美豆(解)ソコデ
願望の悉皆御受諾下されて工事中何一つとして蹉跌かず遺漏なく事成就させ
給へる大神の大なる神徳を尊重し忝く思つての意◎(五)今日乃生日能足日爾謝
代乃幣帛止大御酒大御饌乎凡物爾置足波志豆恐美恐美母稱辭竟奉留狀乎神隨
聞食豆(解)今日の生々足々といふ吉日に御禮の獻物として神酒御饌其他種々置
足はして棟祭仕奉る事を安らかに聞取り給ひての意▲今日乃生日爾是乃神殿

乃上棟乃御祭式仕奉留止手人等諸朝日乃豊築登爾群鳥乃伊競比參集比且拜美奉留爾依利且神官等式乃隨々大神乃御靈乎招座奉利且禮代乃物捧介奉利慎美敬比齋比奉瓦久乎美瓦爾廣瓦爾聞食相宇豆那比給比且解手人は職人のこと群鳥乃「伊競比」を中間に置いて「參集比」に懸りたる枕詞である又伊競比の伊は強辭群鳥の競ひ集まるといふ意にて大工職人の參集することを形容して言ひなしたのである式乃隨爾は上棟祭乃儀式に隨つての意他は解するの要なからん◎(六)午母住前母此大宮或は幣殿拜殿廊御門乎安宮止止殿の外は此三字を除く吾皇神乃御靈給比天築立多流柱取翠多流棟桁梁乃錯比無動鳴事打堅多流釘乃綴備取茸流蕤乃陳伎無久千代常盤爾守給幸給閉止恐美恐美母白解錯比は木合にて木と木の合目なり陳は錯綜すること他は自から意義明瞭なり

將門神社上棟祭詞(文例)

是乃神床爾神籬居互招奉里齋奉留掛卷母恐支手置帆負命彦狹知命二柱乃大神乃宇豆乃大前爾是乃神田神社爾仕奉留本居豐額畏美畏美母白左久言卷母恐可禮杆伊邪那岐命伊邪那美命二

柱乃大神淤能碁呂嶋爾天降座互天之御柱乎見立八尋殿衰見立給比志大御業乎受繼給比且汝命二柱乃奇久妙奈留御量以且創米給比教閉給比志與利現身乃人乃世止成豆毛木乃道能工等齋莫越山山乃岩賀根高々爾飛驒人乃打墨繩乃一筋爾大伎御稜威乎畏美仰支尊比奉里互三枝草乃三端四端乃殿造彌精久彌美久成行久爾毛尙眞木柱本乃心乎忘禮受注連引延幣立奉里互御祭事仕奉留手風乎工等賀家爾毛殘志且負々那々其形婆可里毛仕奉留慣在留波大神乃御心爾毛然古曾宇卒賀志久聞食米故今日乃生日爾是乃神殿乃上棟乃御祭式仕奉留止手人等諸朝日乃豊築登爾群鳥伊競比參集比且拜美奉留爾依且神官等式乃隨々大神乃御靈乎招座奉利且禮代乃物捧介奉利慎美敬比治米齋比奉良久乎美良爾廣良爾聞食相宇豆那比給閉止恐美恐美母白須爾辭集上

大殿祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母畏支屋船句々能智神屋船豊宇氣姫神乃大前爾、恐美恐美毛白左久(解)
 この二柱は、主として家屋の守護神である◎(二)此大宮乎神隨守賜幸賜氏大宮地
 乃底津磐根乃極美下津網根昆虫乃災无久(解)この大宮を神徳の奇しき隨爾守護
 し幸へ給ひて、大宮敷地の底の磐根の極下の網根を害する昆虫の災害なくとの
 意下津網根は、下の網根にて網根は家屋の柱根などを緊搏りたる網昆虫は虫の
 總名▲此大宮乎守護幸賜比耳大宮地乃底津磐根乃緩比礎石乃動加多寄留事無
 久意聞えたらひ▲此家所乃大土能回美礎石廻緩比無久意義明瞭◎(三)高天原波
 青雲乃靄久極美天之血垂飛鳥乃災無久(解)上は青雲の靄くまでの高さ限籠の上
 の烟出を飛ぶ鳥などの災害するなく血垂は龍の上の烟出の所をいふ◎(四)築立
 多留柱桁梁戸牖乃錯比動鳴事无久打堅多留釘乃緩比取葺留草乃噪伎無久(解)
 築立たる柱とか桁とか梁又は戸や牖などの木と木との合目動鳴る事無く打堅
 めたる釘の緩び取葺ける草のみだれ無くとの義錯比は木合ひにて木と木との
 合目をいふ噪は葺草などの亂脈なること◎(五)御床都比乃佐夜伎无久(解)神殿な
 どにては、御殿の床のギチ〜と喧しく鳴る事も無く▲牀都比乃佐夜伎夜目乃

伊須々伎伊豆都志支事無久(解)人の家なごにてる牀のさや〜と響くことなく、
 夜眠などの醒めて漫ならず又驚きあわて、立噪ぐ如きことなくの意伊須々の
 伊は接頭語須々伎は目の醒めてさや〜として眠られず物騒がしく覺ゆること。
 伊豆都志伎は驚き遠て、さわぐことである◎(六)平介久安介久守幸給幣止畏美
 畏美母白須(解)宮殿神殿又は人の家屋を平安に守護し幸福あらしめ給へど畏れ
 くて白すとの意。

大殿祭(文例)

掛毛畏伎屋船句々能智神屋船豊宇氣姫神乃大前爾、恐美恐美毛
 白久此大宮乎(人)ノ家ニテハ、此家ヲト白スベシ(神隨守賜幸賜氏
 大宮地乃(家)地乃底津磐根乃極美下津網根昆虫乃災无久高天原
 波青雲乃靄久極美天之血垂飛鳥乃災无久築立多留柱桁梁戸牖
 乃錯比動鳴事无久打堅多留釘乃緩比取葺留草乃(或ハ板目)噪
 伎无久御床都比乃佐夜伎无久(人)ノ家ニテハ、牀都比乃佐夜伎夜
 目乃伊須々伎伊豆都志支事无久ト白スナリ)平久安久守幸給幣

◎大殿祭祝詞 用語及解釋

◎大殿祭 文例

止、畏美、畏、美、母、白、(祭文例)

社殿神會落成奉告祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)此乃神殿乃相殿爾假乃御座止鎮麻里座須掛卷母恐支某大神乃御前爾某恐美恐美母白左久(解)相殿とは、一の主たる祭神ありて、其の側面の神座を云ふのである。故に相殿神といふのも、主祭神の側座に、其神社の主たる神に關係ある神を併祀したるうれであるが、こゝは其の側座を假殿に暫時借用したのである。他は聞えたるが如し。▲此能行宮爾神隨安介久大座坐す言欲母畏支某大神乃大前爾姓名畏見畏見母白左久(解)行宮は俗にオタビシヨといふそれである。此の神殿造營中假の御座としてましますのである。神隨は神の御心のまに、又神なるによりの意。大座坐の大は尊稱言である。▲此乃神床乎伊豆乃真床止志米引延延豆假乃御座止坐坐奉留掛卷毛文爾懼費某大神達乃廣前爾姓名謹美敬比畏美畏美母白左久(解)これは教會などの神床に、造營中暫時遷奉りたるのである。志米は注連繩のこと。他は聞えたるが如し。◎(二)履爾教會改造其平止志天告奉利志與利教師等波更爾毛言波豆大神乃恩願乎被禮留四方八方乃信徒等波一日片時毛休

奉事无久息布事无久勤美務米豆(解)さきに教會を改造せむと欲する旨を告げ奉りてより、教師は勿論大神の恩頼に浴しつゝある四方八方の信徒等は、一日片時も休息せず勤め務めてといふ意。▲神殿改造留止志豆大神乎此乃所爾遷坐奉利豆與利神職乎始米木工等波夜佐爾伊毛慰受勤美務米豆(解)木工は大工のこと。夜佐爾は晝は終日勤勞して夜さへ意。他は聞えたるが如し。◎(三)執留手斧打都墨繩乃一筋爾仕奉禮獎最麗志久最麗志久神殿波落成奴(解)執る手斧は遠ひ過たず、打つ墨繩も過つことなきりの一道一心に仕奉ればの意。他は聞えたるが如し。▲喪無久事無久神殿波葺替終利奴(解)無事に神殿は葺替終れりとの意。▲落留事無久漏留事無久殿舍波巨大久壯殿志久改造畢利奴(解)落つる事も又漏るゝ事もなく殿舍を極めて巨大壯殿に改造落成したりとの意。◎(四)故今日乃吉日乃足日爾竣功仕奉禮留事乃狀乎告奉其平止志豆神祭仕奉其久乎平介久安介久聞食出止恐畏恐美母白須(解)うで今日の吉足日に殿舍竣功の狀態を奉告の爲神祭仕へ奉ること、平安に御受諾下されと申意。▲故今日乎吉日止撰定米耳落成乃御祭仕奉其平止志豆献留幣帛乎美其爾聞食宇豆那比給爾止恐畏恐美母白須(解)する所なし。

◎社殿落成奉告祭祝詞 用語及解釋

社殿神會落成奉告祭祝詞(文例)

此乃神殿乃相殿爾、假乃御座止鎮麻里坐須、掛卷母恐支某大神乃御前爾某恐美恐美母白左久。曩爾教會改造良牟止志天、告奉利志與利、教師等波更爾毛言波豆大神乃恩賴乎被禮留四方八方乃信徒等波、一日片時毛休牟事無久息布事無久勤美務米豆、執留手斧打都墨繩乃一筋爾仕奉禮、最麗志久最嚴志久神殿波落成如故。今日乃吉日乃足日爾竣功仕奉禮留事乃狀乎告奉良牟止志豆、神祭仕奉良久乎、平介久安介久聞食世止恐美、恐美母白須(編者)

社殿神會造營奉告祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母 恐支、某大神止稱言竟奉留皇大神乃大前爾、姓名恐美恐美母白左久(解)稱言竟奉留は御神徳を稱讚して、壯嚴なる御祭仕奉ると云ふこと、他は聞ひたるが如し、是乃神社爾鎮麻里坐須、皇神等乃宇豆乃御前爾、姓名頭根突拔豆白左久(解)宇豆は嚴肅の意、頭根突拔豆は平伏すること◎(二)吾皇神乃鎮麻里坐須、此乃教

會乃御殿毛許々太乃年月經、留隨々、最甚久古備荒、爾爾、(解)吾教會の崇め齋き奉りつゝある、皇神の鎮座し給ふ此の教會の御殿も多くの年月を経過するに隨ひて、最も甚しく古び暴れたればの意、大神乃天乃御蔭日乃御蔭止鎮座す、此乃神殿毛、瓊乃年乃來經、爾、朽損波延、留留、長美奉利、(解)大神の天を覆ひ日を蔽ひ給ふ御在處と鎮まり座す此の神殿も、年が經過して朽損したるを長多きことと思ひての意、瓊乃は年の枕詞である、皇神等乃鎮座須、大御殿乃露霜爾甚久所損、留留乎、恐支事、爾、思奉利、(解)意義隠れたる所なし◎(三)今度何某等相議利、豆大神乃氏子乎、語其比、大宮修繕比、仕奉良牟止須、(解)今度何某等協議して大神の氏子を談合し、大宮を修繕し奉らうと思ふの意、教會所造改米仕奉良牟止須、意義、明瞭、故年乃中、爾、月乎撰、爾、月乃中、爾、日乎撰、定米耳、今日乃吉日乃足日、與利、意、隠れたる所なし、故今日乃吉日能吉時、(解)其工事、爾、取掛良牟止須、留留乎、聞食宇豆那比、給比、(解)宇豆那布は御受諾の意、手斧始仕奉良牟止須、留留乎、皇神乃御心、爾、毛、宇牟賀志止、思召宇豆那比、給比、(解)宇牟賀志は嬉しといふ意、他は聞ひたるが如し◎(五)始終事幸久、枉事無久、成畢、爾、志米、給爾止、恐美、恐美母、告奉良牟止、白須、(解)始終幸にして、不吉の事無く、落成せしめ給へど、恐れく、て白すの意、木

の如く禮義の品物といふ意又返禮の送物といふ意にも多く用ゐるのである他は聞えたるが如し。

假遷宮本殿(文例)

掛卷母 恐伎吾大神能大前爾 恐美恐美母白久 天能御蔭日能御蔭
登隱理坐須此大宮能(葺替ノ時ニハ此間ニ上葺流板能ト云フ五
字ヲ加フベシ)許々良乃年月亥經氏自然爾朽損禮奴流衰此度新
久(葺替ノ時ニハ新久ノ二字ヲ葺替ト換フベシ)仕奉流爾依氏今
日能今夕能吉日能吉夜爾 恐美恐美母 假宮爾遷奉半止須此狀衰
平久安久聞食氏神隨遷幸勢登禮代能幣帛衰捧持氏 恐美恐美母
稱辭竟奉久登白(祭文例)

假遷宮假殿(用語及解釋)

○(一)掛卷母 恐伎某神社乃大前爾 宮司位苗字名恐美恐美母白左久(解)上に出でた
り ▲掛卷母 畏支吾大神乃御前爾 恐美恐美母白左久(意義同上) ○(二)皇神乃鎮坐須

大御殿乃露霜爾強久所損故流乎修造里仕奉乃爲且今日乃今宵乃吉時爾此行宮
爾奉遷奉坐里禮代乃御饗刀立奉流御酒御食海河山野乃雜物乎凡物爾置足方志
且奉良久乎平久安久聞食且解前に出でたり ▲今日乃此日爾此乃假宮爾遷志坐
世奉利且大前爾持齋麻波利御良御酒魚菜種々乃物乎置足波志且奉留事乎平良
氣久安良介久聞食且意義明瞭 ○(三)暫乃問穩爾鎮坐世止 恐美恐美母白須意義
聞えたるが如し ▲大宮造功竟奉良半日麻波此行宮衰志豆宮止 神隨平介久安
介久大座坐勢登恐美恐美母白須(解)志豆宮は靜宮の意大宮造功竟は建築落成或
は修繕落成をいふ他の意義は明瞭 ○假宮乃事殺太留乎合給布事無久健給布事
無久大御心毛穩爾且此處爾鎮坐世乃惶々美母申須(解)事殺太留は簡單にして粗
未なこと健は健々しく荒れ給ふこと。

假遷宮假殿(文例)

掛母 恐伎吾大神能大前爾 恐美恐美母白佐久 大宮造功竟葺替ノ
時ニハ大宮葺終ト白スベシ 奉良半日麻波此行宮衰志豆宮止
神隨平介久安介久大座坐勢登恐美恐美母白(祭文例)

正遷宮假殿祭祝詞(用語及解釋)

○(一)掛母 恐伎 吾大神乃 大前爾 恐美 恐美 母白 左久 ○(二)往志 某乃 年月爾 御殿乎 改
 米造利 奉瓦 久止 爲耳 此乃 假宮爾 遷志 坐世 奉利 支爰 仁此 某月 日爾 至理 御殿 改米
 造利 畢奴 ○大神乃 鎮麻里 座平 大御在 香乎 日爾 異爾 伊蘇之 美仕 奉里 訖奴 解伊 蘇
 之 牟は 勉勵の こと他は 聞えたり ▲瑞乃 御殿 既爾 修米 繕比 仕奉里 竟奴 解ミツは
 麗は しく 清らかなる こと ▲御殿の 屋根 美波 志久 葺替 仕奉利 訖奴 ○(三)是爾 依利
 耳 此 某月 某日 能夜 暮吉 日能 吉夜 止齋 定米 耳 恐美 恐美 毛返 奉瓦 牟止 須 解 是爾 依
 利 耳は 上の 造利 訖奴 といふ 類の 句を 擧げて 下を 起したのである ▲故 今日 乃 夕日 乃
 降乎 吉日 能良 辰止 齋定 米耳 大御 形代 乎 元津 御座 爾 遷奉 瓦久 乎 解 夕日 乃 降は 大
 陽の 傾く 夕方 元津 御座の 津は の 意元 の 御座 とは 本殿の 御座 である ▲故 今日
 乃 生日 乃 足日 爾 慎敬 比 遷志 鎮米 坐世 奉留 事乎 意義 明瞭 ○(四)大神乃 御心 爾 平介
 久 安介 久 聞食 氏 神長 柄 還行 坐勢 登 恐美 恐美 母白 須 ▲聞食 世 止 恐美 恐美 母白 須
 意義 聞えたる が如し。

正遷宮假殿(文例)

掛卷母 恐伎 吾大神乃 大前爾 恐美 恐美 毛白 左久 瑞乃 御殿 既爾 仕
 奉 竟奴 葺替 時ニハ 葺替 奉奴 ト 白ス ベシ 是爾 依耳 此 某月 某日
 能夜 暮吉 日能 吉夜 登 齋定 氏 恐美 恐美 母返 奉 良牟 登 須 故如此 能
 狀衰 大神乃 御心 爾 平介 久 安介 久 聞食 氏 神長 柄 還 幸行 勢 登 恐美
 恐美 母白 (祭文例)

正遷宮本殿祭祝詞(用語及解釋)

○(一)掛卷母 恐伎 吾大神乃 大前爾 恐美 恐美 母白 左久 ○(二)大神乃 敷坐 須 此乃 宮地
 乃 下津 磐根 爾 宮柱 太知 立高 天原 仁水 木高 知耳 朝 御蔭 夕御 蔭乃 隱坐 氏 万代 仁神
 佐備 往牟 美豆 乃 御殿 仕奉 耳 忌之 里 伊豆 之 利 此乃 新宮 爾 奉遷 氏 解 大神の 鎮坐 し
 給ふ 此の 宮地 の 下の 磐根 に 宮殿 の 柱を 太く 堅固 に 敷立 上は 宮殿 の 千木 を 高く
 知立 て 造營 仕奉 れる 宮殿 に 朝夕 安く 鎮座 し 給ひ て 万世 に 最も 神々 しく 古び
 往かん 麗は しく 立派 なる 御殿 を 仕奉 りて 齋清 回り つゝ 今此 の 新宮 に 遷奉 りて
 といふ 意 神佐 備往 とは かり しく なり ゆく こと ▲今日 乃 此日 爾 本乃 御殿 爾
 遷志 鎮米 坐世 奉利 耳 ○(三)天之 御蔭 日之 御蔭 止 造仕 奉 留 瑞之 御殿 乎 安宮 乃 志

正遷宮本殿祭祝詞 用語及解釋

正遷宮本殿 文例

豆宮止故乃如安久穩爾鎮座氏天皇賀朝廷其堅誓爾常誓爾守奉理天下平介久惠賜賜助賜賜止大御饌大御酒乎机物爾置足波志天恐美恐美母稱言竟奉良久止白須解何れも上に出でたり▲大前乎持齋麻波利慎敬比奉留御食波和稻荒稻爾御酒波鹽上高知鹽腹滿並且儲乃廣物儲乃狹物與津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜爾至留麻傳置足波志且仕奉留事乎平介久安介久聞食且彌遠長爾鎮利坐世止白須事乎聞食世止白須何れも上に解き置けり▲禮代乃幣波明妙照妙和布鹿布御酒波鹽乃閉高知鹽乃腹滿並反御饌波汁爾毛穎爾毛山野海河乃雜々物乎如横山引居置且奉留充座乎安幣帛乃足幣帛止豐明爾所聞食且天地日月乃共爾彌遠長仁平介久鎮座世止懼美懼美母白須皆前に出でたる詞である。

正遷宮本殿文例

掛卷母恐伎吾大神乃大前爾恐美恐美母白左久天之御蔭日之御蔭止造仕奉禮流葺替ノ時ニハ葺替奉禮流ト白スベシ瑞之御殿乎安宮乃志豆宮止故能如安久穩爾鎮座氏天皇賀朝廷其堅誓爾常誓爾守奉理天下平介久惠賜賜助給閉止大御饌大御酒

乎机物爾置足波斯天恐見恐見母稱辭竟奉良久止白(祭文例)

教祖祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)此乃教會乃教祖止稱言竟奉留掛卷母恐美某命乃宇豆乃御前爾姓名恐美恐美母白左久◎(二)阿波禮今月今日乃何日止去本日波懼久毛汝命乃幽界乃神止神幸給比志日爾志有禮婆解阿波禮は嘆詞神幸は神となりて旅立給ひしことをいひ給比志の志は過去を示す詞日爾志の志は強詞である他の解は略す▲今日何日汝命乃御祭日爾志有禮婆解略す◎(三)此乃貴久毛有利懷志支今日乎誰加波忘禮奉良(解)この貴くもあり懐しき汝命の御祭日を誰か忘れ申さうや忘れられずの意にて誰かはのかは反語である▲教師等波更爾毛言波汝命乃說教乎聞仰支見識志人乃片時母忘其延其禮奴日爾古會有利禮(解)教師等は勿論教祖とます汝命の說教を或は聞き或は書物にて見識りたる人の片時も忘れられぬ日であるとの意忘其延の良延はれの延言古會は神禮の係詞即ち神禮は古會の結詞である◎(四)故御祭仕奉止志耳教師等始米凡大御教乃蔭爾隱呂比清支正志支誠乃道乎履行久者波忌回利清回里耳我先爾止集比參來(解)そこで御祭仕

◎正遷宮本殿 文例

◎教祖祭祝詞 用語及解釋

奉るとして、教師等始め、凡そ大御教の貴き高き庇蔭を蒙り、清き正しき誠の道を履み行ふ者は皆忌清回りて、我先にと参拜しましたとの意◎(五)禮代乃幣帛波御酒波、麩乃閉高知、麩乃腹滿並邊豆、和稻荒稻、甘菜、辛菜、鱒乃廣物、鱒乃狹物、與津藻菜邊津藻菜、時乃木實、爾至留迄、齋机乃上毛、撓回爾、置足波志豆、奉良久乎、宇良那豐明爾、聞食世止白須解、何れも上に出て居る◎(六)如此御祭仕奉利耳、悦備奉留事波、教道爾奈母阿留解、答す。今日乃神祭仕奉留爾、依利耳毛、移利變留世乃中乃事爾、思比出教御祖汝御神乃御德乎、森布情奈母切爾起連流解、今日此の御祭仕奉るにつけても、轉變の世の状態を思ひ出し、且つは教祖の徳をしのび奉る情が切りに興るとの意◎(七)阿波禮懷志支加毛汝命夜、慕波志支加毛汝命乃大御德也、忝那奈支加母汝命乃遺志給爾留恩德夜解、ア、なつかしいことよ、ア汝命、ア、したはしきことよ、ア教祖の御徳、かたじけなきことよ、ア教祖が生前に遺し給へる御恩徳の意◎(八)河波禮汝命能現世爾居坐志之時乎、回想世變解、ア、教祖が現世に存生し給ひし時の事を回想すればの意。▲世變、刈薦乃亂、亂、亂、耳乃道暗久、陋志久解、亂世にて未開野蠻の俗に流れ。▲群雄割據乃時代、爾志有禮、人乃品甚久、隔太利解、舊幕時代の農工商の奴隷視されたるをいふ。▲世波最亂、波志久、邪

仁説四方、蓬蔭利解、亂世にて邪説四方に行はれの意。▲右往左行止布、大八衢爾人皆乃迷比、苦乎時、爾豆有邪里解、種々乃邪説に迷はされて、庶民の苦みつゝ、あつた時だとの意。▲此乃時、爾現波禮坐志耳、神乃道人乃行久、遊支道乎、明良米、或波教聞或波論志耳、辛支淵苦支境仁、在留人皆乎、救比給爾留、大神波、教祖止仰奉禮留、汝命爾奈毛解、此の亂世に現出して、神道を説き人道を明らめ教へ諭して、苦界に沈める人を救済し給ひしは、我教祖と仰ぎ奉る汝命なりとの意。▲汝命波此時、爾生出座耳、邪説乎、排斥邪真道乎、弘米給比志、大支尊支御功德、爾依利耳、今日有留事乎、思奉禮波、大御心乎、承繼勤奉留、教職等乃悦波、更奈利、天下乃人止阿留人乃悉仰支、悦奉留邊支事、爾奈母阿留解、聞えたるが如し◎(十)故汝命乃恩頼爾、依利耳、百乃事物日爾、新麻利人乃道心安久行波、禮都久、教會乃事業日爾、擴麻里、月爾、高麻里、行久乎、悦備忝美耳解、うこで教祖の恩頼に依りて、萬事萬物日に改り、人道行はれて、教會の事業も日に擴まり、月に高まり行くことを悦びての意。▲故汝命乃大御德乎、尊美、嬉美、今日乃御祭仕奉良、奉止志耳、解、答す。◎(十一)大御前母、多爾幣帛、供奉利耳、御祭仕奉良久乎、平介久、聞食耳、教道乃彌進美、仁進美、明良米、彌高爾、彌廣爾、擴米志米、給爾、高米之免、給爾止、恐美、恐美、爾母白寸解、上に出でたり。▲大御前禮代乃御酒御

饌魚菜種々乃味物乎置足波志豆稱辭竟奉其久乎赤丹乃穗爾聞食且汝命乃奇支
尊支幸魂幸開給比且教道彌高爾彌廣爾榮延志米給開明米之目給開止恐美恐見
毛白須解これは上に献供の詞のない場合に用らるのである解上に出でたり。

教祖祭祝詞(文例)

此乃教會乃教祖止稱言竟奉留掛卷母恐支某命乃宇豆乃御前爾
姓名恐美恐美母白左久阿波禮今月今日乃何日止云布日波懼久
母汝命乃幽冥界乃神止神幸給比志日爾志在禮婆教使波更爾母
言波受汝命乃說教乎聞仰支見識志人乃片時母忘良延良禮奴日
爾古會阿利邪禮故大前爾禮代乃御酒御饌色菜時乃木實止何々
乎齋机乃上毛撓回爾置足波志且採集女撰揃邊太留心盡乃幣帛
乎御心毛宇良邪豐明爾聞食世止白須如此御祭仕奉利且悅備母
志悲牟事波教道爾奈毛阿留阿波禮汝命乃現世爾居坐志之當時
乎回想世婆世波最亂資波志久邪說四方仁蔓薤利且人道暗黒久

卑陋久右往左往止布大八衢爾人皆乃迷比苦牟時爾互有利邪里
汝命波此乃時爾生出座且明支正志支道乃大道乎開支明米教邊
悟志且邪說乎排斥邪給比且眞道乎弘米給比志大支尊支御功德
爾依利且道乃光乃彌明邪支今日有留事乎思奉禮婆大御心乎承
繼勤牟留教使等乃悅波更奈利天下乃人止阿留人乃悉仰支悅奉
留邊支事爾奈毛阿留此乃悅乃中爾悲志久思油留毛人乃世乃道
乃教乃難支奈利介里斯久世波進美以且來且萬物繁殖利百乃事
事日爾新麻里蒼生乃供給豐爾牟久佐加爾富足比人道又開發進
步美且鳥獸爾至留麻傳心安介仁使役波留々狀爾波阿禮村此波
神隨知食如唯善支半面乃見爾志且裏面爾波不絶爾弱乃矣波強
者乃餌止余留止布忌波志久悲志支狀爾且人乎害布事乃悉陽爾
外面善支邪事乃行波禮奴禮婆盜賊乃往行善人乃厭世日爾彌重
久人乎欺支神乎欺支自々乃心乎欺久者乃多加留波歎加波志支

事爾古會阿波禮汝命乃奇支尊支神德以耳教道乃彌進美爾進美
眞乃道乃彌明加爾彌高爾識良志米給比行波志米給比耳人止布
人乃悉幸彌多爾快樂久生存志米給閉止恐美恐美母御祭仕奉良
久止白須(編者)

祈年祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)御年乃皇神止稱言竟奉流掛卷母阿耶爾畏及大年神御年神若年神及吾皇神
乃稱言竟奉留某神乃大前爾今年乃二月酒御年初乃爲氏(解)御年乃皇神とは五穀
を知ら給ふ神といふこと年は五穀のことである稱言竟奉は御神を稱讚し奉り
心を盡して嚴肅鄭重なる御祭祀仕奉ること阿耶爾は感嘆詞で阿耶爾恐支はア
、恐多しといふほどの意大年神以下總べて三神は御年を所知す神吾皇神は其
所の産土神を指す御年初は五穀の種子を整理して農業の準備にかゝること
ある▲此乃所乃底津磐根爾宮柱太敷立高天原爾千木高知耳天之御陰日之御陰
止定奉利耳稱言竟奉留皇神乎始米大年神御年神若年神乃御前爾白左久今年二
月爾御年將初止爲氏(解)上に出でたり▲掛卷母恐支某神社乃稱言竟奉留某大神

乃大前爾姓名恐美恐美母白左久皇賀大命以耳此二月乃四日能今日乃生日乃足
日爾御年始米給波半乃祈年能御祭仕奉良志米給布爾依耳(解)皇賀大命は天皇乃
勅命生日乃足日は生々足々の吉日御年始給波半は天皇の躬親ら爲給ふなり祈
年能御祭仕奉良志米給波は天皇が五穀豊饒を神達に請奉るの御祭仕奉らしめ
給ふといふことである◎(二)今日乃朝日能豊榮登爾(解)朝太陽の陽々として豊に
榮えつゝ昇る時刻に◎(三)吾大神乃大前爾意義明瞭▲奉留幣帛波由紀乃御食御
酒波豊閉高知豊腹滿雙氏海川山野乃種々乃物乎百取乃机代止眞足波志耳奉良
久乎(解)由紀乃御食こゝにては齋清めて調理したる御食の意百取乃机代種々多
くの献物を取献居うる机のものといふ意他は前に出づ◎(四)安幣帛乃足幣帛止
平介久所聞食耳(解)御心安く満足なる献物と◎(五)皇神等乃御心爾母平介久安介
久聞食相宇豆那比給比耳(解)宇豆那布は御受納の意他は聞えたるが如し◎(五)天
下四方乃兆民等我手肱爾水沫搔垂向股爾泥畫寄氏取作良耳與津御年乎惡風荒
水爾會遇給波受入東穗乃茂穗爾成幸閉給比陸田種子爾至留爾傷布事無久成
幸閉給波(解)天下四方の兆民百姓が手の肱には水の沫を搔垂らし太股の處ま
でも泥畫寄せて間草を拂ひ耕耘すなど、妙からぬ勞働して取作らう其の米を暴

風洪水などの害に遇はせず、幾擱も幾擱もある長き稲穂の繁茂せる豊饒なる稲に、神様等が成幸あらしめ給ひ、陸田の種子に至るまで損傷することなく成就せしめ給うたならばの意、猶上に出でたれば参考すべし。▲天下百姓乃取作其牟五穀乎始米草乃片葉爾至留麻傳成傷波受八束穗乃茂穗爾皇神等乃幸閉給波意義同上。○(六)初穂波汁仁母穎爾母千穎八百穎爾引居氏稱言竟奉其牟(解)新穀は其の初に汁にも穎にも又穎は澤山に持參捧奉りて、壯嚴なる神祭を仕奉りませうといふ義。穎は稻の葉を去りて穂ばかりなるをいふ。汁は米を醸造りたる酒のこと。▲初穂波千穎八百穎爾奉置豆新嘗祭賑々志久字多々奴志久仕奉其牟(解)字多々奴志久は彌樂しく又最樂しくの意にて、字多は轉々の義。○(七)御年皇神乃御前絹布乎白馬白猪白鶏三種乃代爾取易備奉氏稱言竟奉其牟久乎聞食世止恐美恐美母白須(解)御年神に白馬白猪白鶏を奉るは、最古き故事の例である故に、うれなき時は、絹布にても其の代として奉るのである。他は聞わたるが如し。

祈年祭祝詞(文例)

此乃所乃底津磐根爾宮柱太敷立高天原爾千木高知与天之御蔭

止定奉氏稱言竟奉留皇神乎始米大年神御年神若年神乃御前爾
 白左久今年二月爾御年將初止爲氏今日乃朝日乃豊榮登爾奉留
 幣帛波由紀乃御食御酒波囊閉高知囊腹滿雙氏大野原爾生物波
 甘菜辛菜青海原爾住物波鱒乃廣物鱒乃狹物與津藻菜邊津藻菜
 爾至留麻傳爾如横山置高成氏奉留幣帛乎安幣帛乃足幣帛止皇
 神等乃御心爾平久聞食与百姓乃手肱爾水沫畫垂向股爾泥搔寄
 与取作良牟與津御年乎八束穗乃伊加志穗爾皇神等乃依佐志奉
 良婆初穗乎婆千穎八百穎爾奉置氏稱言竟奉良牟止御年皇神乃
 御前爾波絹布乎白馬白猪白鶏三種乃代爾取易備奉氏稱言竟奉
 良久止白(祝詞文例上編四ノ卷)

祈雨祭祝詞(用語及解釋)

○(一)此里乃産土神止持崇久掛卷母畏支皇神乎始奉里高靈神爾爾神天之水分神
 國之水分神天之久比奢母智神國之久比奢母智神天津神千五百萬國津神千五百

○祈雨祭祝詞 用語及解釋

萬乃皇神等乃御前白左久解持崇久は崇め尊び齋ひ奉ること高麗神以下六神は何れも雨又水を知る神である◎(二)此頃久雨降受日乃累禮(解)このころ久しく雨降らずして幾日幾日と日の數の累ればの意▲此頃日麻泥久雨零受斯有禮(解)日麻泥久は引續き引續きなり斯は強辭◎(三)公民乃農業皆悉爾枯損波延奴(解)一般百姓の農業は損害を被りぬ▲植志田母時志島毛凋美枯奈武止爲留賀故爾(解)苗を植ゑたる水田も種を蒔きたる陸田も悉く凋み枯やうとするからとの意◎(四)百姓等愛比佐麻與比爲牟須倍知良爾仰且待都天津水平(解)百姓等はうれひ惑ひながらも如何にしてよきか爲る術知らず詮方なさに只天を仰いて待ち居る處の天の水をなり佐麻與比は迷ふといふ詞に佐といふ詞を副へて一層詞を強くしたのである◎(五)吾大神等乃蒼生乎惠美給布靈爾依氏斯此災波可止登恐自物思議氏今日能生日爾禮代乃幣帛乎捧持氏恐美恐美母稱言竟奉瓦久乎平介久聞食氏甘雨(解)蒼生は人類をいひ此災とは早秋の災恐自物は心の安からぬもの恐怖して居るもの即ち害を被りつゝある者にて村民をいふのである◎(六)忽爾令零給比耳百乃穀物草乃片葉爾至及彌足比爾令足給比彌榮爾令榮給爾止恐美恐美母白須(解)忽に雨沛然と降らせ給ひて種々多くの穀物を始め草の

片葉に至るまで彌々満足に彌々榮ゑさせ給へど恐れくつて白上ぐとの意▲大神等の相宇豆能比給比氏高山乃末短山乃末與異雨雲立保備古異光神鳴波多々支耳速雨頻爾令降耳時留端山乃池波堤爾灌帶塞上氏麻加須留水波田每爾滿氏百姓乃作止作物波五穀乎始氏草乃片葉爾至留迄成幸幣給幣止騰申須事乎所聞食止申須(解)斯く請申す事を神様達が御受諾下されて高い山の嶺低い山の峯より雨雲立廣びりて電雷頻に鳴轟き忽ち豪雨を降らしめ給ひて水を貯ふる爲の麓の山などに在る池は堤に灌ふる計りに又河を塞き上げて田に灌がむとする水は田毎に充滿して百姓の作る所の作物は五穀を始め草の片葉に育るまであらゆる植物を成就させ給へと請申すことを御受諾遊ばせと申すといふ意山の末は頂上の意保備古留は蔓延波多々久は鳥のつばさを打振ることにてこゝは物のはたくとひやく意に用ゐて雷の音の響動くをいうたのである端山は山々の低き處又麓に在る小山此所は麓の里近き山の低き處をいへり灌は溢るゝばかり充滿すること塞上は水の下流を塞上げて田に灌ぐことである。

祈雨祭祝詞(文例)

掛麻久毛恐伎吾大神乃大前爾恐美恐美母白久。此頃日麻泥久雨
 不零斯有禮樂公民能農業皆悉爾被枯損奴。吾大神乃蒼生乎惠美
 給布靈爾依氏斯此災波可止登恐自物思議氏今日能生日乃生日
 爾禮代乃幣帛乎捧持氏恐美恐美母稱辭竟奉良久登白須。故此乃
 狀衰平介久安介久聞食氏甘雨衰忽爾令零給比且百能穀草能片
 葉爾至及彌足比爾令足給比彌榮爾令榮給閉登恐美恐美母白給
 波久登白(祭文例)

祈晴祭祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母恐支吾大神乃大前爾恐美恐美母白左久。此里能產土神止持崇久掛
 卷母畏支皇神乎始米奉里高神開羅神天水分神國水分神天之久比奢母智神國
 之久比奢母智神天津神千五百萬國津神千五百萬乃皇神等乃御前爾白左久◎(二)
 頃日霖雨難晴氏百姓能農業流損奴解この頃ながあめ打續き晴難くありてうれ
 が爲に百姓の業務とする農作物は流散しあるは損害を被りぬ▲頃日雨雲久久

覆比霖雨降氏高山乃末短山乃末與里佐久那太里爾落瀧津川乃瀨溢氏百姓乃作
 々物波五穀乎始米耳草乃片葉爾至留麻傳不生傷幣流賀故爾百姓等憂歎支且
 寐母不安佐麻與比有平(解)この頃雨雲久しく天日を覆ひ霖雨降りうれが爲に高
 山の嶺又は低山の峯より真下りに落つることが瀧の如くで川の瀬は流溢して
 百姓のあらゆる作物は五穀を始め草の片葉に至るまであらゆる植物生長せ
 ず損傷しつゝあるによりて百姓等憂歎きて寐る事さへも安からず種々に惑ひ
 苦み居るとの意◎(三)吾大神乃厚支助爾依利且斯此災波可止止恐自物思議氏今
 日乃生日乃足日爾禮代乃幣帛捧持且恐美恐美母稱言竟奉留狀乎平久安久聞食
 登白須(解)吾產土神と持崇支奉る大神の百姓を憫み給ふ御心の厚き御救助によ
 りてこそ此の災難は停むであらうと被害者殊に神徳を敬仰する者等が思慮合
 議して今日の生々足々といふ吉日に禮義の献物を恭しく捧げ持て恐れく
 がらも嚴肅なる神祭任奉る狀を大御心も平かに又安く御聞取下されと白すの
 意▲大神等相宇豆那比給比耳雨雲乎科戸乃風乃氣吹拂比耳天津日乃伊照徹其
 志百姓乃作物波五穀乎始米耳草乃片葉爾至留麻傳成幸閉給閉止禱申須事
 平聞食世止恐美恐美母白須(解)斯く請申すことを神達が御受諾下されて久しく

◎祈雨祭祝詞 用語及解釋

覆うて居る此の雨雲を、科戸の神の知り給ふ風の、凡ての物を吹き拂ふ如く、氣吹拂うて、而して天の大陽の照徹りて、百姓の勞作する、あらゆる作物は、五穀を始めて草の片葉に至るまで植物の限成長し、幸被らしめ給へど請申す事を、御聞取下されど申すとの意、科戸乃風乃は、風は息長津比古、息長津比賣といふ二神の知り給ふものであるから、然らうのである、又下ののの下にゐるべき、何々の如くといふ詞を、能と省略してあるから、うの意して看られよかし、伊照徹其志は照徹ることにて、伊は強辭であるが、こゝにては射の意もある、良志はりを延べたのである、作物は、ありとあらゆる作物といふ意にて、作物といふ詞を概括して、且強く言ひ表はしたのである、(四)如此仕奉留、依且此霖雨忽晴、氏百姓等賀、手肱水沫搔垂、向股、泥搔寄、取作流、與津御年、始米、互、作々物等、成傷波、受、豐爾、牟久、佐加爾、令得給、閉止、恐美、恐美、母、白、頃日、霖雨、難晴、氏、百姓、霖雨、忽ち晴れて、百姓等が、手の肱には水の沫を向股には泥搔寄せなせしめて、草を取り、或は耕し、勞苦して、作る所の米を始めて、悉皆の作物を、成長せしめて、損傷せず、豊長に、又繁榮に得させ給へど、恐れく、て白すとの意、手肱、云々向股、云々は、農夫の水田にて、間草を取除け、又は耕しなせする状を、言表したのである、向股

は股の向ひ合うて居る處即太股のことである。

祈晴祭祝詞(文例)

掛母 恐支、吾大神乃、大前爾、恐美、恐美、母、白、久、頃日、霖雨、難晴、氏、百姓、能、農業、流、捐、奴、吾大神、能、厚、伎、助、爾、依、互、斯、此、災、波、可、止、登、恐、自、物、思、議、氏、今、日、能、生、日、乃、足、日、爾、禮、代、乃、幣、帛、乎、捧、持、氏、恐、見、恐、見、母、稱、言、竟、奉、留、狀、乎、平、久、安、久、聞、食、登、白、如、此、仕、奉、爾、依、氏、此、霖、雨、忽、晴、氏、百、姓、等、賀、手、肱、爾、水、沫、搔、垂、向、股、爾、泥、搔、寄、氏、取、作、流、與、津、御、年、始、始、氏、作、々、物、等、衰、成、傷、波、受、豐、爾、牟、久、佐、加、爾、令、得、給、閉、止、恐、美、恐、美、母、白、

祈病氣平癒祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母 恐支、吾皇神乃、大前爾、畏美、畏美、母、白、久、解、する所なし◎(二)某國、某郡、某里人、何某伊、某病有利、互、月、日、佐、麻、禰、久、病、臥、世、利、解、月、日、佐、麻、禰、久、は、來、る、月、も、來、る、月、も、な、り、月、日、重、ね、て、な、り、病、臥、せ、り、は、病、臥、し、て、あ、り、の、意、▲某伊、去、年、乃、秋、病、發、

里耳、惱矣多里之毛、醫藥乃効有耳、瘥愈留、今年某月其病再發、里耳、惱矣、苦米利、
 (解)惱は苦悶すること、怠は病氣の痛苦の怠り緩むより快方になるを怠といふ、
 留仁はリテアルニといふ意、即ち快方におもひいて居たるといふことである、
 大神乃氏子某伊、何月何日、利、何々止云、病發利耳、甚久急劇、留惱苦、半、尋常奈
 耳受(解)尋常の苦悶に非ずして、甚しく急劇なり、(三)其病乃、狀甚輕加耳受、奇志支
 狀、那留乎、以耳、今世、爾其名、開由流、醫師等、母、瘥之、治米、半、方、知耳、受(解)其病の狀甚
 重くて、奇妙なる状態なれば、著名の醫師等も、治療の方を知らずといふ意、
 止布、醫師乃、限里、波、手、乎、盡志、藥、止、布、醫、乃、限、用、猪、多、禮、野、毛、意、聞、え、た、る、が、如、し、
 彌益、募、留、乃、美、爾、耳、術、盡、耳、思、惱、米、里、意、義、明、瞭、(四)故、是、乎、以、耳、祭、主、名、爾、事、議、利、耳、
 雖、畏、吾、皇、神、乃、大、前、乎、齋、奉、利、耳、蒼、生、乎、惠、給、布、恩、賴、乎、乞、祈、奉、半、登、爲、耳、(解)そ、こ、で、祭
 主、某、に、相、談、し、て、畏、多、い、事、な、が、ら、吾、皇、神、の、御、前、を、齋、奉、り、て、人、民、を、惠、み、給、ふ、恩、德
 を、請、奉、ら、う、と、し、て、の、意、
 ▲故、是、乎、以、耳、足、知、爾、乃、母、刀、自、波、云、母、更、奈、利、親、族、家、人、等
 云、半、術、爲、半、術、知、耳、爾、和、備、耳、今、波、一、向、爾、神、乃、恩、賴、乎、乞、祈、奉、留、外、非、自、止、我、大、神、爾
 禰、藝、奉、耳、半、事、乎、請、爾、里、(解)足、知、爾、は、母、と、い、ふ、詞、の、枕、詞、刀、自、は、女、の、尊、稱、爾、更、奈、利
 は、更、め、て、言、ふ、に、及、ば、ぬ、即、ち、勿、論、と、い、ふ、意、云、半、術、爲、半、術、知、耳、爾、は、何、と、も、云、ふ、様

も、爲、様、も、な、い、と、い、ふ、こ、と、知、耳、爾、は、知、ら、ず、の、意、和、備、耳、思、煩、ひ、て、の、意、
 ▲故、今、日、乃、
 吉日、乃、吉、時、爾、名、爾、禮、代、乃、幣、帛、乎、捧、持、耳、恐、美、恐、美、母、稱、言、竟、奉、耳、之、半、意、聞、え、た、ら
 ひ、(五)掛、卷、毛、畏、支、皇、神、此、狀、乎、平、久、安、久、聞、食、耳、何、某、我、惱、半、病、乎、速、爾、直、給、瘥、給、比、
 (解)するの要なし、
 ▲伊、加、傳、大、神、乃、深、支、御、惠、以、耳、助、給、比、救、給、比、若、禰、神、乃、崇、里、障、里、
 乃、事、等、有、耳、與、速、氣、久、穢、比、退、邪、給、比、若、家、人、等、賀、過、犯、世、留、罪、事、有、耳、與、神、直、日、大、直、
 日、爾、見、直、之、聞、直、之、給、比、耳、醫、師、賀、治、米、半、其、術、爾、驗、有、耳、志、米、(解)伊、加、傳、は、下、ウ、カ、シ
 ナ、と、是、非、に、願、ふ、意、有、耳、與、是、は、有、り、と、は、思、は、ね、と、若、し、有、る、な、ら、ば、の、意、神、直、日、大、直、
 日、爾、云、々、は、神、直、日、神、大、直、日、神、が、人、の、惡、事、罪、咎、を、善、き、方、に、見、直、し、聞、直、し、て、罪、過
 を、宥、し、給、ふ、ろ、の、如、く、善、き、方、に、見、直、し、聞、直、し、給、ひ、て、の、意、醫、師、賀、治、米、半、云、々、醫、師
 が、施、す、治、療、の、術、に、効、驗、あ、ら、し、め、給、へ、の、義、(六)今、與、利、後、乃、餘、能、春、秋、乎、竟、志、米、給、
 閉、止、頸、根、突、拔、恐、美、恐、美、母、一、向、爾、請、祈、奉、耳、久、刀、白、須、(解)聞、え、た、る、が、如、し、
 ▲堅、磐、爾、
 常、磐、爾、命、長、久、夜、守、日、守、爾、守、給、幸、給、登、恐、美、恐、美、母、白、(解)する所なし、

從五位子爵松前修廣病瘥祈禱詞(文例)

掛卷母畏伎。我大神二柱命乃宇豆乃御前爾。祠官本居豐額畏美畏

美母白佐久。從五位勳三等子爵松前修廣伊。去年乃秋病發里。豆惱
 美多里之母。醫藥乃効有。豆瘵怠。留爾。今年七月其病再發里。豆惱
 美苦米利。其病乃狀甚輕。加良受。奇志支。狀那留乎。以。今世爾其名
 聞由流。醫師等毛。瘵之治米。牟方乎。知良受。術盡。豆思比。惱米里。刀云
 布。故是以足知。爾乃母刀。自祖母刀。自波云。母更奈利。親族家人等云
 牟術。知良爾。爲牟術。知良爾。和備。今波一向爾。神乃恩。賴乎。乞祈奉
 留外。非自止。我大神。爾爾。藝奉良牟。事乎。請閉里。故頃日日。每爾乞祈
 奉里。都々在留。効爾。加有良牟。病乃狀少之。變里。重伎奈。寶良毛。又
 治米直。佐牟道有留。狀爾。醫師母且。々言閉里。刀聞久。安波禮。現身乃
 病波之毛。甚思乃外。那留物。爾之。豆人乃力。乃爭比。得倍伎物。爾波有
 良爾。杼修。廣伊。麻太廿四刀云。布壯乃年。爾志。豆祖母。爾母。爾夜毛。伊
 乎。寢須思。比惱米。留事。狀波。大神乃大御。慮爾母。安波禮。哀之刀。見給
 布良牟乎。伊加傳大神。乃深支。御惠以。豆助給比。救給比。若禍神乃崇

里障。留事等有良。婆速氣久。攘比。退氣給比。若家人等。實過犯。世留
 罪事有良。婆神直日。大直日。爾見直之。聞直之。給比。豆。醫師。實治米牟
 其術。爾驗有良。志米。今與利。後乃餘能。春秋乎。竟志米。給閉止。頸根突
 拔恐美。恐美母一向爾。請祈奉良。久刀白須。譯辭集上

祈家内安全祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷毛 恐支吾大神乃大前爾。恐美恐美母白久。解。答。言欲母。畏支吾。產土大
 神止。稱言。竟奉留。皇大神乃。宇豆乃。御前爾。姓名。畏美。畏美母。白久。解。意。義。明。瞭。◎(二)某
 國某郡某里人何某伊。吾大神乃。恩。賴。爾。依。氏。其家乃。彌。益。爾。立。榮。牟。事乎。祈。白。牟。止。
 爲。氏。齋。主。某。爾。禮。代。乃。幣。乎。捧。持。氏。恐。美。恐。美。母。稱。言。竟。奉。良。之。牟。解。何。國。何。郡。何。と。い
 ふ。里。人。何。某。が。吾。齋。仕。奉。る。大。神。の。御。神。德。の。幸。に。よ。り。て。其。家。の。彌。益。々。立。榮。ぬ。行
 か。む。こ。と。を。請。申。さ。う。と。し。て。齋。主。何。某。に。禮。義。の。幣。帛。捧。げ。持。ち。奉。ら。し。め。て。恐。れ。恐。れ
 れ。て。嚴。重。なる。神。祭。仕。奉。ら。し。め。ま。す。と。の。意。▲此。乃。里。廻。何。某。伊。某。乃。年。與。里。如。何。奈
 禮。加。毛。運。惡。志。久。耳。志。向。志。行。布。事。乃。悉。意。乃。隨。奈。良。奴。爾。種。々。心。乎。痛。牟。留。事。佐。閉
 不。絶。爾。出。來。耳。家。波。衰。閉。最。安。加。良。奴。乎。大。神。乃。恩。賴。爾。依。利。豆。志。此。運。新。乃。良。牟。止。今

◎祈家内安全祝詞 用語及解釋

日乃生日乃足日爾、某爾禮代乃幣乎捧持志米耳、稱言竟奉其志、(解)如何奈禮加毛
 は如何してか、アと境遇を聯想して嘆息すること、意乃隨奈其奴爾は不如意が
 ちであるのといふ意、爾の下へ尙其上に」といふ語を入れて見るべし、他は聞えた
 るが如し、▲氏子止愛傳給布此乃里乃何某波大神乃恩頼爾、據利且年來幸福久耳
 家内安穩爾在來志乎、如何奈禮加母、其乃月與利不吉奴事、打續交甚久運乃拙
 那禮與今某爾禮代乃幣帛乎捧持志米耳、忌志里殿志異、持恐美恐見母、稱言竟奉其
 志、(解)聞えたるが如し、◎(三)故此乃狀乎、爾奈哀禮止思召志耳、今日與里後、某賀家
 爾波八十枉津日乃枉事無久、親族爾爾留不吉奴事、母不令有意乃、隨爾勤米結利耳
 家門高久廣久榮延志米給比耳、人乃人多留眞道乎、心安久行波志米給爾、(解)られで
 斯く乞祈奉る此の狀を、ア、憐憫と思召して、今日より後、某が家には、八十枉津日
 といふ神の所爲なりといふ災惡無く、親族に關係する不吉の事も有らしめず、意
 のまゝに勤儉して家門高く廣く榮えさせ給ひて、人の履むべき正しき眞の人道
 を履行はしめ給へといふ意、▲此狀乎、平久安久聞召耳、何某賀家内爾波、八十枉津
 日乃枉事不令有産業乎、无緩事勤美務米氏、其家門乎起佐之米給比、廣米之女給比、
 意聞えたるが如し、◎(四)堅磐爾常磐爾、命長久子孫乃八十連屬爾、至流麻傳茂、八桑

枝乃如久、令立榮給比、過犯須事乃有牟乎、變見直聞直坐氏、夜乃守日乃守爾、守給比
 幸給爾登恐美恐美、母白解何れも前に説いた。

祈家内安全祝詞(文例)

掛毛恐伎、吾大神乃大前爾、恐美恐美、母白久、某國某郡某里人、何某
 伊、吾大神乃恩頼爾、依氏、其家乃彌益々、爾立榮牟事乎、祈白牟止爲
 氏、祭主某爾、禮代乃幣乎、捧持氏、恐美恐美、母稱言、竟奉良之牟、此狀
 乎、平久安久聞召耳、何某賀家内爾波、八十枉津日乃枉事、不令有産
 業乎、先緩事、勤美務米氏、其家門乎起佐之米、給比、廣米之米、給比、堅
 岩爾常磐爾、命長久子孫乃八十連屬爾、至流麻傳、茂之八桑枝乃如
 久、令立榮給比、過犯須事乃有牟乎、變見直聞直坐氏、夜乃守日乃守
 爾、守給比、幸給爾登、恐美恐美、母白(祭文例)

祈旅行安全祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷母、恐伎、阿須波神波比、岐神八衢比、古神八衢比、賀神四柱乃、皇太神等乃、廣

前用恐美恐美母白左久解阿須波波比岐の二神は門の出入昇降の諸所を知り八衢比古八衢比賣二神は道路の巷を知る所の神であるから旅行には先づ此の四柱の神を齋き奉るのである▲掛巻毛畏支吾皇神乃大前用恐美恐美母白久意義明瞭◎(二)何某伊今上道爲耳某國某里用行幸止爲留乎解する所なし▲何某伊今度某縣某郡何所用使爲幸止耳今月乃今日乎生日止撰定米氏旅立爲留乎解するの要なし◎(三)吾大神乃高支尊支恩頼爾依利耳解ても聞えたるが如し▲大神乃奇支御靈乎幸閉給比耳解ても聞えたるが如し◎(四)往左來左乃路能間都々幸事無久解往來の間悉無く壯健にて▲群鳥乃立出行支耳天雲乃行支耳歸耳幸其日麻傳玉戈乃道乃長路乎疲留幸事無久解群鳥乃立つの枕詞天雲乃歸の枕詞なるべけれども歸の枕詞とするには白浪といふ方好からむかされども又旅行安全を祈る祠に白浪の語も如何あらむ是は一番に記せる語なれども斯かる如何はしき枕詞は採らぬに如かず玉戈乃道の枕詞である◎(五)守給比幸給比耳平氣久安氣久歸之給閉給閉止禮代乃幣帛乎捧持耳恐々毛稱言竟奉久止白祭文例

祈旅程(文例)

掛毛畏支吾皇神乃大前用恐美恐美母白久何某伊今上道爲耳某國某里用行幸止爲留乎吾大神乃高支尊支恩頼爾頼耳往左來左能路乃間都々幸事無久守給比幸給比耳平氣久安氣久歸之給閉登禮代乃幣帛乎捧持耳恐々毛稱言竟奉久止白祭文例

祈海上安全祝詞(用語及解釋)

◎(一)此能所用神籬立氏招請奉里令座奉留底筒男命筒男命表筒男命能御前用白久解底筒男命以下三神は大海を知る神である▲船玉神止御名波白氏稱言竟奉耳久波解船玉神は船靈神にて船を守り給入神である稱言竟奉は神徳を稱讚して嚴肅なる御祭仕奉る意◎(二)今月今日乎生日能足日止齋定氏船出爲幸乎解今月今日を生々足々の吉日と齋定めて出航せむるれをの意▲何國何郡何某何々乃用向有利耳何國何郡何乃港航耳幸止志耳今月乃今日乎生日止撰定米氏船出爲幸乎意聞えたるが如し◎(三)大神等能和魂荒魂此船能袖用毛體用母神留

異宇斯波伎坐且(解)和魂荒魂は神靈の活の温和なる又勇壯なる作用をいふうれの船に據り給ひて幸あらしめ給ひし例は彼の國史上に著明なる神功皇后の三韓征伐の際天照皇大神生田大神達の和魂荒魂大御船に憑り坐して征伐の事を容易に成功せしめ給ひしをいふ神留里は字の如く神魂留なり宇斯波久は例の我所として領知し給ふにて此所は船を領知り坐してといふ意である▲神隨毛吾皇神能御靈乃幸乎賜波利且意義明瞭(四)棹柁誤瓦受大海原波吹風能荒留流事无久立浪乃騒事无久水上波地往我如船上波床爾居如(解)棹柁の使用方向を誤らず大海の廣濶なるは吹風の荒るゝ事無く立つ怒濤の騒ぐ事無く水上は地を往く如く船上は床に居る如く安穩にとの意▲船上波牀爾居如水上波陸往久如久撫給比恵給比且海積乃澳爾毛邊爾母可恐伎風波爾逢世給波且(解)海積は波津海にて海といふに同じ波の海の意他は開ぬたらむ(五)指寄牟磯能崎々漕果牟泊々爾障留事无久(解)留事无久(解)船の指寄らむ磯の崎々漕ぎ着かせる泊々にも障害なくの意磯は浪のことにて磯とは海の方からいへる名濱とは陸の方からいへる名にして同じ海邊の廣き陸地である泊々は諸所の船泊所(六)吾大神守給比幸給閉止(解)要なし▲平久安久令有通給閉止意義明瞭▲稱白事乎柁音能都婆良々々々爾

所聞食世止十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氏稱言竟奉久止白須(解)柁音乃は都波良々々々を言はむ爲時に應じたる柁の音を取出したるにて柁音のうれの如くといふ意都波良々々々は詳細といふことを重ねたのである十六自物の十六は四四の假字にて鹿の如くといふ意猶自物も鶴の如くといふこと▲禮代乃幣帛乎捧持氏恐美恐美母稱言竟奉良久登白意聞えたるが如し

出船祭(文例)

此能所爾神籬立氏招請奉里令座奉留底筒男命中筒男命表筒男命能御前爾白久今月今日乎生日能足日登齋定氏船出爲牟乎大神等能和魂荒魂此船能舳爾毛艦爾毛神留里宇斯波伎坐氏棹柁誤多受大海原波吹風能荒留事无久立浪乃騒事无久水上波地往我如船上波床爾居如指寄牟磯能崎々漕果牟泊々爾障留事无久平久安久令有通給閉登禱白事乎柁音能都婆良々々々爾所聞食登十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氏稱言竟奉久登白須(廿九題祝

出船祭(文例)

祈大漁満足祝詞(用語及解釋)

◎(一)此能所乎伊豆能磐境登掃清氏神籬立氏招請奉里令坐奉留天受賣命言代
 主命能御前爾白久(解)此の二神は漁獵を好み給ひ又巧なりし神達である其の事
 蹟古事記古語拾遺等に在り他は上に解した事柄のみ▲言慕母綾爾長支吾大神
 乃御前爾懼美懼美母申佐久(解)上に出でたり◎(二)此郷能漁夫等問者海幸失比和
 備都々居乎相恤三相慈給比天(解)此郷の漁夫等このころ漁獵極めて不景氣にて
 憂ひて居るを恤み給ひ慈み給ひてなり海幸とは海にて漁獵に幸多きこと即ち
 魚を多く擧げ得ることである和備は思ひ煩ふことである他は意聞えたらひ▲
 頃日何奈留故爾加此浦爾諸魚等寄不來氏海人子等海幸得邪禮變憂佐麻與比和
 備都々有乎皇神等相宇豆那比給比豆(解)このころ如何なる譯によりてか此の浦
 に諸の魚をも寄來すしてうれが爲海人等漁獵の獲物なくて憂へ迷ひて思ひ煩
 ひ居るを神様等御聞取下しての意◎(三)大海乃巨口細鱗等食追聚米氏海人等賀
 網子調氏引網乃網目不泄引網乃網手不緩佐和佐和爾令曳揚給波伐荷前波横山
 乃如久引居置氏奉耳半止(解)巨口細鱗は大魚小魚といふこと網子は網引く人夫

調氏は人夫を調へ引き連れてなり網目不泄は網目より魚を泄し脱さすの意網
 手不緩は引續々なり荷前は魚を神に献る貢物のこと▲某海人等賀網子調氏
 引網爾綿積乃儲乃廣物儲乃狹物乃有乃盡漏留流事無久落留事无久取得志米給
 所雨零風吹那好毛海幸遠過都事無久守給閉幸給閉止(解)意義同上◎(四)禮自利乃
 御幣捧持氏恐美恐美母稱言竟奉耳久止白須(解)禮自利は禮代と同じく請奉るに
 つきて又參拜するにつきての禮の献物といふ意他は聞えたるが如し。

取魚祭祀祝詞(文例)

此能所乎伊豆能磐境登掃清氏神籬立氏招請奉里令坐奉留天受
 賣命言代主命能御前爾白久頃日何余留故爾加此浦爾諸魚等寄
 不來氏海人子等海幸得邪禮變憂佐麻與比和備都々有乎皇神等
 相宇豆那比給比豆儲能廣物儲能狹物乎追聚氏此浦爾取魚爲留
 海人子等賀置網能網目漏左受引網能網手不緩佐和佐和爾令引
 揚給閉登奉留禮代能幣帛波由紀能御食御酒波甕能閉高知甕能

腹滿雙氏山野物波甘菜辛菜青海原物波鱸能廣物鱸能狹物奧津藻菜邊津藻菜爾至麻氏爾雜々物乎横山乃如久置足波志氏奉留幣帛乎安幣帛能足幣帛登平久所聞食止十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氏稱辭竟奉久登白須

祈酒造安全祝詞用語及解釋

◎(一)掛卷母畏支吾大神乃大前爾恐美恐美母白左久(解)答す ▲言欲母阿耶爾支久斯神少毗古名命酒水男神酒水女神乃大前爾齋奉里坐奉利氏真精乃御食御酒波白木黒木止忌益居充種々乃御饗乎凡物刀立奉利氏畏美畏美母白佐久(解)言はうと欲ひてもあゝ恐あり尊き酒神少毗古名命酒水男神酒水女神の大き御前を齋き奉り平けく坐せ奉りて精げ盡したる洗米御酒は色白き御酒色黒き御酒とて種々忌消めたる鬘に盛り充て居るて種々の御饗物を御献物として献りて畏れ(一)て白すとの意◎(二)何某酒醸奉業乎吾大神神隨高支尊支恩頼乎幸閉坐氏朝夕爾緩事無久怠事無久彌勤爾勤米彌結爾結氏方能任達事無久進事無久好酒乃美酒乎醸成之米給比(解)何某が酒造の業を吾尊仰し奉る神様の神隨なる高

き尊き神徳を幸へ恩頼を蒙らしめ給ひて朝夕に緩怠するなく彌々勤め彌々結締りて醸法の方に任せて間違も過失もなく味美き酒を醸成させ給へといふ義 ▲此郷乃某乃將醸酒乎損布事無久過師事無久事那具之惠具師乃香馨久甘美爾令醸作給比(解)この郷の何某の酒醸さうとする業を守護り給ひて損害なく過失なく最も柔和に又最も善く酔ふる香好き甘美き酒を醸造せしめ給へといふ意 事那具之は古事記に「すゝこりがかみし御酒にわれるひにけりことなぐしるぐしにわれるひにけり」とある詞にて酒の美稱であることがわかるさて其の意義は「事利」か又は「事慰」か何れにしても愛醜を慰め遣るの意なるべし惠具師は醸にて喉を刺戟するが如き苦酸の味をいふ俗にエグイといふ味なりといひ又酒は人の心を浮立たすものなる故咲酒の意であるともいふ後の説正しかるべきか 香馨久は香細しくにて匂馨最もよきことである◎(三)日々爾給足比月々爾高榮氏子孫乃彌繼々爾家門乎起左之米給比(解)毎日の供給に不足なく月々に富榮えて彌々永き子孫の繼々に家門を起さしめ給ひ廣めしめ給へといふ意◎(四)妻子女奴乎始氏手人丁等爾至留麻傳已我乖々有之米受邪心穢行无久日爾異爾伊蘇之美勤米之女給閉止禮代乃幣帛乎捧持氏恐美恐美母稱言竟奉真久止白(解)已我乖

◎祈酒造安全祝詞 用語及解釋

々は各自おもひおもひのといふ意日爾異爾は日毎に進み改まる意伊蘇之半は
勉勵の義他は前に解いて置いたる事等である〔解〕奴は下男手人は職人丁は丁男
のこと▲掌酒等乎母阿夫佐方受一心爾伊會之美令勤給反刀恐美恐美母申〔解〕
酒の事執り行ふ者等をも守護り給ひて已が爲すべきことを誰に彼にとあふさは
ず總員一つ心となりて勉勵させ給へと恐れくして申すとの意阿夫佐布は阿夫
須の延言あふすは強て己の責を他人に譲り負はしむることである。

祈釀祝詞(文例)

言欲母阿耶爾尊伎久斯神少毗古名命酒水男神酒水女神乃大前
乎齋奉理坐奉利氏眞精乃御食御酒波白木黒木止忌益居充種々
乃御饗乎几物刀立奉豆畏美畏美毛申須此郷乃某乃將釀酒乎無
損無失久事那具之惠具師刀香馨久甘美爾令釀作給比掌酒等乎
阿夫佐方受一心爾伊會之美令勤給反刀恐美々々申

祈武運長久祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷毛畏支吾大神乃大前爾恐美恐美母白左久解する所なし◎(二)某國某郡
某里乃武士何某物部乃道乎吾大神廣久厚久守給比幸給比豆〔解〕物部乃道は武
士の道といふこと他は聞えたるが如し▲何某兵士止志豆天皇皇朝廷爾事布
留事乎神隨守給比幸給比豆〔解〕する所なし◎(三)天皇皇朝廷乃敷給比行給留御
法乎之過犯事無久〔解〕朝廷の發布し給ひ施行し給へる法律制度を過ち犯す事
無くの意◎(四)明伎清伎直支正支誠乃心以氏緩事無久怠事無久彌務爾務米彌結
爾結利豆〔解〕清廉潔白正直等の誠赤心もて職務を緩ひ怠る事無く彌々勉勵し放
心を取締りての意◎(五)大君乃醜乃御楯食國乃大伎守止丈夫乃清伎其名乎外國
麻傳毛所聞令滿給比〔解〕大君が醜軍を征し給ふ時の干城大君が天下を統御し給
ふ上の大なる守護の丈夫として清く芳しき名を外國までも聞え満さしめ給へ
との意▲武士乃健伎其名乎天下爾令揚給比豆負持都祖乃名乎穢事無久落須事
無久勤美務米豆家門乎令起給比令廣給比妻子奴等爾至留麻傳平介久安介久守
給比幸給閉止禮代乃幣帛乎捧持氏恐美恐美母稱言竟奉耳久止白〔解〕負持都祖乃
名云云是れ日本は古來血統を重んじたる証徴にて概して子孫は其の父祖の名
の字を受け繼げり是又自己の名譽を重んずる心の切なる所以の原因なり他は

◎祈釀祝詞 文例

◎祈武運長久祝詞 用語及解釋

何れも前爾解し置きたる事柄である。

祈武運長久(文例)

掛毛畏伎吾大神乃大前爾畏美畏美母白久何某賀物部乃道乎神
隨守給比幸給比豆天皇賀朝廷乃敷給比行給幣留御法乎之過犯
事无久正伎直伎誠乃心以兵緩急事无久仕奉兵大王乃醜乃御楯
食國乃大伎守止丈夫乃清伎其名乎外國麻傳毛所聞令滿給比賴
兵所使流臣等乎毛已我乖々不令有邪穢心无久彌務米爾令務給比
領氏治流公民爾至流麻傳夜守日守爾守幸給閉止禮代乃幣帛乎
捧持兵恐見恐見毛稱辭竟奉久止白須(祭文例)

戰勝祈願祭詞(用語及解釋)

○(一)掛卷毛 畏伎某神社乃稱辭畢奉留某大神乃宇豆乃御前爾社司社掌氏名畏美
畏美母白左久(解)前々に出で居る▲神風伊勢國拆鈴五十鈴乃川上爾鎮座須掛
卷母畏伎天照皇大神皇始奉利耳國々縣々爾齋奉禮留天津神千五百萬國津神千

五百萬及天皇々子等乃神靈乎始米奉利爾爾動功有里志臣等乃靈爾至留麻傳大
伎小伎宮々社々爾齋鎮奉禮留神乃盡招奉仰奉里豆畏美畏美母白左久(解)神風は
伊勢の枕詞拆鈴はイスノの枕詞五十鈴川上は大神宮所在地以下何れもろの意
義が詞の表にあらはれて居る▲此乃教會乃與乃眞床乎伊豆能眞床止祝清米神
籬立氏天招奉齋奉禮留天照皇大神乎始米耳天津社國津社止稱言竟奉禮皇神
等乃廣前爾姓名恐美恐美母白左久(解)眞床の眞はホメコトベ伊豆は莊嚴神聖の
意神籬は神を招奉る爲に設けたる櫛に木綿を付けたもの稱言竟奉は神徳を稱
讚して莊嚴なる御祭仕奉ること他は開えた通である▲是乃清庭爾神籬建豆氏
招奉座奉流天津神國津神八百萬乃皇神等乃御前爾白左久(解)上に出で居る○(二)
今回海陸乃皇軍韓國爾伊沙里向比耳露西亞乃軍止戰布事止成里奴留渡今年二
月十日乃事仁奈母有利耶留(解)今回我陸海軍が清韓兩國に渡り行きて露西亞の
軍と戦ふことゝなつたのは本年二月十日のことであつたとの意▲露國波已乃
國乃大支久耳人多奈留乎一向爾願止志氏人乃國乎奪波幸止爲留下心乃美増志
都々有留賀今回乃戰乃原因毛露國乃東洋乎蹂躪其半止爲留爾豆有利耶留(解)
露國は自分の國の大きく人民多きことを一向に信賴して強慾にも人の國を奪

はうとする内心ばかり増長して居たが、今回の日露戦争の原因も露國が東洋の國々を蹂躙せうとすることにあつたのである。▲露西亞乃國波我賀皇大御國用對比耳奈米久禮無代、行爲乃宇多豆有里計禮樂掛卷母畏支天皇陛下波東洋乃平利乎將來遠久永久保多幸爲爾去爾之二月乃十日言布爾奈母戰乎開支給布大詔乎宣其世給爾里那留(解)露國は我が國に對して無禮にも道なき行爲の轉々あつたにつき恐多き天皇陛下は、東洋の平和を將來永遠に保たう爲に去二月十日開戦せらるゝ大詔を煥發せられたといふこと、奈米久は無禮といふ古言である。▲是乃東洋爾列並立有爾大方乃國乃爲爾永久遠久平介久安介久在耳事乎畏久毛月念捻給爾留大御慮爾官人乎以互度麻爾久彼國爾議其志米給比之毛彼國人波陽爾波言善久云比都々、裏方爾波軍乃備爲爲且遂爾戰乃場爾事安定米乎此爲爾下乃意爾思比驛里耳我國乎輕志米段爲爾事狀増里行軍安平仁穩爾事議耳牟途絶奴留爾戰乎開久爾至利志原因奈利那里(解)ても日露開戦の由來を奉告する詞である。この東洋に並列し立てる國々の爲に、永遠平安無事ならむことを希はれる天皇陛下のありがたき思召に、官人をして度々その事を協議せしめられたが、彼國は陽に平和を望む如く裝ひて、陰に軍備を擴張して日本の平和

の中に事を協定せうとする事を、彼は戰場に於て決定せうとする意志あるが故に、愈々驕慢増張して、我が國を輕蔑する状態々明白になり行き逆も平穩に理まらるべき望なければ遂に已むなく開戦するに至りたとの意(三)伊邪耶吾日本乃夜麻登乃國乃上古與里天津神乃大御統唯一系爾受傳幣座須天皇乃大御稜威止共爾上古與里益荒健男乃伴男乃云傳來志海行加波水濱屍山行加波草生屍額爾波箭波立刀毛背爾波箭波不立刀云布言乃如久忠爾操爾武久雄々志支日本乃夜麻登健男乃雄心乃夜麻登心乃唯一筋爾進美氏討氏也爾米與也止宣恭知給比志大御言乎頂爾捧持且解伊邪也イザく(と)勸め立つる意海行加波水濱屍云々これは大伴家持の有名なる海行かば水濱屍山行かば草生屍大君のへにこそ死なめ、のどには死なじといふ歌を指したので、その意味は日本丈夫たる者が國家の大事に臨んでは、海戦ならば屍を海に沈めて藻屑とし、陸戦ならば屍を陸の草生に曝して苦生する厭はないで、唯々大君の御前に立ちて、皇國の爲に死ぬものを、長閑には死ぬまいものぞとの意である。通じて解けば、サアく日出づ日本國の上古から、天神の大統を唯一筋に受傳へて居らせらるゝ、恐き天皇の大御稜威と共に、上古から益荒健男即ち勇武なる大丈夫の伴部の人たちの云ひ傳へ

來つた海行かばの歌の如く、又額には箭は立つとも背には箭は立たじ、即ち進んで面の額に傷は負ふとも退いて背に傷は負はぬといふ、大伴氏の部屬子孫に諭された如く、天皇陛下には忠に國民たる義には操に而して勇武なる日本人の日本魂に出づる心の唯一筋に進んで、勝徳討伐せよと宣り給うた大詔を奉獻しての意◎(四)故軍人等諸將皇賀大命乎畏美耳家乎忘身母多奈知耳受御國乃爲大君乃御爲止一向爾進美戰比耳解そこで軍人たちが總てが天皇陛下の大命を畏く思つて、家を忘れ身も忘れて、御國や大君の御爲と一向に進み戦つての意▲大海原爾皇軍乃大艦小艇列並泛氣氏海陸乃軍人等諸將進美耳解大海に日本軍の艦小艇規律正しく並列し泛べて、海陸軍人等皆渡り進んでの意◎(五)先海軍以氏敵乃大艦擊沈米志哀捷報乃始刀志氏數回旅順乃港戰比勝知陸軍波鴨綠江乃大河直涉里雄詰進美耳九連城取里又進美耳鳳凰城佐勝攻落川里志乎又次後氏向比志陸軍波金州取里然志毛敵爾波堅久守里耳攻難加里志南山雲毛一甲乃中爾擊破禮里志甚毛猛俊勢波外國々乃人皆毛驚支居禮里止聞久解先づ海軍以て敵の最大巨艦を擊沈したのが捷報の始として、數回旅順港口で勝ち鴨綠江の大河を一直線に涉り奮進して九連城を取り又進んで鳳凰城さへ攻落して

居たそのうへに、又次ぎて向つた第二軍は金州を取り又最も難攻として居た南山をも一日の中に擊破つた甚しき猛勢には、外國人等皆驚嘆して居ると聞くとの意▲會母如此猛久雄々志久捷進美行久事波海陸乃軍人等賀亦支心乃一筋爾君止國止乎惜乎情爾因留止波云邊好是即耳吾天皇乃大御稜威乃驗爾志耳又是實助爾守里給布大神等乃大御稜威御靈乃幸乃國人公民諸畏美喜爾仰蓋勇美却ハ在里解せんたい此の様に日本軍が連戰連勝の名譽を荷ひつゝ、猛進する事は海陸軍人の君國を愛する至情に因るとは云へど、是れ即ち天皇陛下の御威徳の驗にて、又これを助け守り給ふ大神達の御稜威御靈驗と、國人は上下一般に欣悦且恐懼して神徳を仰尊び勇んで居るとの意◎(六)然波云爾好毛敵國毛世爾所聞多留大國爾志耳今與里後乃戰毛必思安乎倍使爾非受解さうは云ふもの、敵國も世に聞えて居る大國であるから、今後の戦局も必ず安心し得ずとの意◎(七)故里人相議里相語耳比耳是乃神社爾齋場設定米神籬立耳天津神國津御神乎招奉里座奉里耳今日乃生日乃足日爾祈念乃御祭仕奉爾止志耳解そこで、里人等と共に協議して、是の神社に齋場を設け定めて、神籬を立て、天神地祇を招奉り座奉つて、今日の最もめでたき良き日を卜し、祈念の御祭典執行する爲の意▲故今

日麻耳皇御軍用幸開給比志大神等乃大神德平忝奈美都々猶皇御軍乃將來乎毛
 守幸開給波幸古止乎祈乞白左幸止志且解そこで今日まで皇軍に幸福し給へり
 し御神徳の恩頼に報へ猶皇軍の將來をも幸福ならしめ給はむことを請祈り奉
 らうとしての意(八)献留幣帛波明妙照妙用大御饌大御酒海川山野乃物等乎横
 山乃如久置足波志且赤支心乃一筋爾爾白須事乃狀乎美良爾廣其爾開食且解
 聞えたるが如し但美良の良廣其の良は何れも助辞である▲大御前爾禮代乃幣
 帛止御酒御饌魚菜種々乃物乎供奉利且此乃縣乃縣知事郡長村長始米村人男女
 參集比且一向爾請祈奉留事乎聞召且解禮代はこゝにては報賽祈念の意義をか
 ねたり他は解する所なし(九)海陸乃軍人等其爾進美爾進麻志米給爾爾健備爾
 健婆志米給比且最終乃勝乎見事爾提得志米給比皇皇大御稜威其毛日本乃是乃
 國乃名其毛爾爾高爾爾張爾天下國乃八十國島乃八十島遠久廣久畏美仰賀志米滿
 足波志米給爾止恐美恐美母白須解海陸軍人等を爾々益々猛進奮闘せしめ給ひ
 て最終の勝利を占め而して天皇陛下の大御稜威をも日本の國の國の名も爾々
 高く張りつゝ天下世界に遠く廣く畏敬仰せさせ給へと恐れながら申すの意
 ▲海爾陸爾敵止布敵波一人毛無久及向尔仇等退返且天皇乃大御稜威波背雲乃

爾引極天雲乃向伏限里仁照輝加爾米給比且速介久平穩爾安久事畢爾志米給爾
 止恐美恐美母白須解海陸何れの方面にも敵といふ敵は一人もなく日本軍に及
 を向くる仇等總べて退きて天皇の大御稜威は世界各国に照輝かしめ給ひ速に
 事平がじめ給へと恐れくして白すとの意青雲の云々天雲乃云々は唯廣き境を
 形容したまでのことばである。

敵國降伏軍人健全祈念祝詞(文例)

掛卷母畏支某神社乃稱辭畢奉留某大神乃宇豆乃御前爾社司社
 掌氏名畏美畏美毛白左久露西亞乃國波吾實皇大御國爾對比且
 奈米久禮無支行爲乃宇多且有利計禮波掛卷母畏支天皇陛下波
 東洋乃平和乎將來遠久永久保多牟爲爾去爾之二月乃十日止云
 布爾奈母戰乎開支給布大詔乎宣良世給比之故軍人等諸波皇賀
 大命乎畏美且家忘禮身毛多奈知良受御國乃爲大君乃御爲乃一
 向爾進美戰比且既久母彼乃軍艦數隻乎擊知沈米都禮婆自今以

後波海爾波敵乃軍艦一隻母令存受、擊知沈米擊知燒支殲之、陸
 爾波射向布者等乎、坂乃尾每爾追伏世、河乃瀨每爾追撥比、彌
 進美進美往支、終爾彼乃邦乃帝都爾攻入里、彼乃皇帝乎始米
 且臣奴爾至留麻泥、戰比慄支、恐惶美且、既且和乎、請波志牟倍久、夜
 乃守日乃守爾護里、幸閉給比、且言卷波、惶加禮、母我賀皇御孫命
 波天壓神刀大座坐須、大御稜威乎、天下四方乃國々爾令輝給、閉刀、
 畏美畏美母白須。
 辭別支、且白左久、我賀御氏子刀在留町々、與里、我賀信徒爾之、且役
 爾召左禮、且出向布軍人等諸波、別支、且身健爾心、猛久雄々之、久志
 且喪無久事、無久凱旋乃聲、母轟爾速計久、還里參來左世、給閉刀、畏
 美畏美母白須、(全國神職會々報所載)

戰勝祝賀祭祝詞(用語及解釋)

○(一)掛卷母 恐支某大神乃大前爾官位姓名畏美畏美母白左久(解釋す)○(二)懸爾我

日本登露西亞國止乃交涉破裂、爾且交際毛斷、爾且靈氣精神奈其爾、最終乃手段
 止爲本術無佐、爾恐久毛天皇能大詔止、戰乎宣給比、志時爾大神乃御前、爾母告奉利
 且祈白左久(解)さきに我日本と露西亞の國との交渉談判破れて、外交も斷絶した
 から我日本は素より望む所ではないが、終極の手段として、詮方なさに恐多いこ
 とながら、宣戰の詔勅を下し給うた時に、大神の御前にも奉告し、そのうへ祈り白
 したとの意、(願)爾三十七年二月乃十日奈里、爾里我日本乃平和爾協定米、止
 爲志好意母、遂爾行波、爾爲本術乎無美露西亞乃國止、戰乎開支、爾登開支、且大神
 爾告奉利志波、實爾其月乃何日爾且有利支(解)願回すれば、明治三十七年二月の十
 日であつたわい、我日本の平和に協定せうとした好意も下ウ、行はれず、詮方
 なさに露國と戦端を開かれたと聞いて、大神に奉告祭仕へ奉つたのは、實にその
 月の何日であつたとの意爲、本術無美の美は俗にサニといふ義である。○(三)斯久
 且今日麻傳何個月止云、布月日乃長支、天皇乃大御心乎痛米、率利志古止波、更奈里
 外爾波幾千萬乃武士、賀塞佐、且衣雨、爾何乃物加波、飢乎凌支、疲乎忍比、且霧止立
 都烟乃中爾、雨止降來、爾砲彈乎犯志、天進美、且波奮比、戰比、捷且毛進美、取且母進美
 戰布中、仁波猛久、雄々志支、益荒男乎、數知禮受、犧牲止爲、都内爾波國民女毛子、供母

戰捷祝賀祭祝詞 用語及解釋

海人夜樵夫爾至留麻民止云布民乃悉一爾成利耳有留限乃手段乎盡志朝奈夕
 那爾大神等爾母乞祈奉利都々有利支解かうして今日まで何ヶ月と云ふ長い月
 日天皇の大御心を痛め奉つたことは申すまでもなく外には幾千萬と云ふ多く
 の武士が寒さや暑さや雨降り霞たばしる位の苦みは物の數ではない飢疲を凌
 ぎ霧のやうに立つ烟の中に雨の如く降り来る砲彈を犯して進んでは奮戦し捷
 ても進み敵地を占領しても進みなだして戦ふ中には勇猛なる武夫を澤山に犠
 牲にしたううして内には國民の女子も子供も海人や樵夫に至るまで民といふ
 民は悉く一つの心となつて有る限りの手段を盡し朝夕大神等にも助力を願ひの
 いあつたとの意▲斯久容易加其奴事波大神等乃奇之支神靈乎幸爾給比耳味方
 止敵止乃區別無久互仁強支兵士乎多爾傷米受害波受爲耳速那久和志給爾進毛
 互爾勝都可支事乃道理奈軍爾條理直志久行爲直支日本乃戰乎古曾波捷多志
 米給爾止祈白志支解これは上の祈白志支の句を受けたのであつた斯く容易な
 らぬ事は大神等の奇しき神靈を幸はひ給うて味方と敵との區別なく互に斯く
 ばかり強き兵士を多く傷めず害はないで速かに講和の運に至らしめ給へされ
 ば又逆も敵味方とも互に勝るゝ道理ならねば正義公道を以て動作する日本の

戦をこつ捷せ給へと請奉つたと云ふ意◎(四)然雖新白志之毛驗久其都度都度
 爾告奉利之事乃如久我日本乃皇軍賀旅順乃海爾敵乃大艦擊沈米志乎初止志天
 海乃軍爾敵等波度麻爾久敗績那都々猶敗負美爾母陸軍古曾止敵波頼美耳驛利
 加爾吹散志之乎敵又陸爾常爾敗爾有利那爾我皇軍波鴨綠江乎涉異進美耳
 九連城乎取利鳳凰城乎攻落志金州及南山爾日章旗乎立耳大石橋乎乘越江耳瞭
 陽乎占領久等斯久志耳何月何日與耳何月何日爾至留何日間乃何處乃戰爾敵乃
 陸軍皆悉爾主力挫加爾兵士斃爾銃砲彈藥皆盡支果耳氏戰波牟術無支時爾解さ
 れば請祈奉つた効驗著しくして其の都度々々に奉告祭を爲たやうに我日本軍
 が旅順口にて敵の最大軍艦を擊沈したのを初として海軍では敵は全く連戦連
 敗で幾多の軍艦と將校士卒とを亡ひ制海權もない状態であつたに猶負惜みに
 も陸軍でこつ必ず勝たむと敵は驕り顔に吹散して居たがさて戦うて見れば陸
 戦でも敵は連戦連敗で我皇軍は鴨綠江を涉り進んで九連城を取り鳳凰城を攻
 落し金州や南山を占領し大石橋を越え瞭陽を占領するなど連戦連勝で斯うし
 て何月何日から何月何日に至る何日間の何處の戦に敵の陸軍悉皆の主力挫か
 れ兵士は斃れる銃砲は分捕られる彈藥はなくなるといふ状態で全く戦闘力の

◎戰勝祝賀祝祭詞 用語及解釋

祝賀祭仕へ奉るとの意。◎七特用神祭乃爲爾新爾造仕奉留華門乎始米里々乃出口入口何々止珍志支物設備比天御前爾波御弓御劍御鉾等武具備禮代乃幣帛止御酒波藝乃閉高知藝乃腹滿並送天譴比部御比部搗仕奉留大餅小餅乎横山乃如久積累念豆饌乃廣物饌乃狹物浪津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜時乃木實爾至留麻傳横山能如久据置豆献留事乎宇牟賀志久母思食平久食聞豆解特に神祭の爲に新に造つた華門を始め里々の出口入口に珍らしい物設備へて御前には御弓御劍御鉾等武具備へ御禮の幣帛として御酒は藝に充滿し藝の腹を並べて謳うたり舞うたりして搗いた大餅小餅を山のやうに高う積累ねて海川の大的魚小の魚昆布若布大根蘿蔔物など種々の珍らしい物を横山のやうに据並べて献ることを嬉しく思召し平かに開食ての意。▲献留神酒御饌魚菜種々乃物乎安幣帛乃足幣帛止平介久聞食宇豆那比給比且解器す◎八將來永久敵等乃襲來留事絶且無久天皇乃宸襟母安久轉樂志久天下乎知利給波志米給閉國家爾取里人爾取里耳斯久計里大支那流不幸絶延且有良志米受何乃國毛人母皆穩爾安久人生乃目的乎應分爾遂那佐世給閉止恐美恐美母白須解將來永遠無窮に敵などの來襲す

ること絶えて無く天皇陛下の宸襟を痛め奉らすして安らげく轉々樂しく天下を統御し給はしめ給へ國家に取りても人類に取りても斯のやうなる大不幸を断じてないやうに而して何れの國も人も平安無事に人生の目的を應分に遂げさせ給へと恐れながら白すとの意である。

戰勝祝賀祭祝詞(文例)

掛卷母畏支某大神乃大前爾官位姓名畏美母白左久。曩爾我日本止露西亞國止乃交涉破裂禮互交際毛絶爾禰禮婆我日本波精神奈良禰禰最終乃手段止爲牟術無左爾恐久毛天皇乃大詔止戰乎宣給比志時爾大神乃御前爾毛告奉利且祈白左久斯久容易加良奴事波大神等乃奇志支神靈乎幸閉給比且味方止敵止能區別無久互爾強支兵士乎多爾傷米受害波寸爲且速爾久和志給閉迎母互爾勝邊支事乃道理奈良禰婆條理正志久行爲直支日本乃戰乎古曾波勝志米給閉止祈白志支然禮婆祈白志之毛驗久其都

◎戰勝祝賀祭祝詞 文例

度々々爾告奉利志事乃如久我日本乃皇軍實敵乃大艦擊沈米
 之乎初止爲互海乃軍爾敵等波度麻爾久敗續都々猶敗負美爾
 母陸軍古會止敵波賴美互驕利加爾吹散志之乎敵又陸爾常爾敗互有
 利和禮婆我皇軍波鴨綠江乎涉里進美互九連城乎取里鳳凰城乎攻落
 志金州及南山爾日章旗乎翻閉志大石橋乎乘越江互瞭陽乎占領久
 等斯久志天何月何日與里何月何日爾至留何日間乃何處乃戰爾敵
 乃陸軍皆悉爾主力挫加連兵士斃彈藥皆盡支兵戰波率術無支時爾
 其海軍何月何日與里何月何日爾至留何日間乃何處乃戰爾同志
 久軍艦小艇悉爾擊沈米良禮兵士盡支互戰波率力無和禮婆遂爾明治
 何十年何月何日降參來互何々何々止云布乎媾和乃條件止爲互
 血烟暗支戰乃雲乎科戶乃伊吹拂比互理萬里奴此波洵爾大元帥
 陛下乃大御稜威爾賴留波更奈利軍人等乃偉勳毛鈔加良爾村大
 神等乃日本乃天津御神乃神乃御血統唯一統爾承傳閉坐寸天皇

止天津日嗣乃高御座乎惟神愛惜美守護給布止皇乎尊備國乎愛
 志在誠忠一爾身乎捧祈氣牟公民乎惠美給比互日本乃正志支直
 支戰爾奇志貴力乎寄世給布大神等乃大御稜威爾因留事止尊美
 嬉志美忝美互那母今日乃生日乃足日爾祝賀乃禮乃大御祭仕奉
 良牟止爲互特爾御祭乃爲爾新爾造仕奉留華門乎始米里々乃出
 口入口何々止珍志支物設備比互御前爾波御劍御鉾等武具備邊
 禮代乃幣帛止御酒波饗乃閉高知饗乃腹滿並閉互謳比都舞比都
 搗仕奉留大餅小餅乎高山乃如久積累念互儲乃廣物儲乃狹物澳
 津藻菜邊津藻菜甘菜辛菜時乃木實爾至留迄横山乃如久据並邊
 互獻留事乎字奉賀志久母思召互平介久安介久聞食互將來永久
 敵等乃襲比來牟事絕互無久天皇乃宸襟毛安久轉樂志久知里
 給波志米給閉國爾取里人爾取利互斯久計里大支奈留不幸絕延
 互有良志米受何國毛人母皆穩爾安久人生乃目的乎應分爾遂那

佐勢給閉止 恐美 恐美母 白須(編者)

祈安産祝詞(用語及解釋)

◎(一)掛卷毛 畏支 吾大神乃 大前爾 恐美 恐美母 白久 ▲掛卷母 畏支 吾産土大神止 稱
言竟奉留 皇神乃 宇豆乃 御前爾 畏美 畏美母 白左久 ◎ (二)大神乃 氏子 何某 妻何某
伊 今年何歲 爾 何月 與星 妊氏 今分 婉月 爾 當禮 禮 大神 爾 請申 耳 安久 穩 爾 子産
麻久 欲利 耳 齋主 某 爾 禮代 乃 請乃 幣帛 捧持 耳 御祭 仕奉 耳 之 幸 解 當禮 禮 是 當り
て あれば の 意産 麻久 欲利 耳 是 産み たく 思う てる の 意 請乃 幣帛 は 殊更 に 安産 を 請
申す に 就きて の 幣帛 他は 聞え たる が 如し ▲某國 某郡 某里 人 何某 我 妻 何某 伊 妊
氏 某 波 其乃 分 婉月 爾 當禮 留 耳 吾大神 乃 恩 願 乎 蒙利 耳 平久 安久 子産 幸 止 遠支
海山 尊念 參來 耳 齋主 某 爾 禮代 乃 幣帛 捧持 耳 恐美 恐美母 稱言 竟奉 耳 志 幸 解 恩 願
乎 蒙利 耳 是 御神 徳 の 廣き 厚き 奇靈 の 幸を 蒙り てる の 意 遠支 海山 云云 は 何々 神社
の 祭神 の 産に 靈驗 著明 なる 神と 聞き 遠國 なれば 海を 渡り 山を 越え 神社 の 所在
地を 尋ね 參來 てる なり 他 の 意義 は 上に 同じ ◎ (三)掛卷毛 畏支 大神 此 狀乎 平久 安久
聞召 耳 何某 乎 廣久 厚久 撫給 惠給 氏 喪無 久 事无 久 令産 給比 産氏 乃 後毛 平久 安久 安

介久 令在 給閉 止 恐美 恐美母 白 解 喪無 久 事无 久 は 枉事 なく 無事 に といふ 意産 氏
乃 後云々 産後 も 平穩 無事 に 日 經過 しめ 給へ といふ 意 他は 聞え たる が 如し ▲阿
波神 尊 依 吾大神 乞祈 乃 悉彌 高爾 聞食 宇豆 那比 給比 耳 何某 乎 晝波 日乃 守護 夜波
夜乃 守護 止 神 隨守 護給 比 耳 安久 穩 爾 身 傷米 受 精神 失世 受 耳 心安 久 平令 産給
閉産 氏 乃 後毛 母子 諸共 健加 爾 生立 日陀 太志 米 給閉 止 恐美 恐美母 乞祈 奉 耳 久 止
白(解)阿波神 は 威嘆 詞 宇豆 那比 は 御受 諾 といふ 意 健加 爾 は 壯健 日立 都は 經過 上
ろしき こと 他は 皆前 に 解したる こと といふ である。

祈平産祝詞(文例)

掛毛 畏伎 我大神 乃 大前爾 恐美 恐美母 白久 某國 某郡 某里 人 何某
我妻 何某 伊 妊氏 今産 月爾 當禮 流乎 吾大神 乃 御靈 給比 氏 平久 安
久 子令 産給 波 奉 事乎 祈白 奉止 爲 氏 祭主 名爾 禮代 乃 幣乎 捧持 氏
恐美 恐美母 稱言 竟奉 良之 幸 掛毛 畏伎 大神 此 狀乎 平久 安久 聞召
氏 何某 乎 廣久 厚久 撫給 惠給 氏 毛 无 久 事无 久 令産 給比 産氏 乃 後
毛 平久 安久 令在 給閉 登 恐美 恐美母 白(祭文例)

平産報賽祝詞用語及解釋

○(一)掛巻毛畏支吾大神乃大前爾恐美恐美母白久▲此乃里乃産土神止稱言竟奉留掛巻母恐支吾皇神乃大前爾畏美畏美母白左久意聞ぬたるが如し○(二)先爾何某我姓氏臨月爾常禮里之時吾大神乃恩頼爾依且平久安久子令産給閉登祈白支(解)當禮里之は當りてありしといふ意他は上に解いた▲義爾某國某郡某里乃妻某賀妊氏分娩月爾及邊里之時遠支海山等念參來且吾大神乃恩頼爾請奉里支安産を祈る祝詞の條參考及邊利之は及びてありしといふ意請奉里支は請奉りましたといふこと支は大過去を表す詞である○(三)然食祈白之毛驗久喪無久事無久産万之米給幣留事乎尊備喜備謝乃幣乎捧持氏廣久厚久稱言竟奉留狀乎平久安久開食世止恐恐毛白須(解)うれでマア祈白したことが驗著しくて柱事もなく無事にて出産せさせ給へる事を尊び喜び御禮の幣帛を捧持て廣く厚く心を盡して嚴肅なる神祭仕奉る狀を平く安く聞しめし受け給へと恐れくて白すとの意▲然禮婆嬉志久神隨相宇豆那比給比且身乎傷波豆精神乎痛女且心安以最容易久生産志米給幣留大神乃廣支厚支恩頼爾貴備嬉美忝奈美且奈毛蒙奉禮留禮代乃其乃幣帛乎平介久安介久開食且往永久千代常盤爾守護幸閉給閉

止恐美恐美母白須(解)祈白したれば嬉しく御受諾下し給ひて身を傷はず精神を勞せず心安く最も容易に出産せ給へる大神の恩頼を貴び嬉み忝く思うて献る御禮の幣帛を平安に開食してゆくさう永く千代も万代も常盤の如く強健にて幸福あらしめ給へと恐れくて白すとの意▲斯久且今月何日最安久女兒乎産美産美氏乃後母母子諸共健介久日乎經都々生長都狀乃嬉志那禮婆全久大神乃廣支厚支恩頼爾古曾止悦備勇美且今日大御前爾參來拜美齋主某爾禮代乃幣帛捧奉且志幸留事乎皇神乃御心爾毛平介久安介久開召受給閉止恐美恐美母白(解)斯久且はかうしてといふ意前の祈白支を受けたのである日乎經都々云々は日を経て漸々と生長すること恩頼爾古曾は恩頼爾依且古曾阿禮と云ふ意安産は全く神の恩頼に依るといふことを強くいうたのである今日大御前爾參來拜美といふ爾と參との間へ代理者なれば代人某といふ詞を入れて讀むべし他は前に解せり。

平産報賽祭祝詞(文例)

掛毛畏伎吾大神乃大前爾恐美恐美毛白久先爾何某我妻何某我

妊氏臨月爾當禮里之時吾大神乃恩賴爾依豆平久安久子令産給
登祈白伎。然乎祈白之毛驗久毛无久事无久産之米給幣流事乎尊
備喜備謝乃幣乎捧持氏廣久厚久稱言竟奉留狀乎平久安久聞召
登恐々毛白(祭文例)

初宮詣祝詞(用語及解釋)

○(一)掛麻久母恐或吾大神乃大前爾恐美恐美母白左久▲此乃里産土神止稱言
竟奉留掛卷母恐或吾皇神乃宇豆乃御前爾畏美畏美母白久○(二)大神乃氏子何某
我真兒何某伊大神乃御恩賴乎被利耳生出之從利百日餘十日爾成奴(解)真兒の眞
は稱讚言大神の氏子何某が愛兒何某が大神の御神徳の幸によりて生出せしよ
り百日餘十日になつたとの意▲大神乃氏子何某伊何某伊大神乃奇志支神徳
乃厚久志早最安久生出傳之與里今日波早久毛百日餘十日爾成利耳最健衣介久
耳在利(意)義明瞭○(三)故是乎以今日乃生日能足日爾初氏大神乃大前爾參出豆拜
奉狀乎平久安久聞召登白(解)うれ故今日の生々足々といふ吉日に初めて大神の
大前に參拜する狀を安く聞召と白との意▲故此乃厚支恩賴乎忝美耳心樂久毛

今日乃生日爾忌回利清回利耳禮代乃幣帛捧持耳初宮詣乃御祭仕奉耳久乎皇神
乃御心爾毛宇良邪惡明爾開食止白須(意)聞えたるが如し○(四)如此仕奉留爾依利
耳今毛往前毛此嬰兒乎愛美給比日足耳志賜比氏諸乃病不令有須久須久止生立
榮氏大神乃氏子天皇乃公民止守幸閉給閉止恐美恐美母白(解)日足耳寸は満足に
日を経つ、生長すること須久々々は小兒の諸病發らず蹉躓かず日に増し生長
しゆくことの形容公民は天皇の御民といふはの意▲斯久耳今與利後波大神
乃氏子止愛傳給比守護給比耳恰惻久賢志久生長人止成耳志米給比耳人乃道心
安久履行波志米給閉止恐美恐美母白(解)斯うして今より後は大神の氏子として
愛し給ひ守護し給ひて才の活用敏く智の活用賢しくして生長し一人前の人とな
りて人倫の大道を履行はせ給へとの意である。

初宮詣祝詞(文例)

掛毛畏支吾大神乃大前爾恐美恐美母白久大神乃氏子何某我真
兒何某伊大神乃御靈賜利氏生出之依利百日餘十日爾成奴故是
乎以今日乃生日能足日爾初氏大神乃大前爾參出豆拜奉狀乎平

久安久聞召登白如此仕奉爾依臣今毛往前毛此嬰兒乎愛美給比
日足賜氏諸乃病不令有須久須久止生立榮臣大神乃氏子天皇乃
公民止守給幸給登恐恐美母白(祭文例)

結婚式祝詞(用語及解釋)

◎(一)此里乃產土神止稱言竟奉爾掛卷母恐支吾皇大神乃宇豆乃御前爾姓名恐美
恐美母白左久(解)上に出でたり▲此乃真床乎拂清米互與山乃神乃枝乎手折特來
耳神籬差立奉招里奉令坐留掛卷母恐支吾皇產靈大神神皇產靈大神乎奉始氏妹
妹乃道乎始給比志伊邪那岐大神伊邪那美大神出雲國杵築神社爾鎮坐氏嫁繼乃
事乎掌給布大國主大神須勢理比賣大神及產土大神等乃大前爾何某慎美敬比恐
美恐美毛白久(解)真床の眞は稱言神籬は前に解せり高皇產靈尊神皇產靈尊の二
神は造化三神と稱奉る中の二神にてムスビの事を知り給ふこと御名の示
せるが如くである伊邪那岐伊邪那美二神は文中にも示せるが如く妹背の道を
始め給ひし神大國主神及須勢理比賣神は夫婦中最睦じくて嫁繼の事満足に終
へさせ給ひし神であるから結婚式には殊に此等の神達を祭るのである◎(二)今

度某宮爾仕奉留神職何某我相讓里互(解)せずとも意義明瞭▲今度何某媒人乃事
執持互意義明瞭◎(三)某神社乃氏子何某爾某神社乃氏子何某我女某乎娶氏嫡女
登定米牟止爲留我故爾(解)ムカヒメは嫡妻の字の如く正嫡の妻といふこと◎(三)
今日乃某月乃某日乎生日乃足日乃吉日止撰定米耳婚禮行布登爲耳奉留種々乃
幣帛乎安幣帛乃足幣帛止平久所聞食氏意聞えたるが如し▲今日乃吉日乃吉辰
爾皇神等乃御前爾婚姻式乎行比請奉耳久(解)意義明瞭◎(四)夫妻乃契波如巖彌堅
其加爾常磐樹乃不變色乃相思比辛苦波共爾堪忍備幸有時爾遇氏波共爾其樂乎
同志久爲氏(解)夫妻の契約は巖の質の堅きが如く堅らかに常磐樹の色の変らぬ
が如く互に心變らず相思ひ辛苦は共に堪忍ひ幸福は其快樂を共にしての意▲
夫妻乃契波連理乃枝廻並違留賀如比翼乃鳥乃相扶久留賀如階爾老終乎同志久
爲志米給比(解)聞えたるべし◎(五)家門高久廣久子孫乃八十連續爾至留迄茂八桑
枝乃如久立榮延志米給閉止祈白須事乎相諾比相助爾給閉止恐美恐美母白(解)上
に出でたり▲子爾多用設那志米給比互健介久家業乎勤美務米互怠耳愛家門高
久廣久榮延志米給比人止阿留道心安久履行波志米給閉止恐美恐美母白(解)子
爾多く設け玉皆健全に家業を怠らず勉勵して家門を高く廣く榮えしめ給ひ人

結婚式祝詞 用語及解釋

の大道を蹉跌なく履行はせ給へと恐れくして白すの意。

結婚式祝詞(文例)

此乃眞床乎拂清米豆與山乃榊乃枝乎打折持來豆神籬差立奉招
里奉坐里豆稱言竟奉留掛卷母恐支高皇產靈大神神皇產靈大神
乎奉始妹妹乃道乎始給比志伊邪那岐大神伊邪那美大神出雲
國杵築神社爾鎮坐豆嫁繼乃事乎掌給布大國主大神須勢理比賣
大神及產土大神等乃大前爾何某慎美敬比恐美恐美母白左久今
度某宮爾仕奉留神職何某賀相議利豆某神社乃氏子何某爾某神
社乃氏子何某我女某乎娶利豆嫡妻登定米牟止爲留賀故爾今日
乃某月某日乎生日乃足日乃吉日止撰定米豆婚禮行布止爲豆持
齋麻波里持清麻波里豆捧奉留禮代乃幣帛波由紀乃御食御酒波
饗戸高知饗腹滿双氏山野乃物波甘菜辛菜青海原乃物波饗乃廣
物饗乃狹物與津藻菜邊津藻菜爾至留麻傳爾如横山置高成豆奉

留幣帛乎安幣帛乃足幣帛止平久所聞食氏夫妻乃契波如巖彌堅
良加爾如咲花移事無久命有給比氏皇神等乃遠津神代爾定給比
志事乃如久左右乃遠无久先後乃謬无久赤支清支直支正支誠乃
心持氏相背加自相違波自止契合世約合世氏家門高久廣久子孫
乃八十續如茂八桑枝令立榮給閉止祈白須事乎相諾給比相助給
比豆堅磐爾常磐爾夜守日守爾護給比幸給閉止鵜自物頸根突拔
豆恐美恐美毛稱言竟奉良久登白
辭別豆白久今嫡姜登定米牟某伊女乃大道奈留操正志久爲氏常
爾言先立事不令有後事乎良洩事無久落事無久令掌給閉止恐美
恐美母白(神道結婚略式)

葬儀靈祭詞

誄辭(用語及解釋)

○(一)ノ(一)哀之使耶某翁乃靈前爾白左久(解哀之支耶は悲しきことよといふ意味

◎誄辭 用語及解釋

で、老少ともに用ゐる語である。▲長支也某乃命乃御靈乃御前爾、恐美母白左久、解長支也及恐美母の語は貴人に用ゐる詞である。○(一)二言麻久毛忌々之伎、姓乃老翁乃靈前爾謹美互白左久、解忌々志は諱み憚る義にて、こも前と同じく、多く貴人に用ゐるのである。○(一)三愛之伎某命乃靈前爾白左久、解以上三個の愛之伎、勞之伎、惜志靈前爾白左久、▲惜其志伎某命乃靈前爾白左久、解以上三個の愛之伎、勞之伎、惜志支の句は、婦人や幼稚なる男女兒に應用のできるのである。○(一)四阿奈悲之支、可毛、慕波志交某命、▲阿那息衝志支可毛、懷加志支姓名乃命、解以上二句の阿奈は、俗にア、といふ嘆息の詞、息衝志支は悲嘆のあまりに息苦しく咳上ぐることを慕波志支、懷加之支は、共に父母などに對して用ゐる詞である。○(二)老翁波毛一年號月日二姓名翁乃真名子止生出座志耳名乎、幼名乎奈母謂氣介留素與里忠直仁雄々志交性質爾坐之天子斗阿留者乃道平遠反受、懇切爾父母爾仕反、解真名子は、愛子といふ意、忠直は、忠實正直の意、雄々志支は、男らしき氣質に富みて居ること、子止阿留者乃云々は、親に事へて孝なることと、さて此の句の詞は、老若男女に通じて用ゐらる。故に此の句を他に應用する時は、老翁波毛の四字を適當の詞と、代め替へて用ゐるのである。▲某波毛先代乃姓名翁乃何男仁坐之天、幼少與利能久父母爾孝

此其乃教訓乎守利、解意義同上。▲某波毛天性聰久、伶俐志久、物學妙爾勝禮耳悟敏久、識明加爾速加利、爾禮波、解某は天稟の性質、聰明敏知にして、學問優れ、英敏明識にてまします。せばの意、これも老若男女に用ゐらるる語である。○(三)一成人里坐之耳波一年號月日老翁年齡乃時、在所乃姓名乃次女乎迎反天妻止志、同支月日、父翁乃讓里乎受介耳家督乎繼賜、其與里以來彌益々爾、雄心振起之、家之業乎修米家乃衰反乎興之心乎、誠爾志、行事乎正志久志、他乃愁反乎開支、天波共爾愛反、他乃喜乎見耳波共爾悅、爾物爾付介事、爾付介私心乎思波、耳專内外乃裨益斗成耳、事乎心斗志、耳勤勞美給比、支、解はや一人前といふべき年齢となりては、何年何月何日、老翁が何歳に成られた時、何と云ふ所の、何某の何女を迎へて妻とし、同じき何年何月に、御父翁より家督を譲受けられ相續し給ひ、られよりこのかた、一層逞しき勇氣を振起して、家業を勉勵整正し、或は家政の衰運を挽回興復し、誠心を以て、行為を正善にし、好惡憂樂は、他人と之を共にして、何事につけても私心を以て專斷せず、私欲に驅られず、主として我人の裨益にならむことを心として、勤勞し給へりとの意、これは、専ら一家の主人として、勤勞の歴史ある人に用ゐる詞である。○(三)ノ二成人利天波、裁縫比乎始米耳、總借天乃女業爾委之、久平素爾起居進退優美

◎誅辭 用語及解釋

之久行狀正志久某乃家爾嫁給比豆與利以來幾年止云布長支年月一日片時陀仁
 怠留事無久良人爾仕邊豆柔須奈留婆加里加波舅姑爾事邊天最懇切爾孝順比給
 比侍支給比夏兄弟爾親美陸備豆親族家人下婢者爾至留麻傳和美陸備豆交利母
 志使布者乎勞波利内乎修米家乎齊邊給邊留奈村御功勞最母深久曾遺志給邊留
 (解)これは婦人の亡靈に對する詞である他は解すべき所なし(四)故世乃聞延毛
 宜加利介禮邊年號月日何乃官職爾任佐禮又年號月日何官職爾進美位仁叙左禮
 給比支解これは老壯男女に應用し得通じて解けばそこで世間の名聞もよろし
 くて何年何月日何の官職に任せられ又何年月日何官職に進み何位に叙せられ
 給うたといふこと(五)一里人波更奈里近隣乃人々爾至留邊爾其乃勤勞使乎
 賞米其乃功德乎慕奉利支(解)村里の人は勿論近村隣里の人々に至るまでは其の
 勤勞を賞讃し其の功德を敬慕したといふこと(五)二然禮邊人皆其乃行狀乎
 見敬比聞尊備天其家乃良人始米舅姑親族家人乃幸福乎慕波奴者母無加利和里
 (解)さういふものであるから人は皆某命の行狀を見ては敬ひ聞きては尊びなご
 して汝命の良人始め舅姑親族家人等の幸福を慕はぬ者も無かりしとなり(六)
 然留爾吉事爾凶事伊次久世乃中止天可年號乃春乃末與里無端久病爾罹里甚久

苦惱美坐志介禮邊親族兄弟打集比且朝暮不去扶助介看護其比暨樂方術乎始米
 有利登有留事等遺留事無久盡之志可好毛其乃効無久遂爾年號月日乃日乃明暗
 爾年齡乎此乃世乃限利登志豆(解)斯くの如く勳功有り或は模範とすべき人にし
 て萬人に慕はれつゝありしに然るに吉事には兎角凶事の次ぐといふ習か何年
 の春の末頃から不圖病氣に罹り甚しく苦悶し給へれば親族等打寄りて朝夕去
 らず看護し暨樂方術の道にも力を極めて盡せしが其の効無くて何年何月日
 何時に何歳にての意(七)逝水乃逝支豆還其奴八十垆路爾隱去爾坐志之波悲志
 止毛痛麻志止毛將言爲方無使事爾奈母(解)逝く川水の逝き流れて還り來ぬ如く
 再還る事の出來ぬ幾くねりと無くくねりたる限路の遠い處に隱坐去坐したる
 ひと人の死を限路に隠れたる如く云ひなしたのである▲春雪乃消由留我如久
 身退坐之々波最毛最母哀之久惜之支事爾奈毛(解)聞えたるが如し▲此四月何日
 乃云日爾躑躅花手爾取持耳花瓶乃小瓶爾捕都々座留間爾由久里奈久其花乃下
 枝乃露乃波可奈久母消失給比奴阿那悲之可毛我祖乃命爾奈息衝志可毛我乃自
 乃命(解)由久里奈久は不意に又頓になごの意其花乃下枝乃露乃花は花に椽ある死
 なれば其の花を取來りて露は下の消失須といはむ爲の脩飾辭即ち人の死を露

◎詠辭 用及解釋語

の消失することと言なしたのである。波可奈久は脆し、又かひなしといふ意、刀自は老女の尊稱、詞他は聞えたるが如し、さて露とはかなくの意は「朝霜乃消留如久」或は「夕月乃消留如久」又「春雪乃消留如久」など、時に應じて書くのである。○(八ノ二)夢現別難、而且御頭邊、爾御句比、御脚邊、爾御句比、悲歎支都、爾御句比、其乃詮無介、爾(解)あまり急病にて死給へれば、夢が現か別難ねて、頭上に、脚部に、爾御句比ながら悲み歎ければ、詮なければの意。○(八ノ二)今日與利波高支御容儀平見受耶成那牟。明日與里波懇切奈留御語乎毛聞受成奈牟。解此は、老男女に用ゐる詞である。文意は聞えたるが如し。○(八ノ三)今日與利波園生乃花乃美久支乎、誰爾可毛見世。明日與利波種々乃珍翫物波、誰爾持世天可慰米牟止、線言爲都々、硬咽歎伎都禮。其乃詮無介、爾(解)此は、幼男女に用ゐる詞である。誰爾可毛見世牟は、誰にかマア見せやう見するに、其の人なしの意、他の語は聞えたるが如し。○(九)斯在禮親族波、暗夜爾燈乎消之、渡里爾船乎失比之、如久愁感比、且哀慕布留不忍留、故爾暫時毛登天、殞室爾坐世奉利耳、其乃事仕奉利志可、行毛(解)する所なし。▲親族波常住不變毛止、思憑米留心可、其愁呻吟比、爾奉良留々、隨爾殞室仁、遷奉利耳、幾日乃間、其乃事仕奉利之可、行毛(解)意義同上。○(十)世間乃定例有利耳、然且之毛可有支奈耳。

爾(解)甚惜之支、御亡骸乎、播舉介、天法乃隨々、取欵米、所出立路途乃、行粧波、所祭物斗、眞神打席久物斗、赤旗白旗、其他種々乃物持列並米、且(解)世間乃定例とは、死骸は家に置かすして、必ず定所に埋葬、或は火葬するの習慣をいふ。然且之毛云々は、斯くの如く、此の儀にて家に置くこと叶はねばの意、祭物、打席久物は、神は常磐木の常に榮え、旗は風に打靡くものであるから、斯く詞を文なしたのである。他の文意は、明瞭である。○(十一)近親等御供仕奉里、天御墓所反送奉良久乎、所聞食之、諾賜比耳。後毛輕火、所出立世、賜反送、誅辞白之、賜波久斗、白須(解)後毛輕久云々は、死後の事に懸念なくの意、他は聞えたるが如し。▲故袖乃涙乎、播拂比、鹿自物、味折伏宇、自物頭根、突拔久、某悲美、誅言申佐久止、白須(解)上に出でたり。

誄詞文例

言麻久尾忌々之支、姓乃老翁乃靈前、爾白左久老翁波、毛靈幸神乃御幸爾依里、寫去之、年號月日、二姓名翁乃眞名子止、生出天々、名乎幼名止、奈母謂之介、疏素與里忠直爾雄々志、支性質爾坐之天、子止阿留者乃道平、違返、懇切爾父母爾仕反、家業、汝助介、且怠慢留事無久。

誄詞文例

曾坐之介流。成人里坐之豆波。年號月日。父翁乃讓乎受介。且家督乎
 繼賜比。其與利以來彌益々。爾雄心振起志。家之業乎修米。家之衰乎
 興之心乎誠爾志。行事乎正志。久志他乃愁乎聞支。豆波共仁憂反。他
 乃喜乎見天。波共爾悅比。物爾附介。事爾附介。私心乎思波受。專内外
 乃裨益斗成。良牟事乎心斗志。豆勤勞美給比支。故世乃聞延毛宜可
 里。祢禮婆。年號月日。官職爾任左。禮。又年號月日。官職爾進美。位爾叙
 左。禮賜比支。其以後年月日。病爾罹里。天仕乎致米。男名。爾家督乎讓
 利。身安久。心樂志。久物備里。事足良比。老乎養比。都々坐之介。留爾然
 寸我爾現世。乃風習波。免禮坐左受也。有里。祢牟。年號秋乃始米與利。
 御心氣不例受。不平美坐志。祢禮婆。男名乎始米。親族打集比。月頃相
 親米留。鑿師爾請比。年來敬信米留。皇神爾祈奉里。都々漏事無久落
 事無久。法乎良術乎良盡之志。可斗毛。御命乃限里。爾耶。漸々爾羸瘦
 反坐之天。此乃明治年月日。乃日。乃黃昏爾。年齡爾之豆。春雪乃消由

留我如久。身退坐之々波。最毛最母哀之久。惜之支事爾奈毛。親族波
 常住不變。毛受思憑米。留心可良。愁呻吟比。倨奉良留。々隨々。殯室爾
 遷奉利。豆。幾日乃間。其乃事仕奉利。志可存毛。世間乃定例阿禮婆。然
 豆之毛。可有支奈良。爾婆。親族相議里。豆。最惜之支。御亡體乎。擧介
 豆。清潔支。白妙乃衣。取著世和介支。裊褥取敷支。且其乃上爾坐世奉
 利。敷妙乃枕乎。令卷世。白絹以豆。御面乎覆比。禮服紐刀。及年頃愛賜
 比之種々。乃珍玩物乎。取添反。厚衾指覆比。常磐乃松乃。廣支板以豆
 所作留。棺仁。歛米。白支。狹布乎取裝比。大輿爾取載世。奉里。所出立留
 行路乃威儀。波。所榮留物。斗。五百枝。眞榊爾。白幣。青幣乎取垂天。最先
 爾持捧介。打靡久物。斗。白旗。赤旗乎。二方爾立列。爾。綠深支。若松爾。時
 乃菓乎。鬚籠仁。入禮天。取著介。開丹保布。梅枝爾。鳥乃名乃。作物乎。結
 著介。左右爾持並倍。樂人等爾行樂。樂介志米。又秉炬以豆。道邊乎照
 之。近親乃者等。近支守護斗。仕奉利。其乃他諸前爾列並美。後爾立並

美送奉良久乎所聞食之天、後毛輕久行先毛安久出立之天、冥府爾到里坐世。然到里坐之都々毛家乃靈屋爾坐須、汝我分靈乃神止共爾守幸反賜比天、現世爾在留親族兄弟等乎、與母津國與利、荒備踈備來幸禍事爾相卒里相口會事無久、幸久遠長爾令立榮米賜反斗、鶉成寸伊波比回利、誅辭白左久乎、平介久安介久所聞食世斗白須(葬儀式)

終祭詞(用語及畧解)

◎一發語性乃老翁乃靈前用齋主姓名白左久(解)發語は世にいふ枕言である。これは大山大川など大といふ語の上につける姓には「空計布物多用」など冒らせ。小野小原など小といふ語の上につける姓には「玉簾乃打麻平」など冒らせ。大野小野など野といふ語のある姓には「夏草乃」など冒らせる類をいふのである。他は聞えたるが如し。◎二老翁波毛素與利其姓質直久忠實爾坐之耳國乃爲爾身乎委爾道乃爲爾心乎盡志賜比耳世爾有數留有功人爾志阿禮(解)老翁は天性忠實にして國家の爲又人道の爲粉骨碎心し給ひて當世稀なる有勳功勞者なればの意。さて老翁云々は其の人品老幼によりて種々である。身分高き人ならば君大人、若子など用ゐ。婦人ならば大刀自姫、處女などいふべく。直人ならば翁、更主、又幼童は子、婦人は刀自、姫子など撰び用うるのである。又性質直久忠實云々は「朴直爾之且謹厚久」或は「實直爾雄々之久健剛久」とか「直質久深沈爾之天賢才久謙遜里天聰遠久」など其の性質に随つて書くのである。又勳功官位等も洩れ無く書く。◎三親族朋友波更奈利相識爾留人乃悉皆阿波禮世乃遠人世乃長人止坐世可志止乃美祈奉里支(解)親族朋友は勿論相識る人は皆ア、某は長かれ高齢まで存命なれ、鶴龜と齡を共にするまで健全なれかしと祈れりの意。◎四然有禮乎現身乃世波波可奈久天此乃明治乃何年乃何月何日年齢乎此乃世乃限止志耳逝水乃還其奴如久入月且不見留如久、隱去爾坐志之波惜之登毛哀之止毛(解)然うではあるけれども現身の人世は味氣なくて此の明治の何年月日何歳にて流水の逝きて還らぬが如く、入月の隠れては見ぬぬが如く、隠去り坐したのは惜し、とも哀しとも、何とも謂ひ様なしの意。これらは身分の尊卑年齢の多少を問はずに用ゐらる。◎五斯在禮婆前爾告奉里之如久、證號乎(證號)登稱奉里終乃御祭仕奉留斗之耳今日乃御登止御酒御饌種々乃物乎、横山乃如久置足波之耳、樂人等爾笛吹可志米、鼓鼓多志米、御

◎終祭詞 用語及畧解

翁云々は其の人品老幼によりて種々である。身分高き人ならば君大人、若子など用ゐ。婦人ならば大刀自姫、處女などいふべく。直人ならば翁、更主、又幼童は子、婦人は刀自、姫子など撰び用うるのである。又性質直久忠實云々は「朴直爾之且謹厚久」或は「實直爾雄々之久健剛久」とか「直質久深沈爾之天賢才久謙遜里天聰遠久」など其の性質に随つて書くのである。又勳功官位等も洩れ無く書く。◎三親族朋友波更奈利相識爾留人乃悉皆阿波禮世乃遠人世乃長人止坐世可志止乃美祈奉里支(解)親族朋友は勿論相識る人は皆ア、某は長かれ高齢まで存命なれ、鶴龜と齡を共にするまで健全なれかしと祈れりの意。◎四然有禮乎現身乃世波波可奈久天此乃明治乃何年乃何月何日年齢乎此乃世乃限止志耳逝水乃還其奴如久入月且不見留如久、隱去爾坐志之波惜之登毛哀之止毛(解)然うではあるけれども現身の人世は味氣なくて此の明治の何年月日何歳にて流水の逝きて還らぬが如く、入月の隠れては見ぬぬが如く、隠去り坐したのは惜し、とも哀しとも、何とも謂ひ様なしの意。これらは身分の尊卑年齢の多少を問はずに用ゐらる。◎五斯在禮婆前爾告奉里之如久、證號乎(證號)登稱奉里終乃御祭仕奉留斗之耳今日乃御登止御酒御饌種々乃物乎、横山乃如久置足波之耳、樂人等爾笛吹可志米、鼓鼓多志米、御

心乎慰奉其久乎、樂之斗見行之甘之登所聞食之諾賜反登白須、意義隠れたる所なし。こも何人にも應用してよいのである。○(六)如此天是與利主賀入坐半幽冥界波之毛、八十乃珂路止遙介可禮拜毛、高支貴支神等乃神集利坐す所山川草木乎始米照映比豆美之支所諸乃眼耀久珍寶乃多有留所意乃隨爾事物乃足波布所斗所聞禮婆惑布事無久、猶豫不事無久、唯一道爾思定米豆伊行到坐世正志支神乃列爾入坐世(解)斯うして是れから主が入りなざる神界はマア、八十乃珂路とて、遠く遙なれども、高貴の神等の集り居給ふ所又山川草木は互に照合うて美麗なる所眼耀く諸珍寶の多く有る所、自由自在諸物圓滿具足せる所と聞き居れば、汝命よ惑はず、猶豫することなく、唯一道に思定めて行き給へ、正しき神の列に合はり坐せの意。○(七)然神斗成坐之天、婆前爾此乃家乃靈屋爾坐奉里鎮奉里之汝我分靈斗力乎戮世心乎一世天此乃家内親族爾禍事无久、未遠永仁榮延志米給閉止白須(解)斯くの如く、神と成坐してからは、前に此の家の靈屋に安座し、鎮祀れる汝命の分靈と力を戮せ心を一にして、此の家内親族等の行末に災難なく、永遠に繁榮幸福ならしめ給へとの意。これらの詞は、何れも何人に應用して差問なき詞をもである。○(八)辭別介豆白左久出立世奉其平威儀物整頓比奴禮、親族諸御供仕奉利齋主姓

名齋部諸乎率天、誘導支奉利耳、御墓所反送奉其止須留狀乎、平介久所聞食之天、御心毛、穩爾出立知坐世斗白須(解)殊更に白す、發棺の準備整へば、親族等諸人御供し、齋主は他の齋官を引率して、誘導し奉り、御墓所へ送奉らうとする状を聞受け給ひて、御心も辭に出立坐せとの意、こも總てに應用してよい。

終祭詞(文例)

「發語、姓名主乃靈前爾白左久。主波毛、素與利朴直爾之天、謹厚久坐之天、上爾交利天阿謔留事無久、下爾對比天驕慢留事無久、正實乎專登之天、國乃爲家乃爲波言布毛更余利、負持豆留職掌爾心乎盡之、許多乃功績乎立賜比、遠近爾其乃名所聞之、有徳人爾奈毛坐之介留、然留仁年號月日乃日、病爾因利豆死去利坐之奴留波、最毛最毛惜之伎事爾奈母、斯在禮婆前爾告奉利之如久、謚號止謚號乎負世奉利豆、今日波之毛終乃御祭仕奉良久斗、御酒御食種々乃物供奉良久乎、平介久安介久所聞食世登白須。如此天是與利主賀入坐

左牟幽界波志毛、八百萬神乃隱在寸所爾之耳、山川草木照渡里、此乃世爾勝利互美麗之支所、又事足良比物備在利天、總互自由自在、奈留所又政事乃正志支嚴之支所止所聞禮婆、一向爾思定米互伊、行支到利坐世、然到坐之奈婆、主我平日乃行狀斗功績斗乎賞米給、比愛賜比互、正志支神乃列爾入賜比互、永久久志久幸福乎得志米、給布倍之、然神止成坐之奈婆、前爾鎮奉利志分魂乃神止共爾家乃、守護神止坐之天、內爾毛外爾毛禍事无久子孫乃八十續伎常誓爾、令立榮米賜反、又出立多世良牟、行粧物整調比奴禮婆、誘導奉良牟、止仕奉良久乎所聞食之諾賜比天、御心毛安久出立知坐世止白須。

(葬儀式)

移靈祭祝詞(用語及解釋)

○(一)發語「姓乃老翁乃豐乃前爾白左久」解發語は姓に縁ある語を冒らすこと即ち世に云ふ枕詞である。老翁の文字の所へは亡者の年齢男女に應じて其の適當の

語を入るのである。▲穴阿波禮悲伎加毛、穴阿波禮悔志伎加毛「解」ア、ア、悲しきことよ、マアア、ア、悔しいことよマア、といふ意。穴も阿波禮も嘆詞である。○(二)何某夜何方用所念食世加、現身乃惜伎此世乎退坐留「解」何某よ汝命は如何に思召してか惜しき此の現身の人の世を退きましたといふこと。死去せしことを深く恨としたのである。○(三)老翁波毛、惜之久毛、身退里坐之奴留可毛、愛介久毛此野世乎去坐之奴留可毛「解」老翁はマア惜しいことよマア、何とて身死なされたかマア、愛しくあるよマア、何とて此の世を去りましたかマア、といふこと。毛は何れも嘆息の詞である。○(三)親族家族乃心爾波、斯有牟止波思比掛那受、一向爾醫藥乃術乎憑頼美、廣久厚久天地乃神等乎乞祈奉耳、必元乃身爾成給波本物叙此枕邊爾寄副比、御後邊爾侍耳比互、萬爾心乎盡奴禮伎更爾醫藥乃術母其驗無久息衝宇良夫禮都呼備奉禮行毛、一言乃答太仁爲給波受、遂爾歸來坐佐奴道爾那母出坐介爾阿那哀禮悲志伎加毛、阿波禮悔志伎加毛「解」親族家族等の心には、ヨモヤ斯く死亡し給はうとは思ひもかけず、唯一心に藥の効驗あらむことを待ち憑み、又廣く厚く天地の所在大神に祈願したらば、必ず元の身に恢復し給はむものと思ひ、一向に祈願しつゝ、看護に怠りなく、萬事に心を盡したるが、別に醫藥の効驗も無

◎移靈祭祝詞 用語及解釋

く心を焦し錯亂れつ、呼び申しても、一言の答もなく、トウ、再は歸り來ぬ黃泉國へ出坐ぬるア、ア、悲しきことよア悔しきことよといふ意▲年麻禰久病臥志給閉留中用毛、親族家族波、暨樂禁厭波更奈利、天地乃所在神用毛、祈奉禮與明日古曾少波、怠良米、此乃春波元乃健全體爾復其麻志奈、一向爾思比信賴、且在那留乎、遂爾果敢奈久死亡給閉留叙夢現別難部留、解長き年月御病臥なされつ、ある中にも、親族家族等は、暨樂禁厭祈禱等心を焦し手を盡せば、明日こそ少々は快方にならるゝであらう、當春は本復なされませうなど、一向に全快の事のみ思ひ信賴みて居りましたに、トウ、味氣なくも、死亡なされたれば、それが夢か現か、辨別し難いほどであるとの意、深く死を惜んだのである。○(四)然波在體行毛、現世乃事、斯久豆毛得在、其奴物爾志阿禮、暨、葬乃禮式仕奉留、依利、且今先神靈移乃御祭仕奉、瓦久乎、平介久聞食豆、解けれども、現世の習慣として、斯のまゝにても過し得ねば、葬式を奉事するによりて、今先づ神靈移の御祭仕奉ることを、安く思召しての意▲姓名親族等乃請之乃任爾齋主斗之耳、葬儀仕奉、瓦久乎、所聞食世斗、白す、如此所聞食之豆、汝命乃靈魂乎、此乃家内爾祭奉、且鎮奉、瓦止之耳、此乃靈里爾遷奉、瓦万之登、其乃行事仕奉、瓦久乎、平介久所聞召之、且、解何某親族等の請に隨

ひ、齋主となりて、葬儀の事奉仕る、それをさこしめせと白す、斯く御聽取下さる上は、汝命の靈魂を、此の家内の鎮として、此の靈置に遷し置きたくて、其の移靈祭仕奉ることをも、御受納なされとの意。○(五)是乃靈代爾奇支神靈乎、留給比、鎮給比、自今以後波、此家乃守護神止、無窮爾鎮坐彌遠長、爾伊都迦禮坐世止、齋主職位姓名、恐美恐、美母告白志奉、瓦久止、白須、解、伊都迦禮は、齋の字にて、祭祀することをいふ、加禮は子孫に對していふ、即ち、亡靈が、亡靈の子孫に、齋祀さるべしと、齋主の申すのである、他は聞えたるが如し。▲荒魂和魂分知給比、且、移里給比、留麻里給閉止、白須、解、靈魂中の荒魂と和魂とを分け給うて、其の和順なる幸魂奇魂を、移し留め給へと申すのである、他の意義は明瞭である。

移靈祭祝詞(文例)

穴阿波禮、悲志支加毛、穴阿波禮、悔志支可母、何某也、何方爾所念、食世加、現身乃惜志支、此乃世乎、退坐世留、親族家族乃心爾波、斯有良牟止波、思比掛介受、一向爾暨樂乃術乎、憑賴美、廣久厚久、天地乃神等乎、祈奉良、娶必元乃身爾成給波、牟物叙止、枕邊爾寄副比、御後邊

爾侍良比互萬爾心乎盡志奴禮杼更爾盤藥乃術母其乃驗無久息
 衝宇良夫禮都々呼備奉禮杼一言乃答太仁爲給波受遂仁歸來坐
 佐奴道爾奈毛出立坐介留阿波禮悲志支加毛阿波禮悔志支可毛
 限有留人乃命波固與利留得奴事爾志阿禮婆言牟須倍爲牟須倍
 不知爾今靈移乃禮仕奉良久乎平介久聞食互是乃靈代爾奇支神
 靈乎留給比鎮給比自今以後波此乃家乃守護神止無窮爾鎮坐彌
 遠長爾伊都迦禮坐世止齋主職名恐美恐美母告白志仕奉良久止
 白須(葬祭告詞集)

移靈祭詞用語及解釋

○(一)悲志支加毛悔志支加毛汝命乃果敢無久毛去座奴留解悲しきことよマア悔
 しきことよマア汝命の果敢無くも逝去し給ひぬることよ▲何某夜悲久母去坐
 都留加毛惜久毛身退坐都留可母(解)何某はマア悲くも去坐したことよマア惜く
 も身退坐ぬることよマアとの意夜及加毛は何れも感嘆詞である○(二)今波志毛
 奈何爾歎久止母甲斐波不有止現身乃世能慣習乃隨爾治米奉良牟止須(解)今はマ
 ア如何に歎くとも爲方はあるまいと此の世の習慣に隨ひて治め奉らうと思ふ
 の意▲斯久婆加利悔志久悲志支事爾波阿禮杼世乃習慣止然志毛得在奴毛乃爾
 志有禮婆泣久々々毛治米奉良牟止須(解)これほど悔しく悲しいことにはあれど
 現世の習慣としてこのまゝにてゑあらぬものであるから泣くくも治め奉
 らうと思ふの意○(三)故此靈代爾奇支神靈乎留給比耳永久遠久此家内爾鎮坐世
 止齋主職位姓名恐美恐美母白須(解)そこで此の靈代即ち位牌に奇しく妙なる神
 靈を留めなされて永く此の家の鎮とまして守護し給へと齋主何職位姓名恐れ
 ながら申すの意▲是乎以互真木乎精介互齋清米造利捧奉爾留靈爾爾幸魂奇魂
 留給比耳遠久久志久此家内爾鎮坐世耳永世乃家乃護止齋加禮座世止恐美恐美
 母白須(解)真木の眞は稱讚詞齋加禮は親族家人に齋祀さるゝをいふ他は聞えた
 るが如し。

移靈祭詞(文例)

何某夜悲久母去坐都留加毛惜久母身退坐都留可母今波志母奈
 何爾歎久止母甲斐波不有止現身乃世能慣乃隨爾治米奉良牟止

須。故此靈代爾奇伎神靈乎留給比耳、永久遠久此家内爾鎮坐世止、齋主職位姓名恐美恐美母白須(葬祭告詞集)

發葬祭詞(用語及畧解)

◎(一ノ一)言閉 遺息衝志久思閉 淚具麻之伎某乃命也昨日麻傳毛物學爲都々座之可(解)ことばを出さむとすれば息苦しくなり死去給ひしことを思へば涙溜りて悲みに堪へ難きその某は昨日までも學問しながら在在し、にの意◎(一ノ二)阿奈悲之伎可母痛麻之伎加毛某乃命也去年乃此頃最健夜那久耳家業波更奈利公乃事乃數々多豆佐波利耳日爾異爾勤美給比氣留乎(解)聞えたるが如し◎(二ノ一)日二日乃間御病有里止聞部留乎遠爾御病乃狀變里(解)一日二日の間御病有りと聞き居りしを遽に病狀變りの意▲近來病床爾居す止聞支之賀(解)する所なし◎(三)醫藥乃術毛禁厭乃術毛其暇無久其甲斐無久耳短夜乃窓乃燈朝風爾消豆跡無支事乃如久玉柏若葉乃露乃夕風爾阿閉受古保留々事乃如久(解)窓乃燈若葉乃露と朝風夕風及消豆古保留々何れも人の命の果敢なきことを形容したる詞である。即ち人の死の風の爲に燈の消え露のこぼるゝ如く味氣なきを意味したので

ある▲醫師醫藥波言布毛更奈里朝奈夕奈乃看護怠其受侍那流佐閉心徹其受効無久耳(解)する所なし◎(四ノ一)御齡佐閉麻陀若竹乃十餘里一二爾之耳阿多良之久毛身失給閉可毛惜久毛身退給閉留可毛(解)若竹乃唯若き意の詞阿多良志は惜むべきこと他は聞えたるが如し◎(四ノ二)父母波朝奈夕奈爾塵乎居自止愛宇都久志里生志立都々座都留心乎知耳受止也過座都留背久乃出退給閉留(解)汝命の父母は汝命に塵をも懸けまいと慈愛し養育して座し給ふ其の精神を知らずして先立ち給ひしか其の慈愛心に背くとて現世を退き給ひしか然様にてはあるまいと思へど如何にも汝命の死亡給うたことは忘れられず恨まじとの意◎(五)梅雨爾空佐閉暗伎百不足八十乃限路乎獨也出座耳半淋久也多杼里座耳半(解)これは梅雨の頃に用うる詞である八十乃限路は前の誄詞の條に解してある多杼留は案内を知らざる路を迷ひ尋ね行くこと他は聞えたる如し◎(六)是乎思閉 足引乃山子規空毛登々路爾誰可波音爾啼邪耳半誰加波悲美哭邪耳半(解)足引乃は山の枕詞登々路は鳴響く音の形容音爾啼は聲揚げて泣くこと兎は手足を悶躁なとして泣くこと誰加波云々は誰か泣かぬ者があらうか泣かざるを得ずの意▲惜斗毛遺憾斗毛爭加詞乃及倍支(解)爭加云々は如何して此の悲嘆を十

分に表すべき詞があらうか詞にては表はすこと叶はずの意◎七然波有禮祥毛
 是毛猶人乃方乃得及邪留幽冥乃神乃御業乃今波其息衝思布心乎忍比耳式乃隨
 々御祭式仕奉里今邪毛御柩波昇上奉里耳神官親族家人諸立留旗手乃列々用證
 里送里奉其武止爲留賀故用解然うは言ふもの、是もヤハナ人の力にて左右し
 得ない幽冥の神の御所爲と謂めて今は其の悲しく思ふ心を堪忍びて儀式の通
 り御葬祭仕奉り今チヤウド御柩を昇上奉りて神職親族家人諸押立奉る旗の列
 並べるが如立並び護送り奉らうとするからにの意◎八御興發志乃御祭仕奉其
 久乎竹芝乃浦乃重波平介久聞食耳玉鉢乃道乃長手乎大船乃由久羅由久羅爾退
 出座世乃畏美畏美母宣奉留止白須解御興發志乃御祭は發葬祭のこと竹芝乃は、
 浦の枕詞浦は重波をいはん爲に取出したる詞にて重波は返すくの意頻浪頻
 並などのしはく、又たびくなどの意に非ず玉鉢は道の枕詞大船乃云々は、大
 船の行くが如く静々との意である。

發葬祭詞(文例)

言閉婆息衝志久、思閉婆淚具麻志伎某乃命也、昨日麻傳毛物學爲

御々座志可一日二日乃間御病在里刀聞都留乎寢爾御病乃狀變
 里盤藥乃術毛禁厭乃術毛其暇無久其甲斐無久耳短夜乃窓乃燈
 朝風爾消豆跡無伎事乃如久玉柏若葉乃露乃夕風爾阿閉受古保
 留々事乃如久御齡佐閉麻多若竹乃十餘里一二爾志耳阿多良志
 久毛身失給閉留可毛惜久毛身退給閉留可毛知知乃實乃父乃命
 柞葉乃母乃命波朝夕爾塵乎毛居自止撫子乃花乃盛乎待給比銀
 毛金毛及奴掌乃白玉刀乃美愛宇都久志毘生志立都々座都留御
 心乎知良受刀也過座都留背久刀也退給閉留梅雨爾空佐閉暗伎
 百不足八十乃限路乎獨也出座良牟淋久也多杼里座良牟是乎思
 閉婆足引乃山子規空毛登々路爾誰可波音爾啼邪良牟誰加波悲
 美哭邪良武然波有禮祥毛是毛猶人乃力乃得及邪留幽冥乃神乃
 御業波合波其息衝思布心乎忍比耳式乃隨々御祭式仕奉里今奈
 毛御柩波昇上奉里耳神官親族家人諸立留旗手乃列々爾護里送

里奉良武止爲留寶故爾御與發志乃御祭仕奉良久乎竹芝乃浦乃重波平介久聞食耳玉銚乃道乃長手乎大船乃由々久々羅々爾退出座世乃畏美畏美毛宣奉留止白須(尊辭集百六)

埋葬祭詞(用語及解釋)

◎(一)設號乃靈前爾白左久▲姓名主乃前爾喪主姓名謹耳白左久▲是乃齋場爾昇居座奉留某乃命乃御柩乃前爾齋主某畏美畏美母白左久(解)上に出でたり◎(二)汝主波某主乃子爾志耳年號月日生出生之以下に性行學術功業其他履歷等を插入す今如此御葬乃御供仕奉里耳昇居留御柩乃前爾玉串捧奉良奉止波思波邪里支(解)汝命は(姓名)の子にして何年何月何日何處にて生出生し天性は此様で修學功業は此様でかゝる人にて座せば人皆仰ぎ尊び末頼しくこそ思ひ居りしかかくの如く御葬の御供して御柩の前に玉串を献らうとは思はなかつたこの意◎(三)御葬儀斗志耳種々乃行粧物持列並米天誘導伎奉利守護里奉里耳此乃葬場爾大柩乎昇居裏奉里耳御酒御食種々乃物乎供奉里天告奉良久波(解)する所なし◎(三)一如此居置支奉留大柩乎喪親族寄集比天慎美敬比手母柔爾持擔比

天代々乃墓地爾修成留與城爾丁寧爾殿重爾厚久固久藏奉利埋奉良久乎所聞食之諾比賜反斗白須(解)開わたるが如し◎(三)二式乃隨爾葬事奉仕留斗爲耳御食物種々貯備耳各毛各毛拜美奉留狀乎甘爾開食耳與都城所爾遠永爾安穩爾鎮坐世斗謹美耳白須(解)する所なし

葬場祭詞(文例)

是乃齋場爾昇居座奉留某乃命乃御柩乃前爾齋主某畏美畏美母白左久汝命也天性直久正志久賢志久耳甚穩志久座世與久父母乃命爾仕閉物學怠無久勤美座志耳千世乃白菊千秋五百年花乃盛波香細久置渡須露乃白玉美志久月爾年爾加波留御齡加波留御儀乎古會天津水仰伎待志可思比伎也今如此御葬乃御供仕奉里耳昇居留御柩乃前爾夏菊乃花折手向夏艸乃露乃玉串捧奉良奉刀波墨田川岸打波乃返々毛波可無伎波現身乃人世奈里那利今道乃隈々恙事無久送里奉利耳是乃地乎與都城乃底津磐

根爾鎮米奉里收米奉良牟止爲留賀故爾御酒御饌種々乃机代乃物乎捧奉利互拜美仕奉留事狀乎美良爾聞食宇豆乃比給比且下津磐垣動久事無久靜介久安介久鎮里座世刀佐美太類々空乃雨雲於保々志伎心那賀良爾雨刀降留袖乃淚乎搔拂比都々悲美慨可比毛恐美恐美毛申須諱辭集百七

戰病(死)者葬祭詞(吊慰祭准之)

◎(一)是乃招魂社乃與能神座爾今度新爾合祀座奉虛留掛卷母恐支某命乃御前爾謹美且白左久(解)之招魂社の與の神座に今度新に合祀せられた處の畏多き某命の御前に白すの意▲是乃所乎假能齋場刀選定米天暫時安米座奉留某命與里始米且何百何十名乃將士達乃御柩乃前爾白左久(解)是の所を今假の齋場と選定して暫時安座し奉る某命より何百何十名の將校士卒の御柩の前に白すの意▲海(又は陸)軍官位勳等功何級姓名命乃英靈乃大前爾謹美敬比且白左久(解)する所なし◎(二)海行可渡水漬久屍山行可渡草生す屍刀渡大伴佐伯乃祖神能御訓爾氏遠使神代乃古語奈重斗母今乃現仁思比思布波汝命等乃御上奈里介利(解)海行か

ば云々の歌の解は上の戰勝祈願祭詞に出でたりこの歌は實に遠き上古に訓示せられた歌なるがそれを現在事實の上に觀るは洵に汝命等の御上であるとの意奈里介利は解釋の意を表はす詞であるが又感嘆の意も含まれて居るのである▲天皇乃大御命以耳任給比依給爾留隨千萬乃軍那里止毛言舉世受取耳來万之刀劔太刀利心振起之耳進美向比給爾利之汝命等乃(解)天皇の下し給うた宣戰の大詔は露國と戰爭の事を御命と遊ばされたに依つて汝命等は幾千萬の大軍でも否と言はず捕つて來やうと劔の如き利き大和魂を振起して進み向ひ給うた汝命等のといふ意▲汝命波(生)國家系性質學歴官職出征月日師團大隊連隊中隊戰功場所度數爾且坐志那留乎何年何月何日何處爾戰(或は病)死給比奴留波悲志止母悔志登母情乃狀乎表波左牟語毛無志(解)する所なし▲(二)曾母汝命等乃皇乃御爲國能爲忠爾貞加仁其負持且留職乃任天皇乃御命畏美無禮支魯國乎討懲佐牟止戰場爾進美向比給布途中爾且由久里無久敵艦乃砲彈爾當里耳果敢無久母海乃藻屑止消延給比志波悲志止毛憤呂志止毛言波牟術無支(解)さてマア汝命たちの尊皇愛國といふ誠忠に軍職に御身を委ねられ今回宣戰の大詔下るや大命を畏多きこと深く感銘し給うて無道の露國を膺懲す目的で戰場に向ひ給

戰(病)死者葬祭詞 用語及解釋

ふその途中不意に敵の軍艦から撃出す砲弾に當つてあえなくマア海の藻屑と消え給うたのは悲しともイマ／＼しいともマア何といはるか云ふ言端もないとの意◎然波有禮村汝命等乃神靈添延波可海陸乃大御軍波戰闘波提知攻半重波取里耳大御藤乃向布極美大御艦乃進半限里靡可奴方无久伏呂波奴方母無那波汝命等母天翔國翔里見遣坐耳思比乃籽米給布耳半解されば汝命等の神靈の幸に因つて海陸の大軍は戦へば必ず捷ち攻むれば必ず取りかうして大鷲の向ふ所軍艦の進む限り靡かぬ方も無く降伏せぬものも無いから汝命等も天空を翔り見遣つて慰めらるゝであらうといふ意▲然波有禮村毛汝命等乃御行動波軍人乃船艦耳萬世乃後乃世麻傳毛稱聞都可久世乃人廻仰奉留毛道理奈里解左様に悲しい事にはあれど汝命等の御行動は洵に軍人の船艦にて萬世の後にも傳へ稱すべく世の人の仰奉るも道理なりとの意▲然留故爾天皇朝波今度酒戰乃功用依里且之汝命用勳何等功何級何々勳章乎授那耳電位乎何位用陸勳給布等貴久辱支極用耳汝命乃光榮此余無久盛奈留波更奈利會連現世乃美加世人乃船艦斗高支其乃名譽波正史爾傳送耳幾千代經止母消廷奈麻自解斯くの如くに偉大なる勳功有る汝命であるから朝廷にても今度の戦役の功に依つて汝

命に勳何等功何級と而して何々勳章を授けられ又位を何位に昇せ給ふなと貴く辱い極で汝命の光榮の盛なるは勿論うれが唯に現世の事はかりでなく世人の船艦と仰がるゝ處の高い名譽は正史に載せ傳へて幾千代經過しても消えまいと思へば洵に自出度事の限なりとの意▲是乎以耳大御朝廷爾母既久其乃功勞乎思召耳或波官等位階乎陸進米或波勳章年金乎母授賜比耳廣久賞給比勞波里給爾留大御惠波現世爾遺里留禮留親族等母上無支名譽乃恐美奈奉留乎汝命等波如何爾心足耳比爾思召耳半解そこで朝廷にても既にその功勞を偉大に思召して官等や位階を陞せられたり勳章や年金を下さるなと種々重々に賞與し慰勞し給ふ深き御惠を現存せる家族の方が非常にこの上なく光榮として居るを汝命等は如何に思召すか定めて御満足に思召すであらうの意◎四斯久耳今日波母其乃御心乎思比爾備其御功乎仰聽貴備奉留賀故爾御葬乃儀乎陀仁殿之久美波之久修米奉耳半止親族共及同僚乃人等相謀里耳解斯くして今日ハマア其御心を思ひ偲び其御功を仰ぎ貴び奉るについて御葬儀の式を嚴肅鄭重に修め奉らうと思つて親族や生前朋友であつた人等相談しての意▲式乃隨爾御僕物乎進耳各母各母拜美奉留狀乎甘耳爾聞食耳解する所なし▲大御使乎

◎戰病死者葬祭詞 用語及用釋

始且内外乃貴顯等見知留人聞知留人用至留万傳參拜美奉留狀乎母天翔國翔留
 汝御魂等相宇豆那比聞食且解御勅使を始め内外貴顯の人等凡べて汝命の見知
 らるゝ人等の參拜して偲び奉ることを天に在し地に在す汝神靈の御受諾遊ば
 しての意◎(五)此乃某乃奥都城所爾安久穩爾鎮麻里坐世止姓名或は喪主某爾代
 里且謹且告奉其久斗白寸(解)此の何といふ墓所に安穩に鎮座し給へと姓名或は
 喪主某に代りて謹んで告奉ると白すとの意▲罷坐半道乃程後輕久恙波或奥津
 城乃底津岩根乃常斯爾動久事無久變留事無久鎮万里給閉止悲美母白須(解)死
 して出行き給うらむ道のほど心を後に遺さず無事にて而して此の墓所の底の
 岩根の常磐に動かぬ又變らぬ如く永久に鎮坐し給へと悲みながら白すの意▲
 阿波禮汝命等也其身已曾與津波往支且歸其爾高支功芳志支名波何時乃世爾可
 波消延果郡可支故上津世乃古語乎思比偲比且且々母誅奉留乃狀乎安其久
 聞食世止姓名謹美且白須(解)ア、汝命等よ其の御身こそ何れか遠くへ行いて還
 り坐さずあらう。されどりの高い勳功や芳しい名譽は何れの世に消え果てやう
 か消えはせぬ。そこで上古の古語をも思ひ浮べて、一片の誅語白す狀を安く御聞
 取り給はれと姓名謹み白し上ぐとの意▲故神酒神饌魚菜種々乃物平備過奉利

且汝命乃親族家族乎始米舊友同僚等男女參來集比且御祭仕奉利拜美仕奉其久
 乎平介久安介久聞食受給閉止某謹美敬比且白須(解)聞えたるが如し。

常陸丸殉難者葬祭詞(文例)

阿波禮近衛後備步兵第一聯隊長陸軍歩兵中佐正六位勳三等功
 五級須知源次郎乎始米氏六百三十五人乃將士等乃御極乃前爾
 齋主正五位金子有道悲美母白左久。天皇乃大御命以且任給比依
 給閉留隨千萬乃軍那里止母言舉世受取且來万之止劔太刀利心
 起志且進美向比給閉里之汝命等乃由久里無久母思乃外奈留禍
 事爾身退給比之波悲之刀毛憤呂之止母云牟須陪無久爲牟須陪
 無祢禮村汝命等乃御靈添閉婆可海陸乃大御軍戰閉婆捷知攻牟
 禮婆取利且大御靈乃向布極美大御艦乃進牟限里靡加奴方無久
 伏呂波奴方無支乃美爾非受此頃波志母彼乃敵止母敵止恨美之
 軍艦左閉打破里打沈米奴止聞祢禮婆汝命等母天翔里國翔利見

行之且少波思比乃杼米給布良牟加久且今日波母其乃御心乎思
比德備其御功乎仰支畏美奉留賀故爾御葬乃儀乎陀仁嚴之久美
志久修米奉良牟乃親族共及同僚乃人等相謀里此青山乃假乃
齋場爾御柩乎護送來氏御饌御酒種々乃物共乎捧奉里氏御祭仕
奉里又大御使乎始米且内外乃貴顯等見知留人聞識留八爾至留
万傳參拜美奉留狀乎母天翔國翔留汝御魂等相宇豆那比聞食且
罷坐牟道乃程後輕久恙波受奧津城乃底津磐根乃常之閉爾動
久事无久變留事无久鎮万里給閉刀悲美母白須。

戰死者葬儀誄詞(文例)

阿波禮雄々敷加母阿波禮傷敷加母言卷母由々敷某乃命乃棺乃
御前爾齋主某慎美敬比且白左久命賀軍乃御裝猛久雄々之久日
本雄心振起之稜威雄詰踏猛比且出立坐志與里家族親族諸凱旋
乃聲勇之久還來坐佐牟事乎之指折數閉都々待介留爾今將斯留

辨志斗波如何傳思波牟會母此度乃戰伊北爾隣世留魯西亞乃國
乃我寶皇大御國爾對比且禮無久奈米伎行爲乃多加里介禮樂掛
卷母畏伎天皇陛下波去爾之二月十日愈大御軍乎起志戰乎開久
辨支大詔乎宣良世給比之爾奈母故軍人諸波皇賀大命乎畏美且
家乎忘禮妻子乎置伎已賀身乎願美須唯一筋爾御國乃爲大君乃
御爲斗進戰比上代乃益荒健男乃伴男乃言傳來志海行加婆水漬
屍山行加婆草生屍額爾波箭波立刀毛背爾波箭波不立斗云布言
乃如久忠爾操爾武久雄々志久大海原爾波大艦小艇打列並米陸
爾波大砲小銃音母轟爾競進美且敵人乎獎坂乃尾每爾追伏世河
乃瀨每爾追撥比此處彼處挑戰布中爾命波殊更爾心正之久行直
久諸乃軍務違布事無久過都事無久動勞都々何月何日何々斗云
地爾且勇戰比給比之折可惜之久母悔之久母醜乃敵共乃打出須
銃丸波由玖理奈久母命爾中理且軍醫看護卒賀厚伎心盡乃甲斐

母無久負比給比之痛手爾堪得須玉緒波果敢無久絕衣且遂爾名
 譽有留打死乎爲給比之波古乃健伎武夫爾母優禮留御事業爾且
 其乃御名波遠伎後乃世爾母言繼伎語傳閉且末々乃軍人乃鑑爾
 古會然者有禮杆有留賀上爾母高伎功績有禮加志恙無久還來坐
 世加志斗朝爾夕爾思賴米之家族親族乃人々乃心夜如何爾去禮
 杆斯豆在留辨伎事奈良爾婆現世乃例乃隨爾命乃御亡骸乎婆遠
 永爾朽世奴御名爾省衣且常磐乃松乃廣伎厚伎板爾収奉里公乃
 司々乃人々乎始米家族親族朋友諸々後爾列並美送奉利且葬儀
 仕奉良久斗供奉留海河野山種々乃物乎平介久安介久聞食之且
 家内波更奈利軍人諸乎母守護幸閉給閉斗畏美畏美母白須。

戰死者葬儀出柩祭詞(文例)

健久雄々志久高久貴伎某命乃御柩乃御前爾齋主某慎美畏美母
 白須言卷母畏伎天皇陛下波敷坐世留食國乃中波更奈利天下四

方乃國々爾波喪無久事無久有良志米牟斗夜晝大御心乎碎加世
 給閉留乎禮無伎露西亞乃國波常爾大御心斗違比奉里奈米伎行
 爲乃美多加里介禮婆去之二月十日宣戰乃大詔乎下佐世給比陸
 海諸乃軍人波大命乎畏美唯後禮自斗進爾進牟中爾汝命等波第
 ○軍爾從比彌先爾大和男子乃手並乎彼乃國人爾示之給比轉留
 也韓乃國與里諸越乃滿州乃野爾進美給比且戰閉婆勝知攻牟禮
 婆取留天布古乃健伎軍士乃人々爾母劣良須規律正之久任務違
 閉須諸乃兵士等乎婆惠勞里上斗下斗乃覺母優禮且勇戰比進給
 布中爾如何奈留禍事乃真率里之爾夜何々乃處乃戰爾身死里給
 比之波勇之久雄々志伎限爾波有禮杆哀志久傷志支事爾古會故
 御亡骸乃到達奴禮婆軍乃司人乎始米且喪主親族諸打集比葬祭
 仕奉良久斗此乃處乎齋庭斗拂清米且遷靈祭母事畢奴禮婆今之
 御柩手御車爾戴世奉良久牟斗終乃御祭仕奉良久乎平介久穩爾聞

食之、且、敷島乃、大和益荒男乃、彌麗志久、名譽有留、香志支、御名乎、永
支、後乃、世乃、形見斗、内外乃、國々爾、麻傳、殘置支、且、後母、輕久、行先、母
安久、出立、世給、閉斗、御前、爾、御酒、御食、種々乃、味物乎、供奉里、且、白須
事乃、由乎、平介久、安介久、聞食志、諾給、閉斗、白須。

歸家祭詞(用語及解釋)

◎(一)此乃、小床、爾、坐、奉、里、齋、奉、禮、留、諡、名、乃、靈、前、爾、白、左、久、▲姓名、主、乃、御、靈、乃、前、爾、喪
主、姓名、謹、美、且、白、左、久、◎(二)汝、主、伊、不、思、外、爾、身、罷、坐、之、奴、禮、婆、家、內、舉、耳、惜、美、悔、美、奉
留、乎、以、耳、固、與、利、願、布、爾、入、有、爾、村、世、乃、慣、登、默、止、毛、敢、有、爾、婆、今、日、乃、日、時、乎、以、耳、與
都、城、所、爾、恙、事、無、久、送、奉、利、奴、(解)汝、命、が、不、意、に、逝、去、し、給、へ、る、は、家、內、の、者、の、悉、く、惜
み、悔、しく、思、ふ、所、に、て、御、骸、を、墓、所、に、葬、る、こ、と、は、固、より、願、ふ、所、に、あ、ら、ず、永、く、久、し
く、我、家、中、に、置、さ、た、く、は、思、へ、ど、人、世、の、慣、習、と、し、て、然、留、置、く、こ、と、も、な、ら、ね、ば、今、日
の、何、日、と、い、ふ、日、の、何、時、に、御、墓、所、に、無、事、に、送、り、奉、れ、り、と、の、意、◎(三)今、志、葬、乃、禮、事
洩、留、事、無、久、落、留、事、無、久、事、畢、反、都、禮、婆、(解)す、る、所、な、し、◎(四)後、取、收、米、耳、祓、比、清、米、耳、御
祭、仕、奉、留、斗、之、耳、(解)凡、へ、て、觸、穢、の、物、等、取、片、付、け、清、祓、し、て、葬、後、の、靈、祭、營、む、と、し、て

の、意、◎(五)御、酒、御、饌、洗、米、堅、鹽、鏡、餅、甘、菜、辛、菜、大、魚、小、魚、爾、至、留、迄、爾、百、取、乃、机、爾、置、足
波、之、耳、供、奉、留、乎、甘、耳、爾、安、耳、爾、所、聞、食、之、天、(解)堅、鹽、は、土、器、に、盛、り、堅、め、た、る、鹽、甘、菜
辛、菜、は、前、に、出、で、た、り、百、取、乃、机、と、は、種、々、數、々、の、物、を、居、並、ぶ、机、の、意、甘、耳、爾、安、耳
爾、の、良、は、強、辭、に、て、甘、く、又、安、き、狀、を、い、ふ、の、で、あ、る、▲御、食、御、酒、乎、始、種、々、乃、物、乎、進
耳、拜、美、奉、留、狀、乎、字、牟、加、志、止、聞、食、耳、(解)字、牟、加、志、は、悅、ぶ、又、うれ、し、な、ど、と、い、ふ、意、の、
お、ひ、か、し、に、同、じ、他、は、聞、ぬ、た、る、が、如、し、◎(六)此、乃、家、乃、守、護、神、止、坐、之、天、家、內、上、我、上
下、我、下、爾、至、留、迄、爾、恙、志、支、事、無、久、煩、之、伎、事、無、久、五、十、檀、八、桑、枝、乃、如、久、立、榮、延、之、米
相、集、反、留、親、族、等、乃、末、幸、久、時、々、乃、御、祭、美、之、久、仕、奉、耳、之、米、給、反、斗、白、須、(解)此、の、家、の
守、護、神、と、し、鎮、座、し、て、家、內、の、上、下、災、難、病、氣、な、く、繁、茂、せ、る、彌、木、榮、の、如、く、子、孫、繁、殖
し、榮、え、さ、せ、集、ま、れ、る、親、族、等、の、行、末、幸、福、に、て、時、々、恒、例、臨、時、の、御、祭、事、善、美、に、營、ま
し、め、給、へ、と、白、す、と、の、意、▲遠、永、爾、家、乃、鎮、斗、鎮、坐、耳、守、幸、開、給、閉、斗、謹、美、且、白、須、(解)永
久、に、此、の、家、の、鎮、と、鎮、座、し、て、守、護、し、幸、福、あ、ら、し、め、給、へ、と、謹、み、て、白、す、と、の、意、

歸家靈祭詞(文例)

是、乃、與、床、乎、拂、比、清、米、耳、座、奉、里、鎮、奉、留、某、乃、御、女、某、乃、神、靈、乃、前、爾

某畏美母白左久。汝命乃由久理無久。幽冥爾出座都留事波。山城乃淀乃川波返々毛。岸乃堤乃下悔志久。小田乃水口口惜介。柳毛川舟乃小船乃綱手引返須倍。伎事量毛有受。爲牟須倍乃多杼伎知。爾結保禮多留心乎。鎮米豆今日乃御葬式波。仕奉留刀。天雲爾旗手靡加志。朝風爾笛吹鳴志。都路乃大路乎打過。墨田川堤乃長手列々爾。柳乃青葉搔久事無久。結布木綿垂亂留々事無久。式乃隨々仕奉里收米奉里豆。今是乃本乃館爾歸里。參來奴。故神靈乃前爾其狀乎。告申志。靈乃御祭仕奉留止爲豆。奉留宇豆乃御幣。御饗乃物等持捧介。具閉奉良久乎。美志久聞食豆。宇豆那比給閉刀。神官諸。白妙乃袖搔列爾。祭場乃庭雀宇受久。麻利居豆。恐美恐美毛。白須。諄辭集百八。

十日祭詞(用語及解釋)

○(一)此乃家祖與能真床爾鎮座里坐須某命乃御靈乃前爾姓名懼美懼美毛白左久(解)此の家の奥の清淨神靈なる床に鎮座し給ふ某命の御靈の前に姓名恐懼みつ

白すの意にて真床の眞は稱讚詞である。是乃小床爾座奉利鎮奉留某命乃靈乃前爾某畏美畏美母白左久(解)小床の小も眞床の眞と同じく稱讚詞他の意義は聞わたるが如し。○(二)汝命乃逝去給比志波眞爾夢爾夢視志心地奈親族家人波猶現存須毛乃止思比惑比天在存志世乃事繰返之都々月日流直且今日波早十日止云日爾成爾那利(解)存在志世乃事云々は亡者の此の世に現存されし時のことを斯くもあり斯うもありきなど亡者の經歷をしのび談ずること他の意義は明瞭ならむ。▲昨日古曾御病乃狀變里且親族毛心空爾驚支惑比若竹爾吹朝風乃願伎立志可昨日古曾玉緒乃緒絶座奴止家人波爲牟須倍知其爾悲美歎支互雲居行久山子規叫哭志可日波流直且今波志毛早久毛十日止云日爾成爾那利(解)心毛空爾云々はあやりのことに氣も心も失せて何事も手にも附かず心にも附かぬこと志可は古曾の結詞玉緒は絶の枕詞絶座云々は命の絶ゆるをいふ。知其爾は知らずの意。山子規云々は親族家人の哭すること。山子規のうれに似たるをいふ。若竹爾吹朝風乃は騒ぐの序他は聞えたるが如し。○(三)親族家人諸賀朝夕心佐夫志美在志世乎思出都々一向爾戀奉里忍奉留心々波日爾添且繁留夏柳爾深久忘留方無久慰幸術無久宇羅夫禮耳乃美在留物可其定爾留式乃隨々(解)親族

○十日祭詞 用語及解釋

家人等諸人が朝夕心淋しさに存在せし世の事を思ひ出で、一向汝命を懸忍ぶ心が日に添ひて、繁る夏艸の如く彌々深く懐ひ沈みて慰む術なく、愛へ迷ひてのみ在りながらも、定まりてある式によりての意(四)親族家人乎始米友人等參來集比且御祭仕奉利拜美仕奉瓦久乎相宇豆那比給比且意義明瞭▲今日乃御祭式仕奉留止志且御酒御饌山野海川乃物等乎例乃任々捧奉里且玉串乃取々拜美奉里仕奉留事乃狀乎阿波禮止毛宇禮志止毛宇豆那比聞食且解今日の十日祭奉仕する爲御酒御饌山野海川の物等を例によりて獻へ奉りて玉串を手に取持て捧奉る各自各心の心を盡しもて拜み奉ることの狀態を阿々殊勝なり嗚呼嬉しと思召御受諾下されての意(五)幽冥乃神乃御許爾鎮座須幸魂奇魂乃御靈乃幸比乃豫且現世爾座留時乃聰久賢久直久穩志支御心那賀其父母乃命又親族乃主等乃現御業乎阿那々比助介仕奉里給比家人男女乎毛憐美給閉止齋主某字那加夫志部々畏美畏美母白須(解)幽冥乃神乃御許爾云々は人の亡魂即ち神魂は冥府に入りて、幽冥神の御許に其の支配を受くるものなりといふが其の幸福を與へ給ふ靈と奇しく妙なる作用の靈と會て現世に生存し給ひし時の聰明賢良正直温順なる御心の隨にて汝命の父母又親族の主人等が執る所の現世の事

業を補ひ助けて事へ給ひ家人下婢をも憐み給へと齋主某頂を下げて恐れくて白すの意これは子女たる人の幼稚なるものに用いたのである故に「父母乃命」とか「仕奉里給閉」とかの詞があるのである幸魂奇魂は前にも解きたり聰久云々も人によりて用語異なることと知るべしなほ誅詞の條を參考すべし阿那々比は補助すること宇那加夫志はうなじをかたむくること又憂慮の意もあり▲家乃鎮米止彌遠永久鎮麻里座志且親族乃家業乎阿奈々比給比子孫乃八十連屬用至留麻傳喪無久事無久立築延志米給閉止畏美畏美母白須(解)家の鎮とし永遠に鎮座し給ひて親族等の家業を翼護し子孫の多き系統の永々末々に至るまで災難なく繁榮せさせ給へといふ意である。

十日祭詞(文例)

是乃小床爾座奉里鎮奉留某乃命乃靈乃前爾某畏美畏美母白佐久昨日古會御病乃狀變里且親族心毛空爾驚支感比若竹爾吹朝風乃騒伎立志可昨日古會玉緒乃緒絶座奴乃家人波爲半須倍知良爾悲美歎支且雲居行久山子規叫毘哭志可日波流波且今波志